

入タラス其商人タルニハ能力ヲ變換セサル可ラス而ノ能力ヲ變換ス
 ルハ是レ固ヨリ民事上ノ問題ナリトス且幼者商業ヲ爲スニハ其時
 機ヲ計ル可キノミナラス別シテ其社會ニ在テノ地位ノ總摸樣ヲ斟酌
 セサルヲ得ス故ニ民事裁判所ノ此事ノ掛タルハ至當ト謂フ可シ法典
 ニ據ルニ許諾ハ豫メ之ヲ爲サザル可ラズト云ヘリ若シ之ヲ與フル
 契約ノ條ニ在ルハ其許諾ハ其契約ニ付テ効無ク其契約ハ取消シト
 ナラザルヲ得スバルトツシユ一第六十一ブラウ一是ヲ以テ許諾ノ
 事ハ必ス公明ナラザル可ラサルモノトス何トナレバ凡ソ默許ナル者
 ハ契約後ニ非ザレバ無キモノナリ蓋シ契約ヲ取結ヒタルヲ知テ而
 之ヲ認承スル是レ之ヲ默許ト謂フバルドツシユ一第五十八ブラ
 ハ則チ幼者商業ヲ爲シ父母之ヲ知ルヲ以テ其明許ヲ爲シタリトスル
 ナ得ス又親族會議ニ於テ幼者ガ其契約ニ差向ケ且其從事スル所ノ商

業ヲシテ利益ノ多カラシメンガ爲メ不動産ヲ賣拂フヲ承諾シヌリ
 ト雖厄之ヲ以テ彼ノ許諾ヲ與ヘタル者ト爲スヲ得可ラス 一千八百
 一月二十六日ブルシユ控訴院判決ダロ一

此許諾ノ事ニ付テハ一モ定マリタル法式ナルモノ無シ唯書面ヲ以テ
 之ヲ與ヘザル可ラストスルヲハ衆說ノ同意スル所ニシテ此許諾ノ事
 ハ之ヲ簿冊ニ登記シ揭示セサル可ラザルモノナレバ又疑フ容キ所無
 シトスバルトツシユ一第五十八ブラウ一第一篇第七十五丁アロ
 シトス一第七十三〇ベスレ一第二百十三及ヒビナーシ一民法訴訟
 法辭典ハ此証書然レ厄此書面タル亦二三ノ法式ヲ要ス可キ乎若シ親
 族議會ニテ許諾ヲ與ヘシキハ議長タル治安裁判官ノ製シタル調書ハ
 即チ公正証書タルヲ以テ議論ノ生ヌ可キモノナシ又父若クハ母ヨリ
 之ヲ與ヘントスルキハ治安裁判官若クハ商事裁判官書記ノ面前ニテ
 記載シタル証書或ハ公証人ノ製シタル証書ヲ以テ之ヲ與フルヲ得

可シ今私製証書ヲ以テ右許諾ヲ爲スヲ得可キヤト云ハノニ二個ノ理由ニ因リ之ヲ疑フ者アリ第一ノ理由ハ此証書ニハ他人ニ對シテハ慥カナル日附無カル可キ是レナリパルドツシユ第五十七然レ此証書ハ之ヲ公ケニセザル可ラザルニ因リ裁判所ノ簿冊ニ登記ス可キヲ以テ慥カナル日附アルニ至ル可シ下文第四要件ノ處參看又第二ノ理由ハ私製証書ナル者ハ信ヲ措キ難キモノニテ常ニ之ヲ與ヘタルヲ覺ヘ無シト云フヲ得可ク又其實許諾ヲナス可キ者ノ手署シタル者ニ非ザルヲアル可キ是レナリ然レ此公ケニス可シトナスハ此ノ如キ不都合ナル事ヲ矯正スルヲ得可シ以上論ズル如ク豫メ計策ヲ爲スハ私製証書ト雖モ十分用ヲ爲スニ至ランパーリー第二百七十七ベダリ九ブラウワール第一篇第七ド第八十七マツセ第一千三十四丁アローゼ第四十三法律ニ於テ一種ノ商業ニ付キ特別ナル許諾ヲ與フルヲ必要トセザ

ガ故ニ此事ニ關スル法律ハ一般ノ者タルヲ知ル可シ 一千八百二十八年八月十一日カ

府控訴院判決マローズ法規

彙纂商人ノ部第一百四十三

然リト雖モ其許諾ハ又特別ナルヲ得可キモノニテ用心深キ父母ハ

特別許諾ニ非ザレバ與ヘザルヲアリ可シ第三條ニ於テ一事件ニ付テ

許諾ヲ爲スヲ許スヲ以テ之ヲ觀レバ一種ノ商業ノ爲メニ之ヲ與フ

ルヲ得可キハ固ヨリ明カナリトスパーリー第二十七ベダリ第八十七マツセ第一千三十九ブラウワ

ール第七十四丁ア

ローゼ第四十三

(論)父幼者ト組合ヲ爲スハ目的ニテ父ヨリ許諾ヲ與フルヲ得可キ平一

第一説バ以テ然ラストセリ曰ク格言ニ云フ何人ト雖モ己レニ關スル

事件ノ爲メ他人ニ許諾ヲ與フ可ラスト父許諾ヲ與ヘテ利益ヲ受クル

トアリ故ニ子ノ財産入用ナルキハ之ト組合商業ヲ爲サント欲スルヲ

アル可シ 一千八百六十九年八月十六日ドローエー控訴院判決ダローズ
判決類聚第七十卷第二部第八十八丁等○ドマンシャープラ
ウツール評第一篇第五百二十二丁アローセ第百五十○若シ此説ヲ可ナ
リトセハ毋若クハ親族會ノ許諾ヲ以テ父ノ許諾ニ缺クル所ヲ補足ス
ルヲ許ル可ラズアローセ同上

○反説バリーリ二百六十九

第二説ニ於テハ之ヲ然リトシ(可)曰ク許諾ハ組合商業ノ爲メニ直接ニ
必要ナルモノニ非ズ抑モ此許諾タルヤ商業ヲ爲スニ付テノ一般ノ能
力ヲ與フルモノナレバ子ニ於テ他人ト組合ヲナスモ固ヨリ可ナリ(下
文第八十八)然ラハ則チ父タル者一事件ニ付キ一方ニ於テハ自己ノ爲
メニシ他ノ一方ニ於テハ子ノ爲メニシ相抵觸スル二個ノ職務ヲ爲ス
モ不都合アルヲ見ス而シテ一旦商業ヲ爲ス許諾ヲ受ケタルハ父
ト約定ヲ取極ムルハ其自由ナル可シ夫ノ父ニ存ス可キ原因ノ如キハ
顧慮スルニ足ラス法律ハ父ニ信任ヲ置クナリ又若シ父ノ許諾ニシテ

危険アリト云ハバ凡ソ其許諾ハ皆危険アル可シ豈唯其子ト組合ヲナ
ス時ノミニ止マランヤ譬ヘバ父容易ニ賣切ルヲ得ザル商品ヲ子ニ
賣拂ハシムル爲メノミニ許諾ヲ與フルコトアル可ク又父カ組合ヲナサ
ントスル子ノ商業出入相償ハザルニ付キ其兄弟ノ財産ヲ以テ其不足
ヲ補ハンガ爲メノミニ許諾ヲ與フルコトアル可シ而シテ此等ノ場合ニ
於テ其許諾ヲ取消スコトヲ得可ラズ又第二條制定ノ時幼者ノ商入トナ
ルハ數々正當ナル利益アルガ故ニ之ヲ許スニ決シタルハ確明ナルモ
ノ、如シ又其利益アル例トシテ幼者ガ父ト組合商業ヲ爲シ若クハ其
相續人トナル場合ヲ舉ケタルモノアリキマツヒ第一千四百七十七條第
二十八及ヒ詐偽ノ意ヲ以テ許諾ヲ與ヘタルハ民事上ノ償ノ名義ヲ以
テ子トノ關係上ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得可シ然レモ之ヲ取消スニ因
リ善意ニテ子ト約定ヲ取結ビタル他人ヲ害ス可ラズ

ヒ第七第一千二百三十七及 但シ將來ニ向フテノ許諾ヲ取消スモノトス

〔第八十一號〕 第四 許諾ヲ受ケタルヲ公ケニスル事 之ヲ公ケニスルニハ裁判所ノ書記局ニテ其由ヲ簿冊ニ登記シ且審問所ニ揭示スルナリ 揭示ハ一年間存シ置モノトス 訴訟法典第八百七十二條ヲ推及シテ斯ク認定スバルトツシユ一第五十七モリニユ一第百五十アロー

セ第四十四〇パーリ一ハ獨リ之ヲ幼者ノ丁年ニ至ル迄存シ置ク可シト云ヘリ 此主意タル幼者他人ト契約ヲ取結ハント欲スル時己レガ能力アルヲ之ニ証スルノ煩ヲ省カシムルニ在リ而ノ他人ハ之ニ因リ幼者ニ能力アルヲ知ルヲ以テ之ト自由ニ約定ヲ爲スヲ得可キニ因リ諸商賣ノ事ヲ爲スニ無用ノ時日ヲ費スヲ無カル可キナリ 又右許諾ノ事ヲ公ケニスル處ハ商事裁判所ニシテ其裁判所ハ幼者カ住居ヲ定メント欲スル地ノ裁判所タル可ク〔第二條〕以前其住居シタリ

シ地ノ裁判所タル可ラス而ノ其許諾ノ事ヲ知ルニ付テ利益アル者ハ右裁判所ニ至ラハ容易ニ之ヲ知ルヲ得可シ

〔第八十二號〕 (論)許諾ハ取消スヲ得可キ乎民法典(第四百八十五條)ニ據レハ幼者義務ヲ滅セラレタルキハ後見ヲ免レタルヲ取消スヲ得可シ然レト是レ唯民事ノ契約ニ於ケルニ過キザルノミ何トナレハ則チ商業上ノ契約ニ付テハ然ルヲ得可ラザレハナリ(民法典第四百八十五條)民法典第六條若シ此ノ如ク後見ヲ免レタルヲ取消スキハ彼ノ許諾ヲ受ケタルヲモ亦消滅シテ幼者ハ商業ヲ爲ス能力ヲ失フ可シ然ルニ或人ハ民法典第四百八十五條ヨリ生ズ可キ此ノ如キ結果ハ今此ニ論ズル事ニ適用ス可キモノニ非スト説キ其故ハ他人ハ幼者確定ノ地位ニ付テ計算ス可キ者ナレハ許諾ノ事消滅スルニ至ラハ必ス損害ヲ受ク可ク而シテ民事上ノ義務ヲ滅セラレタル幼者ハ商業ノ事ニ

付テハ十分才能アリ且巧者ナルヲアル可ク又第二條ハ商人トナルニ
 ハ後見ヲ免ル、トテ必要トスレモ商人タルキ依然商人タルニ之ヲ必
 要トシタルヲ無シベスレ第二十二ト云ヘリ然レモ義務ヲ減スルヲ
 ナ判定スル裁判所ニ於テハ他人ノ利益ニ付テ酌量スル所アル可ク又
 後見ヲ免レタルヲ取消ス事ハ許諾ノ事ヲ公ケニスルト同一ナル要
 件ニ循フ可シ法典ニハ之ヲ記載セズト雖モ許諾ノ事ト全様ナリト云
 フヲ以テ論スルキハ右要件ニ從フ以上ハ其取消ノ事ヲ許スヲ得可
 シ又民事上ノ義務ヲ減セラレタル幼者其商業ノ管理方ニ於テ毫モ答
 ム可キ處無シト云フハ甚ダ信ヲ置キ難キ説タリ且第二條ニ於テハ商
 業ヲ爲ス爲メニハ後見ヲ免ル、トテ必要トセリ然ラハ則チ商業ヲ繼
 續スル爲メニモ亦同様ナラサルヲ得スパルト第五十八ナリ
ヤール管轄論第百五、ターギエ

一 商事裁判論第二百四十九丁モリコエー 第一百五十七ダローズ商人ノ
 部第百五十九ベタリト第九十六マツセ 第一千四十二ブラウロール
 第一篇第八十六丁
 アローゼ 第五十四

(論)直接ニ許諾ノ事ヲ取消スヲモ得可ラサル乎蓋シ若シ幼者ニ於テ價
 額ノ多キニ過キタル民事ノ契約ヲ爲シタルカ或ハ後見ヲ免レタルヲ
 ナ取消ス可ラサル場合タル婚姻ニ因テ後見ヲ免レタル如キヲアリテ
 民法典第四百八十五條ヲ適用ス可ラスシテ且幼者無經歷若クハ無能
 カニテ商業ヲ爲スヲ得ザルノ証據アリシキハ右取消ノ事ハ甚ダ有
 益ノ者タル可シ余輩ハ此取消ヲナスヲ得可シト信ゼリ其故ハ總テ許
 諾ナル者ハ之ヲ取消シテ既得ノ權ヲ害セサル以上ハ皆チ取消ヲ得可
 キ者ナリ故ニ父母一旦婚姻ヲ承諾スルモ未ダ之ヲ行ハザル上ハ其承
 諾ヲ取消スヲ得可ク又夫既ニ其婦ニ商業ヲ爲スヲ許諾スルモ之

ヲ取消スヲ得可シト云フハ普通ノ論ナリ
パーリー第八十一、ドモロ
 ンブ幼者論第二篇第三百
 五十二及ヒ第三百五十六
 五十五〇反説ベズリード第九十四、マツセ第一千四十二、ベスレー第二
 百六十一及又右取消シテ爲スニハ裁判所ニ出願セザル可ラズト云フ者
 ヒ其以下
アラ
 ドモロ
 ンブ
 同上及ヒ余輩ハ前文ニ擧ゲタルト同様ト云フニ基キ裁
 判所ニ出願スルヲ以テ常則トスルヲ得ズ但シ此取消事件ニ付キ父母
 威權ヲ擅用セシアル時ハ爭論ノ廉ニテ裁判所ノ手ヲ經ルヲ得可シ
 此ノ取消ノ事ハ許諾ノ事ト全様ニ其由ヲ公ケニセザル可ラズ
アラ
 ドモロ
 ンブ
 同上及ヒドモロ

ソブ全上

(第八十三號) 此法式ニ付テノ制裁 第二條ニ據レハ幼者若シ此法式
 ナ履行セザルハ商人タルヲ得ス又仮令自ラ商人ノ身分結果ヲ受
 ケンヲ請求スルモ決シテ之ヲ許ルス可ラザル者トス蓋シ無能力者

保護ノ爲メ其契約ヲ無効トスル事ハ純然タル關係上ノモノニシテ有
 能力者ナル他人ヨリ幼者ニ對シ之ヲ申立ツルヲ得ザルノ規則ナリ
 ト雖モ然レモ此規則タル無能力者ノ爲シタル所業ノミニ適用ス可キ
 モノニシテ其已レニ附與セント欲シタル名稱若クハ職務ニ適用ス可
 キモノニ非ザルナリ幼者若シ選マレテ後見人トナルカ或ハ親族會議
 ノ議員トナルヲアラハ何人ト雖モ其身分無カル可キテ之ニ抗爭スル
 ヲ得可シ然レハ則チ其若シ成規ノ法式ヲ履マズシテ商人トナラン
 ト欲セシナラハ又何人ト雖モ其商人タル可ラザルヲ之ニ抗弁スルヲ
 得可シ抑モ商人タル身分ヲ獲ルハ關係本人ノ意思ニ係ハラザルモ
 ノトス(上文第五十八)故ニ第二條ノ法式ヲ履行スルモ實際商業ヲナサ
 ズシテ第一條ノ要件ニ適ハサル者ハ商人タルヲ得ス
パーリー第四
 百七十ベスレー第
 二百三十九、ア
 即チ第二條ノ法式ヲ履行セスンバ又商人タルヲ得可
 一七
 第八十四

ラサルナリ 一千八百六十二年八月六日破毀判決シレ_レ判決集第六十
四卷第一部第七十二丁一千八百六十三年十一月五日ニ
||_レム控訴院判決シ_レレ_レ判決集第六十三卷第二部第二
百五十六丁〇ベス_レレ_レ第二部五十二及第二百六十
此説ヨリ生スルノ結果ハ左ノ如シ

- 第一 幼者ヲ家資分散ト爲ス_レヲ得可ラス(一千八百五十三年一月七日アミアン府控訴院判決次ダロ_レス判決類聚第五十九卷第二部第九丁一千八百六十三年十二月二日ナント府商事裁判所判決ダ
ロ_レズ判決類聚第六十四卷第三部第千六丁 アロ_レセ_レ第四十八ベ
ス_レレ_レ第二百五十二
- 第二 倒産ニ處ス可ラス(一千八百五十三年三月十七日破毀判決ダ
ロ_レス判決類聚第五十三卷第一部第一百十四丁 アロ_レセ_レ第四十八
- 第三 幼者ニ對スル訴訟ハ商事裁判所ニテ裁判ス可キモノト推測
ス可ラス(一千八百六十二年八月六日破毀判決ダロ_レス判決類聚

第六十二卷第一部第三百七十五丁一千八百六十三年十一月五日
||_レム府控訴院判決ダロ_レズ判決類聚第六十三卷第二部第二
百五十六丁)

第四 民事上ノ利息ノ高ノミハ幼者ノ負_レ所ト爲_レスヲ得可シ 一千八百

六十二年八月六日破毀判決タロ_レズ判決
類聚第六十二卷第一部第三百七十五丁

第五 一千八百六十八年前ニハ幼者ヲ禁錮ニ處スルヲ得ザリキ

ベス_レレ_レ第
二百五十二

第六 幼者ハ免許稅ヲ拂_フ可キヤ否ヤニ就_テハ疑端アレ_レ一千八
百六十六年二月二十七日ノ參議院決定ニ據_レハ父ト組合商賣ヲ
爲_シ未_タ後見ヲ免_レザル幼者ハ右免許稅ヲ拂_ハザル可_ラサル_ト
トセリ

(第八十四號) 前ニ述ベタル事トハ全ク異ナレル一個ノ問題ヲ茲ニ講

究スルヲ要ス幼者商業上爲シタル取引所業ノ價格ノ問題是レナリ蓋
 シ其所業ニハ普通法ノ原則ヲ適用スベキノミニシテ無能力者保護ノ
 爲メニ法式ヲ設ケタル諸場合ノ如ク不完全ノ取消方法ニ依テ之ヲ無
 効トスルヲ得可シ 一千八百四十五年六月六日リナン控訴院判決 故ニ此無効ノ事ハ幼者若ク
 ハ其代人ニ限り之ヲ申立ツルヲ得可シ又ハ丁年トナリシ幼者之ヲ
 確固ニスルヲ得可ク又幼者丁年トナリシ日ヨリ十年ヲ經ハ期滿得
 免ニ因リ確固ノモノトナル可シ(民法典第一千三百四條)幼者商業上爲
 シタル契約ハ總ベテ保護上ノ法式ヲ履行セザルニ於テハ概テ人ノ可
 トスルガ如ク其實ニ損害ヲ蒙ムラザリシ時ト雖モ之ヲ取消サント請
 求スルヲ得可シ 一千八百四十五年一月八日シヂヨン控訴院判決
 又縱令幼者後見ヲ免レタルニモ他ノ要件中ノ一要件缺クルヲアル
 キハ其商業上ノ義務ハ民事裁判所ニテ取消スカ或ハ唯過當ナリトシ

テ减小スルヲ得ヘシ(民法典第四百八十四條第四項)反對ノ説ヲナス
 者ハ曰ク之ヲ商業上ノ義務トシテ取消スルハ民事上ノ義務ト看做ス
 ヲ得ズ何トナレハ則チ彼レ分ツ可ラザルノ身分ヲ有スレバナリ蓋シ
 幼者ハ商業上ノ義務ヲ負擔セント欲シタルカ或ハ毫モ義務ヲ負擔ス
 ルヲ無カラント欲シタルナル可マ 百五十七 然レモ之ニ答ヘテ言ハ
 ントス曰ク義務ヲ減少スル事ハ其民事上ノ性質アルニ關スルニ非ズ
 其商業上ニ非サル性質アルニ關スルニ非ズ第四百八十四條第二項ニ
 於テハ毫モ此等ノ明文アルヲ見ズ特ニ真正ナル所ノ者ハ有効ナル商
 業上ノ義務ハ減少ス可キニ非ズ又取消ス可キニ非ザル是レノミ然レ
 モ之ガ爲メ無効ナル商業上ノ義務ヲ前ノ如ク處置スルモ毫モ妨ケ無
 シトス 百三十四 第一
 許諾ヲ受ケザル幼者ノ爲シタル契約ハ縱令其幼者商人ノ名義ニテ之

チナシタルモ無効トス可シ何トナレバ單ニ無能力者ノ陳述ノミニ因
リテ之ヲ能力者ナリトスルヲ得可ラザレハナリ(民法典第一千三百七
條上文第七十八)マツセ第一〇五三三(唯事尋常ノ詭欺ニ出デ一方ノ
者ヲ欺ク爲メ詐僞ノ手段ヲナシタルキハ格別ナリ(民法典第一千三百十

條)ベスレ一第然レモ幼者ヲシテ責ヲ受ケシムルニ其必スシモ重罪或
二百六十一ハ輕罪ヲ犯シタルヲ要セザルナリ(民法典第一千三百三及ヒ第二〇六
第三條)商人ニアラサル幼者ト雖モ第六百三十三條ニ
循ヒ商賣ノ業ナリト爲ス可キ諸事ヲ行ハントスル時ハ
前條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

此箇條ハ實際之ヲ適用スル事稀ナリ蓋シ幼者商賣ノ業ナリトスル一
事ヲ爲スガ爲メ此冗長ニシテ且面倒ナル法式ニ循フヲ欲セザル可
シ然レモ其制裁ハ固ヨリ之アル可シ即チ此法式ヲ行ハスシテ爲シタ

ル契約ハ關係上無効トスル是ナリ(上文參看)

第二款 商人タル幼者ノ能力ノ事

商人タル幼者ノ能力ノ事ハ商賣ノ業ト民事上ノ業トニ付テ之ヲ論

究ス可シ

(第八十六號) 第一 商賣ノ業ニ付テ論ズ 幼者ト雖モ商賣ノ業ニ付

テハ全ク丁年者ト同視スルヲ規則トス載セテ商法典第二條並ニ民法
典第四百八十七條及ヒ第一千三百八條ニ在リ(第一千六百七十三
業ハ損害ヲ受ケタルガ爲メ之ヲ取消スヲ得ス(民法典第一千三百八
條)適當ナルガ爲メ減價スルヲ得ズ(民法典第四百八十四條)ブラウッ
ル第一篇第

七十八丁マツセ第一〇五三三 又期滿得免ノ期限ハ幼者ニ對シテ經過ス可
十三及ヒ第一〇五十六

マツセ第一 而ノ技藝者モ其藝上ノ契約ニ付テハ亦此規則ニ準ズ可
千五十一 故ニ公ケニ許諾ヲ受ケサル非商人ニシテ通常職工ナル幼

者ト雖凡小道具原品等ヲ買入レ又請負作業或ハ賃仕事等ヲ爲ス者ノ如キハ亦右ノ能力アリトスシユース王令第六條ニ就ヒテ、ボウル一民商人タル幼者ハ自己ノ商業ニ付テノミ能力アル者ニテ法典第一篇第三百五十六丁、第一千五百四八十七條ニハ其商業ニ關シタル事ニ付キト云ヒ其一千三百八條ニハ民其商業ノ爲メト云ヒ又シユースハ其能力ハ一般ノ者ニ非スシテ特別ノ者ナリトト一ボー第三百五十五云ヘリ而シテ幼者仮令一般ノ許諾ヲ受ケタリト雖凡其能力ハ實際行フ所ノ商業ノミニ限ル者トス故ニ他ノ商人ノ負債ヲ保証スル事ノ如キハ幼者ノ爲メ可ラサル所ナリパルトツシユース第一篇第七十九丁但シ自己ノ商業ノ利益ノ爲メ其組合ヲ保証シ或ハマツセ第一千六十爲替手形ニ裏書ヲ爲シ連帶擔保ニテ義務ヲ負フ如キハ此限ニ非スツマ第一千六十

(第八十七號) 如何シテ契約ノ源因ハ商賣ノ業ナリト確定ス可キ乎概

子双務ノ契約ヲ結フモノナレバ其源因ハ其契約書ノミニテ之ヲ証明スルヲ得可シ然レ凡商人タル幼者カ手署シタル手形ニ至テハ疑端ヲ生ズ可シ今此問題ニ答フルニ際シ其源因ハ手形中ニ指示セラレタルカ或ハ然ラザルカヲ區別スルヲ要ス

第一源因手形中ニ指示セザル場合

(論)此場合ニ於テ其源因幼者ノ商業ニ關セザルヤ否ヤヲ証明ス可キハ何人ナルヤ

第一說 幼者ニ於テ手形ハ其商業ニ關セザル旨ヲ證明ス可シ債主ハ其証券ヲ差出ス可ク而シテ其証券ハ諸般ノ約定書ノ如ク反對ノ証アル迄ハ有効ノモノト推測セザル可ラス幼者若シ己レガ幼者タルノ身分ニ據テ例外ヲ申立テ之ヲ排斥セント欲スルナラバ幼者ヨリ其例外ヲ申立ツ可キ場合ニ當ルヲ証明スルヲ要ス即チ其義務ハ商業ニ關

係無キモノナルヲ証明ス可シ蓋シ幼者ト約定ヲ結ブ者ニ此甚々難事
 タル証據ヲ立ツルノ義務アラシメバ何人ト雖モ商人タル幼者ト約定
 ナ結フモノ無カラシ果シテ然ラハ則チ幼者ヲ保護スルノ法律却テ幼
 者ノ不利トナル可シ又債主ハ幼者ニ對シテ第六百三十八條第二項ニ
 記シタル推測ノ利益ヲ受ク可シ第六百三十八條第二項ニ云ク商人ノ
 署名シタル手形ハ其商業ノ爲メニ之ヲ爲シタリト看做ス下
 百八十三、トウーリユ一第二百四十九、マルカデ、第二百十條ニ付テ、ドモ
 ロンブ幼者、第三百四十二、ウワレットナボレチン法典說略第三百四十
 二丁バルドツシユ一第一篇第六十二モリニユ一第五百五十四及ヒ第百
 七十九、ドマンシヤイブラウ、ール評論第一篇第八十二丁ベスレー第
 二百四十三
 及ヒ其以下

第二說 債主ニ於テ手形ハ幼者ノ商業ニ關スルヲ証明ス可シ(可)蓋
 シ約定ハ有効ノモノナリト看做ス可キハ一般ノ規則ナリト云フト雖

凡幼者ノ結ビタル約定ハ無効ナリト看做ス可キモ亦一般ノ規則ナリ
 而シテ其規則タル商人ナル幼者ニ付テモ之ヲ適用ス可シ夫レ商人ナ
 ル幼者ハ一般ノ能力ヲ得タルモノニ非ズシテ常ニ一般ノ無能力タル
 モノナリ而シテ其能力ヲ有スルハ只其商業ニ關スルモノ、ミニ限レ
 リ彼レ幼者タルノ例外ヲ申立テ以テ十分自ラ防禦スルヲ得可ク而
 シテ債主ハ宜シク之ニ答フルニ特別ニ能力アル場合ナリシヲ以テ
 スベキヲ要ス

又第一說ハ第六百三十八條ニ據テ論辨スルト雖モ抑モ之ニ記セル推
 測ノ事タル此場合ニ適用ス可キモノニ非ス何トナレバ則チ此箇條タ
 ル契約ノ有効ナルニハ爭ヒ無キモノニシテ只其管轄ノ事ノミヲ規定
 スルモノタレバナリ然ルニ今論ズル所ノ場合ハ契約ノ有効無効ニ關
 スルモノニシテ管轄ノ事ヨリハ一層重大ナル事件ナリトス而シテ推

測ノ規則ハ類似ナル事件ナリト云フヲ以テ其區域ヲ擴張ス可キニ非
 ザルナリ夫レ我佛國法律ニ於テ其保護セント欲スル所ノ者ノ信用ヲ
 幾分カ害スルコトハ忌避セザル所ニシテ此害タル實ニ無能力ノ已ム可
 ラサル結果ナリトス又債主ニ於テ幼者ノ商業ニ關スル事件ヲ証明ス
 ルニ難事ナリト云フト雖其舉証ノ危險ニ對シテ豫メ自ラ防護スル
 ハ甚タ簡易ナル方法ヲ以テスルコト得可キハ下文ニ述ブル所ノ如シ
 カンバセレーヌハ法典草案ニ於テヨリ第百四十一丁ニ至ル第六條
 ノ規則ヲ中立ツル書入質ノ權ヲ有スル債主ヨリ右證據ヲ立ツ可シト
 云ヘリ抑モ尋常ノ貸借ト書入質トハ大ヒニ類似スルモノナリ蓋シ二
 種ノ契約ハ兩ナカラ幼者ノ商業ヲ目的トシタル時ニ非サレハ効無キ
 モノナリ 一千八百五十七年三月二十三日破毀判決ダロース判決集第
 五十七卷第一部第百二十六丁〇ベダリード第一篇第百五十
 九、プラウワール第一篇第八十一丁、マツセ第一千四百四十四〇第百三
 十八條ヲ根據トスルノ論辨ハ第一説ヲ可トスル者ニモ排斥セラレタ

リシユラント第十四篇第百五十三トウ
 リエ第十二篇第百五十五、アローセ第八十

第二 源因手形中ニ指示シタル時
 (論)此場合ニ於テ其陳述ノ効ハ如何

第一説 其陳述ハ幼者ニ對シテ完全ナル證據トナル可シ若シ其陳述
 詐僞ナリシナラバ幼者ハ罪ヲ犯シタルナリ幼者故意ニテ罪ヲ犯シタ
 ルニハ其義務ヲ取消ス可ラズ(民法典第一千三百十條)蓋シ幼者ノ利益
 ニ付テモ債主ハ抗爭ス可ラサル証券ヲ得ルノ方法無カラサル可ラズ
 然ラズンハ則チ何人ト雖其之ト約定ヲ取結フ者無カル可キニ至ラン
 第二説 其陳述ハ幼者ニ對スル證據トナル可ラス民法典第一千三百
 十條ハ此場合ニ適用ス可ラス何トナレハ詐僞ナル陳述ハ或ハ詭欺タ
 ルモ通常ノ犯罪ナラザレハナリ且民法典第一千三百七條ニ幼者其丁
 年ニ至リシト述タルノミニテハ其契約ヲ取消スノ妨ゲナルコトナシ

ト云フヲ觀レハ第一千三百十條ヲ第一說ノ如ク解釋スルヲ得ズ而
 テ今所謂幼者ノ陳述ナル者ハ第一千三百七條ニ明揭シタル陳述ト全
 ク相類似スルモノナリ然ルニ此陳述ノ以テ幼者ニ對スルノ證據トシ
 マランニハ民事上ノ債主ハ必ス常ニ其陳述ヲナスヲ請求ス可シ果シ
 テ然ラハ民事上ニ付テハ無能力ノ事ハ更ラニ効用無キニ至ラン
 第三說 若シ其陳述アリシキハ幼者ニ對シテ其爲シタル業ハ商賣ノ
 業ナル可シトノ推測ヲ生ズ可ク而シテ其然ラザルヲ證明スルハ幼者
 ノ任タル可シ(可)蓋シ幼者全ク無能力ナリシナラバ第一千三百七條ニ
 據テ其陳述ヲ取消ス可シト雖モ幼者ハ半バ無能力ナルノミニシテ其
 商業ニ限リテハ完全ナル能力アリトス而シテ法律ニ於テ此能力ヲ與
 ヘタル以上ハ之ヲシテ其能力ヲ行ハサラシメント欲シタルニハ非ザ
 ル可シ然ルニ若シ其幼者ト約定ヲ取結ブ他人ヲシテ證據ヲ舉グルノ

任ヲ免ル可ラサラニメハ幼者ハ決シテ自己ノ能力ヲ行フヲ得ザル
 可キナリ故ニ法典ノ精神ヲ推シテ幼者ニ此陳述ヲナスノ能力アルヲ
 認ム可キノ意タルヲ知ル可シ
 蓋シ第三說ハ第一說ニ於テ幼者ノ民事上ノ無能力ヲ無ニスル如キ弊
 アルコト無シ何トナレハ幼者其陳述ヲナシタル後チニ於テモ其契約
 ハ其商業ニ關係無キ旨ヲ證明セバ之ヲ取消サシムルヲ得可シ 諸署
 ハ此論題ニ付キ確說無シマツセ 第一千四十四
 フラウール 第一篇第八十二丁、アローセ 第八十
 第三說タル余輩カ見ル所ヲ以テスレバ之レヲ可ナリトセザルヲ得ス
 又手形中ニ幼者ノ陳述ヲ載セザル時ト雖モ若シ其手形爲換手形ノ如
 ク必ズ商業上ノモノナルカ或ハ命令拂手形ノ如ク只商業上ニ關スル
 ナ常トスルニ止マルモノナルニ於テハ之ニ適用スルヲ要ス何トナレ
 ハ其手形ニ商業上ノ方法ヲ用非タルヲ以テ商人ナル幼者ガ暗ニ陳述

チ爲シタリト看做サバ、ル可ラザレハナリ今此説ニ據テ注意ヲ要ス可
 キ事アリ即チ商法典第百十四條ニ從ヘハ非商人ナル幼者が署名シタ
 ル爲換手形ノミハ無効トセリ是レ商人ナル幼者が差立テタル爲換手
 形ハ有効ナリト看做ス可キヲ定則トスルモノ、如シ(固ヨリ箇條ニハ
 其明文無シ)余輩ハ商人タル幼者が署名シタル手形ハ如何ナル種類
 ルチ問ハズ第六百三十八條第二項ヲ適用ス可ラズトナスト雖モ反對
 ノ証アル場合ノ外ハ爲換手形及ヒ命令拂手形ニハ之ヲ適用スルコト
 可トスルナリ 一千八百五十七年三月二十三日破毀判決ダローズ判決
 類聚第五十七卷第一部第二十六丁○バルドッシュ第六十
 二、ダッシュキール第一篇第二十一丁及ヒ第二十四丁、パーリー第三
 百ベタリード第百六十五、アローゼ第八十、マツセ第一千四十四 此反
 對ノ証ハ幼者ト約定シタル手形受取人及ヒ幼者ナル身分ヲ認知シタ
 ル他ノ手形所持人ニ對シテハ常ニ之ヲ舉グルコトヲ得可シト雖モ幼者

タルヲ認知セザリシ他ノ手形所持人ニ對シテハ許ルス可ラザルモノ
 トス蓋シ爲換手形及ヒ命令拂手形ノミニ關スル原則ニ反背ス可キニ
 由ルナリ(下文第七百四十及ヒ第七百五十七)若シ手形ヲ以テ証明スル
 借入金ハ全ク幼者ノ商業ニ用ユ可キ者ナリシキハ幼者ニ於テ其金高
 ハ用法ヲ換ヘテ他ノ使用ニ供シタリト云フテ其義務ヲ取消サント要
 ムルコトヲ得ズ ベスレー第一
 二百四十八

(第八十八號) (論) 商人タル幼者ハ一名ニテ商業會社ヲ取結ブコトヲ得可
 キ乎 此論題ハ大ヒニ議論アリト雖モ余輩ハ斷然之ヲ然リト曰フ可シ
 蓋シ此業タル固ヨリ重大ナルモノナリト雖モ幼者ニ許ルス所ノ商業
 件中ニテ之ニ齊シキモノ亦少カラズ例ヘハ多年連續シテ毎歲若干ノ
 商品ヲ引渡スノ約定ノ如キ是ナリ 一千八百二十八年八月十一日カン
 轄ノ篇商人ノ部第百五十三モリニエー第百五十五、パーリー三百其三
 バダリード第八十九、ベスレー第二百二十六、アローゼ第百四十五、マツ

第一千四十六〇反説ドラングル會社論第五十八、マルベール及ヒシユ
ールタン第十二丁、ドモロンブ婚姻論第二篇第二百九十七、幼者論第二
篇第三百四十三、ブラウール及ヒ
マンシヤール第一篇第四百十九丁
商人タル幼者ハ商業上ノ爭論ニ關シ裁判所ニ出訴シ且判断人ノ判断
ヲ乞ヒ和解ヲナスヲ得可シ

(第八十九號) 民事上ノ契約ニ付テ論ズ

往時ニ在テハ法律ニ明文無キトハ其契約ハ其商業ノ爲メニ之ヲ爲シ
タル旨ヲ証スルヲ必要トスルノ外全ク幼者ノ自由ニ任シタリ法律ニ
明文無キニ因リ裁判官中ニ疑ヲ生シ且此ノ如キ証據ヲ擧グルノ難
事タルヲ以テシユースハ幼者ノ爲メニ必要トシタル通常法式ニ循フ
可シト云ヘリ

法典ニ載スル所ノ區域ハ尙ホ之ヨリ減少セリ

第六條 前ニ記スル如ク許諾ヲ受ケテ商業ヲ爲ス幼者ハ其不動産

ヲ質入若クハ書入質ト爲スヲ得可シ
又其幼者ハ民法典第四百五十七條以下數條ノ法式ニ循フ時ハ其
不動産ヲ移轉スルヲ得可シ

幼者ハ一身ニテ其不動産ヲ移轉スルヲ得サルモノナリ然レモ斯ノ
規則ハ或ハ無効ニ歸セザルヲ得ス何トナレハ則チ幼者一身ニテ無限
ノ時間其物件ヲ質入スルヲ得可シ而シテ其債主ハ其動産ハ勿論不動
産ト雖モ皆之ヲ差押ユルヲ得可シ然ルモハ親族會議ニ於テ入費ヲ
省カンガ爲メ其賣拂ヲ承諾セサルヲ得サル可ク而ノ之ヲ救フニ由ナ
カラン既ニベルリエー氏ハ參議院ニ於テ法律ニ此ノ瑕瑾アルヲ示
シタリ七篇第百四十二丁然リト雖モ幼者ハ其不動産ヲ質入及ヒ書入
ト爲スヲ得可シ之ヲ質入トナストハ質物トシテ債主ニ引渡スナ
レモ實際甚タ稀ナリ書入質ト爲ストハ數々之レアリサテ之ヲ書入質

ト爲スニハ概乎先ツ之ヲ移轉スルヲ得可キ權利無カル可カラズト
 雖此前條ニ此ノ如ク定メタル者ハ信用ハ商人ニ缺ク可カラサルモノ
 ナレハ幼者ヲ其方法ヲ得セシメントノ主意ニテ既ニ幼者ニ商業ニ
 付テハ借金スルヲ許シタルニ其有用ノ物貨ヲ寢セシメ置クノ義務
 ナ命スルハ甚ク嚴酷ノ處置ナレバナリ書入質ハ尙ホ不動産ヲ保有ス
 可キ望ヲ存スルモノナレトモ移轉ニ於テハ其望無キモノナリ又不動産
 ナ移轉スルニ付テハ常ニ數多ノ時日ヲ費ス者ニテ之ヲ爲スニ許諾ヲ
 必要トシ遅延ヲ致スモ數多ノ不都合之無キナリ然レモ不動産ヲ書入
 質ト爲スニ至テハ之ト同一ナル者ニハ非ス法律篇纂ノ際カンバセレ
 一フ云ヘルコトアリ事件ノ商事タルヲ證スルハ書入質取主若クハ質取
 主ノ任ナリトロソレ同上第十七篇第四百十蓋シ借金契約書ニハ決シ
 テ其原因ヲ記載セザルモノナレバ右証據ヲ舉クルハ難事ト謂フ可シ

故ニ債主タル者ハサウツリガ示シタル下ノ注意ノ一方ヲ行ハザル可
 ラス其注意方トハ幼者ヲ其借金ヲ使用セシ受取證書ヲ出サシムル
 カ或ハ債主自ラ直接ニ他人ニ金高ヲ拂フ可キ任ヲ取ルカ又ハ借金證
 書ニ金銀ト交換シ商品ヲ受取ル可キ旨ヲ記載スル事是レナリ此ノ如
 キ方法ヲ用ユルキハ至急ヲ要ス可キ事ニ付テハ不便モアル可シト雖
 此又是レ必要ナルモノトス

債主ニ於テ書入質ヲ請取リシ上ハ預メ其動産ノミチ拂フ如キ手續ヲ
 ナスコト無ク日限來レバ其物品ヲ差押へ且賣拂ハシムルコトヲ得可
 シ是レ此場合タル民法典第二千二百六條ヲ適用スヘキモノニ非ズシ
 テ即チ商人タル幼者ハ其ノ能力ノ區域内ニ在ラハ丁年者ト同視ス可
 キノ結果ナリトスバルドツシユ一第六十、テルウツンクール第二篇第
四丁モリニエ一第百五十六、ブラウツール第一篇第
七十八、アローゼ第八十
二、マツセ第一千五十九

(第九十號) 商賣ノ業タル一事ノミチ爲ス許諾ヲ受ケタル幼者ハ書入
 質ヲ爲スノ權アリヤト云ハシニ(第三條)余輩ハ之ヲ然ラズト云ハシノ
 ミ是レ前ト同日ノ論ニ非ス幼者ハ同時ニ二箇ノ許諾ヲ受クルコト得
 可シ第六條ハ即チ商人タル幼者ハ此能力ヲ與フルナリ
 篇第八十八丁、アローゼ第八十三〇一千八百
 二十三年一月十七日エックス控訴院判決
 或ル人ハ第三條ハ法典ノ草案ニ載セザリシヲ以テ第六條ハ茲ニ論ス
 ル如キ場合ヲ豫定スルノ理無シト云フテ此最終ノ説ヲ駁撃セリ
 第四百四十四 然レモ余ハ之ニ答ヘテ言ハントス曰ク第六條ハ法典ニ
 及ヒ其以下 第三條ヲ挿入シタル後ニ於テモ修正セラレタルコト無ク而シテ前ニ舉
 ゲシ第一ノ理由ハ常ニ存在スルモノナリト

附錄 治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ裁判所ヨリ定メタル輔
 佐人アル者ノ能力ノ事

(第九十一號) 第一 治産ノ禁ヲ受ケタル者 裁判所ヨリ治産ノ禁ヲ
 受ケタル者ト法律上治産ノ禁ヲ受ケタル者トハ同時ニ之ヲ論ス可シ
 如何トナレハ刑法典第二十九條ニ明文無キモ其無能力ノ事ニ就テハ
 概テ之ヲ同視セザル可ラザレバナリ
 後見人ハ幼者ノ代人タルガ如ク治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ代人トナル
 ナリ而シテ其之ガ爲ノニ商業ヲ爲スコトヲ得可ザルハ勿論ナリトス其
 理由ハ幼者ニ於ケルト同一ナリ

又治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ其本心明カナル時ニ於テモ商業ヲ爲スコ
 トヲ得可ラズ何トナレハ法律ニ於テハ治産禁止ノ事ヲ以テ其期限間全
 ク能力ノ無キ者ト推定スレバナリ此制ヲ設ケタルハ蓋シ契約ヲ結ビ
 シ時本心明カナラザリシト云フ如キ事ヲ証スルコト無カラシメンカ爲
 メナリ
 アローゼ第一篇第五十一丁、マツセ第一千九十四〇ブラウ
 ル(第一篇第六十七丁)ハ法律上ノ治産ノ禁ト裁判上ノ治産ノ禁

トナ同視スルヲ
不可ナリトセリ

(第九十二號) 裁判所ヨリ定メタル輔佐人アル者、○裁判所ヨリ定メタル
輔佐人アル者ハ民法典第四百九十九條并ニ第五百十二條ニ記載シタ
ル規則アルニ因リ其輔佐人ノ助ケ無クシテ契約ヲ結ヒ所有物ヲ移轉
スルヲ得サル者トス裁判所ヨリ定メタル輔佐人アル者ニハ此ノ如
キ要件アルヲ以テ決シテ商業ヲ爲スヲ得可ラズ何トナレハ商業ヲ
爲スニハ瞬時モ約束ヲ結ブ可キ權利無キ能ハザルヲ以テナリ
八篇第七百六十一、ベスレー第二篇第七十、マツセ
第一千一百十、ブラウツル第一篇第六十九丁 又裁判所ヨリ定メタル
輔佐人ハ之ニ一般ノ許諾ヲ與フルヲ得ズ斯ル許諾ヲ與フルハ是レ
己レカ職掌ニ背ケルモノニシテ法律ニ於テ決シテ其輔佐人ニ與ヘタ
ルヲ無シ或ル人ハ然ラハ裁判所ヨリ定メタル輔佐人アル者ハ其能力
後見ヲ免レタル幼者ノ能力ヨリ少ナカル可ク而シテ此ノ如キヲハ常則

ニ非ズト云ヘリ然レモ其無能力ハ他ノ源因ニ基キ精神上ノ事ナレハ
他ノ點ニ就テハ幼者ニ於ケルヨリモ重大ナルヲナシト雖モ此點ニ於テハ
甚々重大ナルモノアリ 一千八百五十年十二月三日破毀判決ダローズ判
決類聚第五十一卷第一部第四十二丁一千八百六
四十二丁十二年十二月二日巴里府控訴院判決シレリ判決纂集第
六十三卷第二部第三十丁アローゼ第三十八、ベスレー第三百七十一及
以下

然レモ裁判所ヨリ命シタル輔佐人アル者モ其輔佐人ノ助ケアル以上
ハ商賣ノ業タル事ノミヲ爲スヲ得可シ 一千八百六十五年二月十日
一丁判決類聚第六十五
卷第二部第六十三丁
之ガ反對ノ説ヲナス者アリ曰ク若シ其爲ス所、業常業トナリ且之ヲ
職業トスルニ至ラバ此輔佐人アル者ヲ商人ト看做サバ爾ヲ得ザル可
シ而シテ之ヲ商人トスルハ不可ナルニ非ズヤト 第三十八然レモ余輩
ガ前ニ述ベタル説ハ輔佐人アル者ハ其助ケヲ得テ屢々商賣ノ業ヲナ

ス丁能ハザルヲ諸學士ガ認メタルニ基ヅクモノナリ然ラハ即チ實際
ニアル可ラザル事ヲ相像シ以テ余輩ヲ責ムルニ余輩之ニ服スルヲ得
ス且縱令輔佐アル者ノ商賣ノ業ヲナシタリトシテ之ヲ處置スルモ之
ヲ以テ商賣ヲ爲スノ一般能力ヲ有セリト云フニ非ズ又將來其能力ヲ
有スコシト云フニ非ザルナリ

商業會社ヲ取結ブ如キ事ハ輔佐人アル者ノ爲スコラザル所ナリトス
如何トナレハ此契約ハ即チ一般ノ契約ノ事ニ關スレバナリ 一千八百
五月二十九日リリヤン控訴院判決ダロ
大判決類聚第七十三卷第二部第十九丁

第二節 結婚セシ婦ノ事(按、有夫ノ婦ト視ル可シ)

(第九十三號) 婦女及ヒ寡婦ハ商業ヲナス可キ完全ナル能力アレバ只
二個ノ制限アルノミ第一制限ハ商人集會場ニ入ル可ラザル事(一千七
百二十四年九月二十四日コンシユール)決定共和第九年十一月一日ノ王

令、共和第十年第九月二十七日ノ決定第一條第二制限ハ商事裁判所ノ
裁判官ヲ選舉スルノ權無キ事はレナリ(商法典第六百十八條ヨリ第六
百二十條ニ至ル)

結婚婦ノ商業ヲ爲ス能力無キ所以ハ其夫ノ許諾ヲ受ケザル以上ハ義
務ヲ負擔シ及ヒ物件ヲ移轉スルノ一般能力無キニ由ル(民法典第二百
十七條及ヒ其以下)而シテ其一般無能力ナルノ原因ハ婦、夫ノ威權ヲ敬
重スルト其結婚ニ因リテ夫ニ保護ヲ索メタルトニ在リトス 民法典講
ウツル第一篇第八
十九丁及ヒ其以下

第一節モ幼者ノ事ニ於ケル如ク亦分テ二款トセリ而シテ第一款ニ於テ
結婚セシ婦ハ商業ヲ爲スコ付テ能力ヲ受ク可キ事ヲ記シ第二款ニ於
テハ商人タル結婚婦人ノ能力ノ事ヲ論ス

第一款 結婚セシ婦人ノ商業ヲ爲スコ付テ能力受ク可

第四條 婦ハ夫ノ承諾ヲ得スシテ公ケノ商人トナルヲ得ス

（第九十四號）此箇條ハ民法典ノ規則ト同一ナル精神ヲ包含セリ然レ
正重要ナル二箇ノ點ニ於テ異ナル所アリトス第一夫ヨリ與フル許諾
ト商賣ノ諸業ニ付テハ民法典第二百廿三條ニ反シ一般ナル者トス第
二夫ヨリ與フル許諾ハ民法典第二百十七條ニ反シ黙諾ナルヲ得可
シ是レ此第四條ニ古法ヲ提出スルガ爲メ許諾ナル語ニ換ヘテ承諾ナ
ル語ヲ故ラニ用ヰタルニ因ル蓋シ古法ニ於テ婦ノ商人タルニ夫ノ黙
諾ヲ以テ足りトシタル所以ハ夫其婦ニ商業ヲ爲サシメ其財産ノ利ヲ
得後日義務執行ノ時ニ際シ之ヲ爲ササルカ爲メ其婦ハ無能力ナリト
云ヒ以テ他人ヲ欺クヲ無カラシメンガ爲メナリ法典討議ノ末此古法
ニ倣フヲニ決セリ 一途裁判例規マローズ纂集一般
裁判例規商人ノ部第百六十四

婦夫ヨリ承諾ヲ得ルニ履行ス可キ法式公告ノ如キ一切之レ無キ者モ
亦前ノ理由ニ因ル唯其商業ヲ行ヒ夫之ヲ知ルキハ其許諾ヲ受ケタリ
ト推測ス可キモノトス バルドッショイ第六リヤール第百六ベタリト
第百七ウエンサン第一篇第百二十八丁、キユ

ハ 婦權論第五百八十八、ブラウツール第一篇第
九十二丁アロセ第六十一マツセ第一千百九 然レ正婦商賣ノ業タル
二三ノ事件ヲ爲シ之ヲ平素ノ職業トナササルキハ夫之ヲ知ルト雖正
此婦ヲ商人トナス可ラサルハ勿論ナリ故ニ其業ハ無効トス何トナレ
ハ則チ此場合ハ夫ヨリ明諾ヲ受ク可キニ及バザル特別ナル場合非ザ
レハナリ ブラウツール第九十一
マツセ第一千一百九
夫其婦ニ與フル承諾ハ一般タルヲ得可ク又一商業ニ就テ特別タル
ヲモ得可シ其黙諾タルキハ固ヨリ特別タルモノトス
夫婦財産ヲ共通セン時ハ夫ヨリ其婦ニ商人タルノ承諾ヲ與フル事ハ

夫ニ取テハ甚ク重大ナルモノナリト雖トモ婚姻ノ方法如何ヲ問ハス夫ノ承諾ヲ必要トス(第五條民法典第二百十條并ニ下文第二款參考)又婦財產ヲ分別シ自由ニ之ヲ管理スル時ト雖モ亦夫ノ承諾ヲ必要トスルハ前ト同シ何トナレバ商賣ノ業ハ管理上ノ業ニ非スシテ財產移轉ノ業タレバナリアローセ第五十九又婦結婚ノ前ニ商人タリシ時ト雖モ夫ノ承諾ヲ必要トス但其商業ヲ繼續シ夫之ヲ知ルニ於テハ其許諾アリシト認ムルニ十分ナル可シ

(第九十五號)(論)若シ夫ニテ右承諾ヲ否ミタルモハ裁判所ヨリ婦ニ許諾ヲ與フルヲ得可キ乎此論ニ就テハ數多ノ說アレモ先ツ或ル點ヲ本論外ニ置クヲ必要トス蓋シ夫婦財產ヲ共通スル時ト仮定センニ如何ナル事ト雖モ夫ノ承諾ニ代ル可キ者アル無シ何トナレバ夫ハ其婦ノ爲セシ業ニ因リ必ス義務ヲ負フニ至ル可ケレバナリ然ルニ夫己レ

ガ承諾無クシテ義務ヲ負フ可キノ理無シ又若シ夫婦婚姻ヲ爲スニ財產ヲ共通スルヲ無ク嫁資外ノ財產無クシテ婦ヨリ嫁資ノミヲ持來リシ時トセンニ其義務ヲ婦ノ財產ノ全部ニ付テ執行スルモハ是レ夫ノ收實權ヲ害シ又其管理權ヲ損フ者ト謂フ可シ而シテ夫ハ前ニ承諾スル所無シテ斯ク損害ヲ受ク可キ者ニ非ズ或ハ云ハシ婦ノ義務ハ只其財產ノ虛有權ノミニ付テ執行セシム可シト然レモ若シ果シテ此ノ如クナルモハ婦ニハ毫モ信用無キヲ以テ商業ヲナスコトヲ得可ラズ故ニ此場合ハ前ノ二種ノ方法中ニテ結婚シタル婦借用シタル元資ノミヲ以テ商業ヲナスカ或ハ嫁資ヲ以テ婚姻シ尙ホ嫁資外ノ財產ヲ有スルカ又或ハ其財產ヲ分チタル場合ナリト想像シ以テ本件ヲ論ズルヲ要ス

第一說 裁判所ヨリ婦ニ許可ヲ爲スヲ得可シ 其理由ハ先ツ是レ

民法典第二百十七條第二百十八條及ヒ第二百十九條ニ記載スル所ノ
 通法ニシテ又裁判ノ上夫其婦ト別居セシ時ノ如キ其婦ニ遺恨等アル
 ニ因テ猥リニ彼ノ許諾ヲ否ムコトアル可キヲ以テナリ又法典編纂ノ時ハ
 婦ニハ離婚ヲ要ムルノ權アリシヲ以テ離婚ノ後ハ自由ニ契約ヲ結ブヲ
 得可シト雖モ今日ニ於テハ其自由ヲ得ルノ方法一モアルヲ無シ
 六十二年一月二十七日グルノイブル控訴院判決
 ローズ判決類聚第六十三卷第五部第三十八丁等
 第二説 裁判所ハ許可ヲ與フルヲ得ス

(可)蓋シ第四條ニ於テハ夫ノ承諾アルヲ必要トセリ而シテ許諾ナル者ハ
 他ノ事ヲ以テ代ユルヲ得可シト雖モ同意ヲ表スル承諾ナルハ何事
 モ之ニ代ルヲ得可キニ非ス而シテ民法典第二百十七條及モ其以下
 ニ記ス所ノ規則ハ夫ヨリ特別ナル許諾ヲ與フ可キ場合ニノニ適用
 ス可キモノナレモ(第二百二十三條)今此場合ハ一般ノ許諾ヲ與フ可キ

場合ニシテ彼レト此レトハ毫モ相類似スル所無シトス且第四條ニ載
 スル所ハ決シテ裁判所ヨリ許諾ヲ與フ可キ事ヲ定メタルニ非ス唯是
 レ幼者ノ爲メ法律ニテ諸々ノ場合ヲ注意シ其場合ニ於テ之ニ承諾ヲ
 與フ可キ人ヲ指示シタル第二條ノ事ニ付テ示定シタル所アルノミ法
 典議定ノ時夫ノ承諾ハ缺ク可ラザルモノナリト明カニ決定セリ
 七年一月三日ノ會議カンバセレーズ而シテ第四條ノ文面ヲ變換セザル
 ノ説ロシ第十七篇第百五十一丁 者ハ即チ此義ヲ提掲スル爲メニハ十分ナリト決定シタルヲ以テナリ
 唯夫猥リニ其許諾ヲ取消サント欲スル時ハ裁判所ヨリ商業ヲ繼續ス
 可キ旨ヲ婦ニ許可スルヲ得可シト決定シタルハ則チ之アリ然ラハ
 則チ是レ其同一ナル理由無キ知ル可キナリ(下文第九十六參考)此決定
 ハ夫ニ在リテ甚々重大ナル者トス蓋シ婦商業ヲ爲スハ隨テ他人ト
 ノ關係ヲ生シ往日ニ於テハ之ガ爲メ禁錮ニ處セラル、コトモアリ又家

資分散及ヒ倒産ノ辱メヲ受クルトモアル可ケレハ夫ノ名譽ヲ損スルニ至ルヲアル可シ夫ニ於テ前ニ承諾スル無クシテ此ノ如キ事項ヲ蒙ルノ理無カル無シ總テ此等ノ場合ニ於テハ利益ヲ後ニシ道德ヲ先キニス可キヲ要ス殊ニ道理上ヨリ之ヲ論スレバ此事ニ付キ裁判所ノ管轄トス可キノ理由甚ダ少ク商賣ノ業トスル一事ノミノ如キハ或ハ裁判所ニテ精密ニ其結果ヲ量判シ其確乎タル利益アルヲ認定シ得可キヲアルモ苟モ商業ヲ營ムト云フニ至テハ右等ノ如キ事ハ裁判所ノ決シテ爲シ得可ラザルモノニシテ仮令如何ナル至密ノ小心ヲ以テスルモ又向後商人トナル可キ者ヲ如何ニ莫大ノ能力アリト想定スルモ其進路ヲ妨ク可キ危険ノ數多ナル果シテ成巧ヲ期ス可キヤ誰カ之ヲ保スルモノアラシヤ商業ヲ爲スニ固ヨリ懼ル可キ危険ナキ能ハザル其レ此ノ如シ既ニ危険ナキ能ハザレハ夫婦ノ協同一致スルニ非ザ

ルヨリハ其家計ヲシテ危難ニ遭遇セシム可ラサルナリ
 日三月十三日府民事裁判所言渡ダローズ判決類聚第六十九卷
 第三部第二十九丁、パルドッシユ一第六十三、モリニエ一第四百十三、ベ
 マリード第百十三、キユバン婦權論第五百八十八、ボン婚姻契約論第八
 百、チーブリ一及ヒロー一第四篇第四百七十二款、アラウール第一篇第
 九十三丁及ヒ其以下、ベスレー一第三百四及ヒ其
 以下、アローゼ一第六十六マツセ一第一千一百十三
 然リト雖此規則タル又聊カ例外無キ能ハザルモノアリ譬へハ夫タ
 ル者婦ニ日用ノ飲食ヲ供給シ得ザルカ或ハ欲セズ而シテ其商業ヲ爲ス
 トナシ許サザル如キ夫ノ威權ヲ濫用スルノ明カナルヲアルハ婦ハ寧
 ロ危険ヲ履ムモ餓死スルニ愈サル可キヲ以テ裁判所ハ之レニ干涉シ
 婦ニ許諾ヲ與フルヲ得可シ蓋シ擅權ノ所爲ハ權利ノ使用ニ非サル
 カ故ナリ此ノ如クシテ裁判所ヨリ婦ニ許可ヲ與フ可キトナルヲ認ム
 ト雖此裁判所ハ通常夫ニ代リ許諾ヲ與フルヲ得可シト云フ論ト其

相距ルヤ甚タ遠カル可シ

(論)若シ夫失踪セルカ或ハ治産ハ禁チ受ケタル等ニテ承諾チ爲シ得ザルキハ如何シテ可ナル乎此場合ハ前ノ場合トハ大ニ差別アリ現ニ許スト許サメルトニ付テ夫ハ故障チ言フヲ得ズ然レモ若シ其之ヲ承諾スルチ得タリシナラバ多分承諾シタル可シト信ズルチ得可ク又實際存セザル權力ヲ裁判所ニテ尊敬セザル可ラサルノ理無カラシ又或ハ家内ノ者ヲ生活セシムルニ婦商業チナスノ必要ナルトモアル可シ然ラバ則チ如何ナル場合ト雖モ之ヲ許ルス可キカ許サメル可キカノ何レニカ決定セザル可ラス抑モ此ノ如キ已ムチ得ザルノ場合ニ在テ佛國法律ニ明文無キトモセバ近似ノ法則ニ據テ決定チナスチ要ス而シテ第二百十七條及ヒ其以下就中第二百二十二條ハ蓋シ最モ此場合ニ近似スルモノ歟則チ宜シク之ニ從フベシ故ニ余輩ハ此場合ニ

於テハ裁判所ヨリ許諾チ與フルヲ得可シト決定スルナリトシユラン
ト第一

篇第三百七十八、モリニエー第百六十七、ダロイズ商人ノ部第百七十七、ヘダリード第百二十二、アローセ第百六十五、マツセ第一千一百十四〇反、説ハリー第百三十八、ヌーギエー第一篇第百六十二、ドロン

グ婚姻ノ部第二篇第百四十八、ブラウール第一篇第九十六丁
又一方ニ就テ之ヲ論センニ彼ノ商賣ノ業ナリトスル事ノミニ付テハ夫ノ意見ニ拘ハラズ裁判所ヨリ許諾チ爲スト雖モ毫モ妨クル所無キモノナリ蓋シ第三條ニ於テ幼者ニ關シ第二條ニ記スル所ノ法式ヲ必要トスル如ク右商賣ノ業ニ付テ第四條ニ記スル所ノ者ヲ必要トスル箇條ハ一モ之レ無キナリ又此場合ニ於テハ許諾チ與フルヲ決定スルハ稍々輕少ノ事項ニ涉リテ而ノ之ヲ量判スルニ必ズ憑依トス可キ元素アル可シ又此場合ハ一般ノ許諾チ與フルモノニ非ズシテ特別ナル許諾チ與フルヲナリ故ニ第二百十七條及ヒ其以下ニ記シタル所ト

全ク相類似スルモノナリト謂フ可シ 一千八百六十九年一月十六日及
所言渡ダローズ判決類聚六 三月十三日リナン府民事裁判
十九卷第三部第二十九丁

又若シ夫ヨリ商賣ノ業ナリトスル事件ヲ爲スナ許セシナラハ婦ハ通
法ニ從フテ其旨ヲ記載シタル証書若クハ書類ヲ有セザル可ラズ(民法
典第二百十七條)

(第九十六號) 夫ハ其承諾ヲ取消スヲ得可シ抑モ第四條ニ於テハ婦
ハ夫ノ承諾ヲ得ザレバ商人トナルヲ得ストハ言ハズ其記スル所ハ
夫ノ承諾ヲ得ザレバ商人タルヲ得スト云ヘリ然レハ婦商人タルヲ
得ルニハ右承諾ハ存在セザル可ラス 一千八百四十三年十一月三日巴
里府商事裁判所判決ダローズ一
級裁判例規商人ノ部第七十九丁パルド、シユエー第六十四ロクレ商
法典精理第一篇第二十七丁及ヒ其以下、トウリエー第十三篇第二百五
十七キユハン婦權論第五百八十六及ヒ第五百八十七アラウ
ール第一篇第九丁、アローゼ第五十九マツセ第一千一百十五

又婚姻契約ノ時夫ニテ承諾ヲナシタリト雖モ夫ハ之ヲ取消スヲ得
可シ如何トナレバ若シ之ヲ取消スヲ得ザル者トセハ即チ是レ夫ノ
權力ヲ害スルモノナレバ此事ニ付キ契約書ニ記載セシ箇條ハ無効ト
ル可ケレバナリ(民法典第一千三百八十四條) パルトツシユエー第六十四
然リト雖モ婦若シ財產ヲ分チタルカ或ハ嫁資外ノ財產ヲ有スルカ又
或ハ財產ヲ共通スルヲ無ク借用シタル資本ヲ以テ商業ヲナスルハ許
諾ヲ得タルヲ維持センカ爲メ裁判所ニ出訴スルヲ得可シ是レ法典
討議ノ際ニ決定セシ所ナリ 百五十五丁、民法第七十七篇第五十二丁、第
蓋シ初メ夫許諾ヲ與フルニ決シタルノ理由ハ或ハ重要ナラサルヲア
リテ後日其思考ヲ變換シタルナレハ其理由ヲ裁判所ニ開除スルハ容
易ノコタル可シ又裁判所ハ婦ノ從前ノ經歷ヲ以テ確乎タル量判ヲ下
ダス可キ事由アル可ク 一 篇第二十八丁モリニエー第六十九ダシユ
パルドツシユエー第六十四ロクレ商法典精理第
二百三十五

ウキール第一篇第二十九丁、グロード第一篇第八十一丁、リヤール第七十、ベ
ダリール第四百十四、フラウール第一篇第九丁、アローセ第六十七、〇
反説、ローギエー第一篇第二百五十七丁、第五、パーリー第四
百四、ベスレー第三百九及ヒ第三百十、マツセ第一千百十五、若シ又裁判
官ガ決定シタル後新タニ不都合ナル事情ノ生ズルヲアラハ夫ハ常ニ
之ヲ訴フルヲ得可シ

若シ夫以前ノ承諾ヲ取消シタルキハ之ヲ公ケニセサル可ラズ然ラサ
ル時ハ之ヲ以テ善意ノ他人ニ故障ヲ申立ツルヲ得ズ、一千八百五十
四日、ペリグー府商事裁判所判決、ダローズ、右取消ノ事ヲ公ケニスルハ
判決類聚第五十四卷第一部第七十五丁、且審問所ニ揭示セシム可シ、
此旨ヲ商事裁判所ノ簿冊ニ登記シ、且審問所ニ揭示セシム可シ、
第六十四、ダジウキール第一篇第三十一丁、モリニエー第三百六十八
、パーリー第四百十、アラウール第一篇第九丁、ベスレー第三百十二
、アローセ第六十三、マ
ツセ第一千百十六
然レモ法律ニ於テハ此方法ヲ明示セズシテ他人ノ之ヲ知リタルヲ測

定ス可キノ法則無キヲ以テ從令許諾ヲ取消シタル旨ヲ公ケニシタリ
ト雖、凡全ク之ヲ知ラザリシ他人ニ對シテハ其由ヲ申立ツルヲ得可
ラス、
ベスレー第
三百十二

如何ナル場合ニ於テモ許諾ヲ取消シタル事ハ既往ニ及ブノ効ヲ生ズ
ルヲ無ク而シテ既ニ始メタル事務ハ婦之カ結局ヲナシ其決算ヲナス
ヲ得可キモノトス、
マツセ第
一
千百十七

(第九十七號) 若シ夫婦ノ中幼者タル時ハ如何

婦幼者タル時ハ二個ノ能力ナキ者ナレバ第二條及ヒ第四條ニ記スル
要件ヲ具有セザル可ラズ、
パルド
ツシユ
第六十三、
ダジウ
キール第
一篇第
三十丁、
モリニ
エー第
百六十五
デルウ

リ、ン、ク、ール、第三、篇、第七、丁、シ、ユ、ラ、ン、ト、ン、第二、篇、第、四、百、七、十、六、ウ、リ、セ、イ
ユ、第、三、百、三、十、チ、リ、ヤ、ール、第、百、六、十、八、パ、ー、リ、ー、第、三、百、九、十、八、ス、ー、ギ、ユ
一、商、事、裁、判、所、第、一、篇、第、十、丁、ベ、ダ、リ、ー、第、百、十、九、ブ、ラ、ウ、ール、第、一、篇、
第、九、十、丁、ベ、ス、レ、ー、第、二、百、九、十、九、及、ヒ、其、以、下、ア、ロ、ー、セ、第、六、十、マ、ツ、セ、第

一千一百十四〇反説カドレ
民法典條款理由第二十九丁

夫幼者タル時ハ一身ニテ商業ヲ爲スヲ得ズ且其許諾ヲ要スルノ主意ハ其婦ヲ保護スルニ在ルガ故ニ又一身ニテ許諾ヲ爲スヲ得ズ蓋シ此事ニ關シテハ寧ロ民法ニ於テ考究ス可キノ説數多アレモ余輩ハ夫ニ於テ裁判所ノ同意ナル上ハ其婦ニ許諾ヲ與フルヲ得可シト決定スルナリ然ル時ハ夫ノ權カト婦ヲ保護スルトノ二個ノ利益ヲ損傷スルヲ無カル可シ何トナレハ民法典ニ記スル所ニ據レハ裁判所ノミハ夫ニ代リテ婦ヲ保護ス可キ權ヲ有スレバナリ(第二百二十一條第二十二條第二百二十四條)ベスレ一第三百十七〇反説夫ノ親族ヨリ許諾ヲ與フ可シウツゼイユ第二篇第三百三十一條ノ部第七十五ヲリヤール第六十七〇裁判所ニ限リ許諾ヲ與フ可シバルドツシユ一第六十三モリニユ一第六十四

ユラントト第一篇第四百七十八、ダロ一ズ商人ノ部第七十七、ベダリ一第百二十一、マツセ第一千百十四〇此場合ニ於テハ婦ハ許諾ヲ受クルヲ得可ラスヌ一ギエ一第一篇第二百九十二丁、アローセ第六十四法律ニテ必要トセラレタル事ヲ違犯スル時ハ罰トシテ關係上契約ヲ取消ス可シ此取消ノ事ノ區域及ヒ結果ハ幼者ニ就テ上文論述セシ所ヲ觀ル可シ(第八十四號及第八十五號)

第二款 商人ナル結婚婦ノ能力ノ事

第一 商賣ノ業ニ付テノ能力
第五條第一項 婦公ケノ商人タル時ハ其商業ニ關シタル事ニ付キ其夫ノ許諾ヲ得スシテ自カラ契約ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テ夫婦互ニ其財產ヲ共通シタル時ハ夫モ亦其契約ノ義務ヲ負フ可シ(第九十八號) 此箇條ハ民法典第二百二十條第一項ニ記シタル事ヲ揭

出セシ者ニシテ婦ハ商賣ノ業ニ付テハ全權ヲ有スルヲ以テ一千八百六十七年前ニハ禁錮ノ處分ヲ受ク可キモノナリキ然レトモ其能力ハ其商業ノミニ限ルモノニシテ(第五條民法典第二百二十條第千四百二十六條)之ニ限リタルヨリ生ズルノ結果ハ幼者ニ於ケル者ト同一ナリ而シテ其商業ニ關セル義務ヲ証スルニ付テモ亦同一ナリ此事ニ付キ上文第八十七及ヒ第八十八 ブラウワール第一篇第九十七丁、ベスレー 一千百ニ述ベシ者ヲ參考ス可シ 第三百四十七アローセ第八十五マツセ 然リト雖モ幼者ト異ナル所一アリ其能力ニ一制限アル者は是レナリ蓋シ婦ハ特別ノ許諾ヲ得ズシテ裁判所ニ出ツルヲ得ス即チ民法典第二百十五條ニ明載スル所ナリ此事タル夫ノ名ノ爲メニ極メテ重大ナル者ナリ而シテ夫ヨリ許諾ヲ與フルヲ必要トスルモ之ヲ與フルハ容易ノ事ニシテ又裁判所ニ出ヅルハ商賣ノ業ニ於ケルガ如ク急速ヲ

要セザルナリ

パルドッシユール第七十、デルウワソクール第二篇第八丁、ベズワール第一篇第九十七丁、ブラウワール第一篇第九十七丁、

百二十三及ヒ第八十一、マツセ第一千一百二十四、若シ此場合ニ於テ婦夫ノ許諾ヲ受ケザルキハ裁判所ニテ婦ニ許諾ヲ爲スヲ得可シ何トナレハ此許諾タル特別ナル事項ニ關スルモノニシテ且商人ナル婦ノ裁判所ニ出ヅル場合ハ民法典第二百五條ニ於テ明カニ規定シタルヲ以テ第二百八條ハ此場合ニ關スルモノニ非ズト云フヲ得可ラザレハナリ婦若シ原告人ナルキハ夫住居ノ地ノ民事裁判所ニ願出ツ可シ(訴訟法典第八百六十一條)被告人ナルキハ本訴ヲ受理セシ商事裁判所ニテ婦ニ許諾ヲ與フルヲ要ス何トナレハ如何ナル箇條ニ於テモ之ヲ民事裁判所ノミノ管轄トシタルヲ無ク而シテ民法典第二百十八條ニ於テハ只廣シ裁判官ト云ヒ契約ヲ取結ブノ許諾ヲ得ルニ付ハテ第二百十九條ニ於テ其管轄ノ裁判所ニ限ルヲトシタレハナリ 一千八百十三年八月十七日破毀判決

シレ、判決集一千八百十三年ノ部第一部第四百四十四丁、一千八百七十三年二月二十一日破毀判決一千八百五十七年一月九日巴里控訴院判決、商事裁判所日誌第九百八十七、第二百十九丁及ヒ第二百六十、第五百二十二丁、ザッシャリ、第三篇第三百二十九丁、ドモロン、婚姻論第二百六十六、ベスレー、第四百三十五マツセ、第一千二百二十四

然レ、此婦商人タル時ハ、特別ノ許諾ヲ得ズシテ裁判外ノ事件ヲ爲スヲ得可シ、使吏ノ取扱フ可キモノト雖、亦タ同シ、譬ヘハ手形ノ拒ミ証書ノ如キ是レナリ

(論)婦ハ新タニ許諾ヲ得ズシテ、會社ヲ結フヲ得可キ乎、論者ハ概テ之ヲ不可ナリトセリ、蓋シ此事タル婦ハ絶ヘズ社員ト關係ヲ有スルヲ以テ夫ニ在テハ甚タ重大ナル事件トス、而シテ夫ノ許諾ナル者ハ公ケナルニ非ラズ、又往々黙諾ナルコトアレハ其許諾ハ之ヲ與フル際婦ノ行フ所ノ商業上ノ豫見ス可キ直接ナル結果ノミニ止マルモノナリト看做

ス可キハ至當ノ事タルベシ、一千八百五十九年十一月九日願訴局判決、ダロ、例決類聚第六十卷第一部第八十

七丁等、バルト、ツシユ、第六十六、モリニエ、第七十六、ドモロン、婚姻第二百九十七、ドラング、會社篇第五十六、ベダリ、ド、第二百二十五、マール、及ヒシヨール、ダン、會社篇第十三、ブラウ、ド、第一篇第四百四十九、アロー、セ、第五百五十五、〇、反説、パ、リ、第四百三十二、カ、ド、ン、第四百四十一、ド、マン、シ、ヤ、ラ、ウ、ル、評論、第一

第二 民事ノ事業ニ付テノ能力

第七條 又公ケノ商人タル婦ハ其不動産ヲ質入又ハ書入質ト爲シ、又ハ移轉スルヲ得可シ、然レ、此夫婦其婚姻ノ契約書ニ嫁資分括ノ法ニ循フ可キヲ定メタル時ハ其婦民法典ニ定メタル場合ト規則トニ循ハザレハ其嫁資ノ不動産ヲ書入質ト爲シ、又ハ移轉スルヲ得ス

(第九十九號) 第一項ニ己レガ意ニ不動産ヲ移轉スルヲ得ルト云ヘ

リ是レ婦ノ幼者ヨリ多少能力アルヲ知ルニ足ル蓋シ婦ハ一身ニ十分ナル能力ヲ有スルモ夫ハ其與ヘタル一般ノ許諾ヲ何時ニテモ取消スヲ得可キニ因リ之ガ爲メニ其權力ヲ害セラル、一無カル可シ而シテ婦カ其能力ヲ有スルニハ左ノ三條件ノ具備スルヲ必要トス

第一 婦ハ丁年者タル可シ若シ丁年者タラサル時ハ第六條ニ記載スル規則ニ順ハザル可ラス

第二 其移轉ノ原因ハ商業ノ事タル可シ幼者ニ付キ此事ヲ論シタル所ヲ(第八十九)參觀ス可シ

第三 商業ヲナス許諾ヲ得タル事若シ商賣ノ業タル一事件ヲナスノ許諾ヲ得ルコ止マルハ婦ハ其許諾ヲ得タル事件ノ爲メニハ其不動産ヲ移轉シ或ハ書入質トナスヲ得可ラス ベスレー第 四百六十四

第二項ニ嫁資タル不動産ハ夫ノ許諾ヲ得ルト雖モ移轉ス可ラザル者

タルヲ以テ之ヲ例外トシ嫁資分括ノ法ニ順フ可キヲ決定メタル財産ト云ヒ甚ク狹隘ナル言詞ヲ用ヒタリ又其規則ハ婚姻契約書ニ記載シタルガ故ニ暗ニ家資タル財産トナス可キモノニモ之ヲ適用スルヲ得可ク(民法典第一千五百四十一條)而シテ其財産ハ婚姻ノ間移轉ス可ラザルハ勿論其間ニ取結ビタル如何ナル借財ノ事ニ付テモ差押ユ可ラサルモノトス

(第百號) 第三 商人タル婦ノ爲シタル契約ヨリ夫ニ對シ生スル結果婦夫ト財産ヲ共通スルハ其爲ニ付テ夫ハ義務ヲ負擔セザル可ラズ(第五條第一項ノ末文)民法典第二百二十條及ヒ第一千四百二十六條ニ於テモ既ニ同一ナリ規則ヲ設ケタリ然レモ此等ノ法則ニ於テハ不明ノ默許々多アリトス

今之ヲ釋明セント欲セハ先ツ結婚ノ婦ハ如何ナル資本ヲ以テ商業ヲ

爲ス丁チ得可キヤ否ヤチ論究セザル可ラス蓋シ婦財產ヲ分チタルカ
 或ハ嫁資ヲ以テ結婚シ嫁資外ノ財產アルトハ毫モ疑フ可キ點之無キ
 モノトス何トナレバ夫ヨリ許諾ヲ受ケタル上ハ婦其財產ノ全部又ハ
 一部ヲ自由ニ處置スルノ權アルヲ以テ其自由ニナス可キ財產ノ部分
 ナ其商業ニ使用シ且契約ヲ取結ブトハ之ヲ其債主ニ質物トスル丁チ
 得可ケレバナリ然リト雖田若シ他ノ方法ヲ以テ結婚シタルトハ夫ハ
 一名義ニ因リ其財產ノ利益ヲ收入シ且之ヲ管理スル丁チ得可シ果シ
 テ然ラハ則チ此場合ニ在テハ婦商業ヲナスニ如何ナル財產中ヨリ其
 自由ニ處置スルヲ得可キノ財產ヲ獲得スル乎二個ノ方法アリ以テ之
 チ獲得スル丁チ得可シ

其第一ノ方法ハ婦ノ商業ニ必要ナル資本ヲ自由ニ處置スルノ權ハ夫
 ヨリ之ヲ拋棄スルヲ得可丁是レナリ蓋シ夫ハ概チ之ヲ拋棄スルモ
 ノナリ而シチ此拋棄ノ事タル毫モ民法典ニ背反スル丁無ク又家政ノ
 長タル者トシテ夫ノ有スル權利ヲ害フル丁無シ(民法典第一千三百八
 十八條)何トナレバ其拋棄スル所ノ財產ハ些少ニシテ之ヲ以テ夫ガ婦
 ノ財產ノ全部ヲ支配スルヲ妨ケザル可ケレバナリ又一方ノ點ニ於テ
 觀察センニ夫其財產ノ一部ヲ拋棄スルモ其所爲ノ性質狹少ナルヲ以
 テ婚姻ノ契約書ノ變動ス可ラサル事ニ反背スルトハ謂フ可ラス又第
 一千五百七十七條及ヒ其以下ノ規則ニ從ヘバ縱令婚姻契約ニ據レバ
 夫ニハ婦ノ財產ヲ管理スルノ權無キモ婦ヨリ其一部若クハ全部ヲ管
 理スルノ名代權ヲ之ニ與フル丁チ許ルセリ若シ此ノ如ク契約ト異ナ
 ル所爲ヲ以テ婚姻契約ヲ害スル丁無シトセバ之ニ反對セル所爲アル
 モ亦該契約ヲ害スル丁無カル可シ
 夫ヨリ婦ニ資本ノ一部ヲ拋棄スルハ屢々默諾ニ出ヅル丁アリ而シテ

其類ハ先ツ婦ノ商業簿冊ニ就ヒテ之ヲ知ル可ク夫ハ其婦ニ商業簿冊
シテ婦若シ之ヲ設置セサルキハ其許諾又實際其商業ニ充用シ或ハ商
品ヲ買入或ハ商店ノ庫中ニ貯藏シ或ハ之カ爲メニ銀行主ニ預ケタル
有價物ノ高ニ據テ之ヲ知ルヲ得可シ

又婦自己ノ商業ニ必要ナル資本ヲ得ルノ他ノ方法ハ人ヨリ金高ヲ借
用スルニ在リ而シテ此場合ニ於テハ此借用金ハ夫ニテ管理シ又ハ直
接ニ享有スルヲ無キノ定メコテ其明諾或ハ黙諾ヲ以テ之ヲ借用スル
モノトス此要件ハ適法ノモノタリ何トナレバ贈遺ノ契約中ニ此種ノ
要件ヲ載スルヲハ概テ人ノ可トスル所ナレバ金高借用ノ契約ニ於テ
之ヲ不可ナリトスルノ理由無ケレハナリ

右ノ如クシテ婦其商業ニ充用シタハ資本ハ婚姻契約ノ方法如何ヲ問
ハズ其商業上ノ債主ニ抵當物トナル可シ若シ夫ヨリ此資本ノ出シタ

ルキハ夫ハ其之ヲ拋棄スルノ前ニ有シメル收益ノ權アルヲ該債主
ニ對シテ申立ツルヲ得ル者ナリト看做サル可ラズ然レモ若シ共
通財産ヨリ此資本ヲ取リシナラバ夫及ヒ共通財産ノ債主ハ婦ノ債主
ト共ニ之ヲ差押ユルノ權ヲ依然有スルモノトス
四〇モリニエ一第百
八十三パーリ一第四百五十六、ベダリ一第百三十七、ヘスレ一第三百
七十二及ヒ其以下、アローセ第七十ヨリ第七十二ニ至ル、マツセ第一千
一百三十三共二〇反説
ハルドッシユ一第六十九

(第百號其二) 前文ニ原則ヲ示シタレバ今夫ハ商人タル共婦ノ負債ヲ
擔當ス可キヤ否ヤ又若シ之ヲ擔當スルヲトセハ如何ナル點迄之ヲ擔
當セサル可ラサル乎ヲ探究スルヲ要ス

夫婦財産ヲ共通スル場合ニ付テハ法律ニ明文アリ即チ夫ハ己レカ財
産ト共通財産トノ全部ヲ以テ負債ヲ擔當セサル可ラズ是レ婦夫ノ許

諾ヲ得テ負フタル債ハ夫之ヲ擔當ス可キノ規則ヨリ生ズル所ナリ(民法第一千四百十九條)然レ此規則ノ理由如何ヲ尋テシニ此問題ハ此規則ハ下ノ意ニ基ク者ナリト謂ハシ曰ク義務ニ關スル總則ハ凡ソ義務ヲ負擔スル者ハ己レガ財產ヲ舉ゲテ之ヲ負擔スル者ナリト蓋シ道理ニ適ヒ實際ニ合フモノト謂フ可シ夫レ財產ヲ共通スル婦ハ其不可分のナル半ニ付テハ現ニ確乎タル共有ノ權ヲ有スルモノナリ然ラハ則チ夫其婦ニ義務ヲ負擔スルコトヲ許諾シタルハ己レガ財產ハ勿論共通財產ヲモ其義務ニ充ツルコトヲ許諾シタルト認ムルハ決シテ道理ニ背ムクモノナリト謂フニ得ラス況ンヤ夫其婦ニ商業ヲナスコトヲ許諾シタル以上ハ嚴密ニ之ヲナスノ方法ヲ與ヘ且其義務ノ効アリテ且信用ヲ得ル爲メニハ十分ナル地位ヲ其債主ニ表スルノ方法

チ與ヘント欲シタル可ケレバ己レノ財產ヲ舉ゲテ婦ノ義務ニ充ツルハ至當ノコトナルチヤ若シ債主財產ヲ共通スチ婦ニ對シテ其財產ノ虛有權ノミニ就テ訴訟ヲナスニ非サレバ能ハストセバ是レ債主ハ婦ノ結婚ノ間ハ實際幾ノト得可ラサルノ財產ヲ抵當ニ取ルモノナル可ク而シテ此虛有權ヲ賣拂フモ管ニ債主ノ大損タルノミナラス又婦ノ損失トナル可キナリ

然リト雖モ若シ婦共通財產中ノ己レガ部分ヲ商業ニ充用シタルハ其部分ハ別異ニシタルモノニ非サルヲ以テ夫ノ部分ト各別ニ之ヲ差押ユルコトヲ得可ラス而シテ夫婦ノ利益ハ全ク混同スルモノナレバ共通財產ノ全部ヲ差押ヘント要ムルノ權ヲ債主ニ與ヘサルヲ得サリシナリ然ラズンバ則チ債主ノ抵當ハ幾ンド絶無ナルガ如クナレハナリ又夫チモ訴フルノ權ヲ債主ニ與ヘサル可ラサルノ理アリ何ツヤ共通財

産ニ關スル總テノ負債ニ付テハ夫ニ對シテ訴フルヲ得可キハ民法ノ規則タレハナリ故ニ余輩ハ以謂ラク許諾ヲ得テ商人タル婦ハ直接ニハ自己ノ財産及ヒ共通財産中ノ自己ノ部分ヲ以テ義務ニ充ツ可ク而シテ間接ニハ民法ノ規則ニ據リテ結果上夫ヲシテ共通財産及ヒ其ノ財産ノ全部ヲ以テ義務ニ充テシムルヲ得可シ

(論)此場合ニ於テハ夫ノ義務ハ商賣上ノ事ナル乎此問題ハ禁錮ノ制廢セラレタル以後ハ利益甚ク少キモノトス何トナレハ婦ノ商業上ノ償主ハ夫ニ對シテ訴訟ヲナス時ト雖モ商法上ノ方法ヲ以テ其債主ノ權ヲ證明セサル可ラサレハナリ又商業上ノ義務ヲ保證シタル事ハ全ク民事上ノモノナリト雖モ之ヲ證明トルニハ亦商法上ノ方法ヲ以テセサル可ラサルナリ故ニ此論題ハ只管轄ノ界ニ止マルヲ知ル可シ蓋シ婦ハ夫ノ爲メニ商賣ノ業ヲナスニ非ズ又夫ノ名前ヲ以テ之ヲナス

ニ非ズ婦一名コテ商業ヲ營ムノミ而シテ夫ハ固ヨリ婦ノ後ニ在ルモノナリト雖モ其義務ヲ負擔トルニ至ル可キ者ハ即チ一ニ民法ニ定メタル規則アルニ根由スルナリ

抑モ夫タル者ハ或ハ婦ノ連帶保證人ナリトモ謂フ可キモノナレモ連帶保證人ハ勿論連帶負債主モ同一ノ物件ヲ辨償スルニ他ノ連帶保證人或ハ連帶負債主ト異別ナル方法ヲ以テスルヲアリ(民法典第一千二百一條)然ラバ則チ綜合連帶負債主或ハ主タル負債主ハ商法上ノ方法ニ從フテ辨償ノ義務アリト雖モ一方ノ保證人或ハ負債主ハ民法上其義務ヲ行ハサル可ラサルヲアルモノナリ夫其婦ノ爲ス所ノ商業ヨリ利益ヲ受クル事アリト雖モ之ヲ以テ其義務ノ性質ヲ商業ナリトハ爲ス可ラズ何トナレハ利益ノ一部ヲ受クル貸金主及ヒ利割役員(按)利割歴主ト共ニ利益ヲノ如キハ商賣ノ業ヲナスモノニ非サレバナリ(マ)分割スル者ヲ云フ

ル及ヒルボツトウツン第二版第一節第六十八、モリニエー第百八十四
ドモロンブ婚姻論第二篇第三百十三、ブラウツール第一節第百二丁及
ヒ其以下アローセ第七十五、マツセ第一千一百三十二〇反説デルウツ
ンクール第一節第百六十七丁第二
篇第六丁バリーリ第四百五十九

(第百號其三) 若シ他ノ婚姻方法ヲ以テ結婚シタルキハ如何

夫婦其結縁ノ間ニ得タル財産ノミチ共通ス可キ契約ヲ結ビシキハ法
律上財産ヲ共通スル時ト同一ナル規則ニ從フ可シ蓋シ法文ヨリ之ヲ

觀レハ夫婦結縁間ニ得タル財産ノミチ共通ス可キ契約ヲ結ビタルモ
均シク是レ「財産ヲ共通スル」トコシテ「商法典第五條民法典第二百二十

條又此方法ノ總則ニ於テハ夫其婦ニ民法上義務ヲ負擔スル丁ヲ許諾
シタルキハ常ニ義務ヲ負擔スルモノナリ又道理上ヨリ之ヲ觀ルコ夫

婦互相ノ利益ノ混同スル財産其間ニ存在シテ而シテ婦ハ其共有者ナ
レバ之ヲ債主ニ抵當トナスハ至當ノ事タルヘシ

之ニ反シ夫婦若シ財産ヲ分別シタルキハ決シテ前ノ理由ニ因リ夫ヲ

シテ責ヲ受ケシム可ラスアローセ第六十九マツ

若シ財産ヲ共通スルト無ク又嫁資ヲ齎ラサルキハ論題甚ク決シ難

シトス婦ノ財産悉皆嫁資ナルキハ玆ニ論スル點ヨリ之ヲ觀レハ嫁資

ノ財産悉皆嫁資ナル此場合ニ付テ常ニ論述ス可シ若シ其財産ノ一部

分ノミ嫁資ナルキハ財産ニ分別シタル法ト嫁資ノ法トニ關スル規則

ヲ混合セサ然レモ余輩ハ斷然夫ハ商人タル其婦ノ義務ノ責ヲ受クヘ

カラスト思惟スルナリ蓋シ夫婦間財産ヲ共通スル丁無キヲ以テ夫ニ

責ヲ負ハシム可キノ明文無之且此方法ヲ以テ婚姻ヲ結ビシキハ夫婦

ニ民事上義務ヲ負フヲ許諾スルモ以テ自ラ義務ヲ負フモノニ非サ

ルヲ以テ此事ニ類似ノ件ヲ規定シタル法律ノ適用ス可キモノ無シ又

道理上ヨリ論スルモ亦不可ナリ何トナレハ夫收買者或ハ管理者トシ

テ其婦ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ占領スル者ハ即チ自己固有ノ專權ニ

因ルナリ而シテ他ノ收實者ニ對セル虛有權ナル者ニ非サレハ婦ハ夫ニ對シテ要求スルヲ得サルモノトス故ニ婦義務ヲ負フキハ其嫁資財產ノ虛有權ヲ以テ他人ニ抵當トナスヘキノミ縱令夫ヨリ許諾ヲ受ケタリト雖モ全ク己レニ屬セサルコトナリ該財產收實權ヲモ抵當トナスヲ得可シトスルノ理由無之ナリ

或ハ云ク然レモ夫若シ婦ノ爲ス所ノ商業ヨリ生スル利益ヲ受クルキ

ハ又其損失ヲ擔當スルハ不正ト謂フ可ラストバルドツシエー第六十八ヘダリード第三百三十

三、チリヤール第百七十二シエラントノ第二篇第百八十、デル余輩ハ

先ツ之ニ答ヘテ言ハントス曰ク是レ正義ノ望ム所ニ非スト蓋シ利益

ノ配分ヲ受クル貸金主及ヒ金主ノ如キハ利益アリシ以上ハ無限ニ之

ヲ收受シ而シテ損失アルニ當テハ其會社ニ差出シタル資金返ノ外ニ

ハ擔當スルコト無キニ非スヤ下文第二百及第二百十三參觀ベスレ一第

三百九十八

及ヒ其然ルニ夫ニ至テハ必ス婦ノ商業ノ損失ヲ負ワシムルハ是レヲ至當ト謂フ可ラス

然リト雖モ此點ニ付テハ聊カ詳述セサル可ラサルモノアリ左ニ之ヲ陳セン

前文ノ婚姻方法ニ於テハ夫ハ其婦ノ商業ノ利益ヲ取得スルモノアル乎須ラク區別ヲ立テサル可ラス

若シ夫其收實權ヲ有スル財產ノ一部ヲ管理スルノ權ヲ婦ニ放任シ以テ其商業ノ資本ニ充テタルキハ縱令商業ノ資本ハ婦自ラ之ニ管理ス

ルト雖モ之ヲ嫁資ト看做サベシ可ラス而シテ其財產ヨリ生スルノ利益ハ嫁資ヨリ生スルノ利益ト看做シ以テ夫ノ所得トナサベシ可ラス

又毎歳ノ目錄ニ因リ凡ソ此ノ如ク見ユ可キ者ハ皆利益ト看做スヲ要ス而シテ夫婦ニ商業ノ資本ヲ増加セシムルガ爲メ該利益ヲ之ニ放任

スルヲ承諾シタルカ或ハ最初ニ商業ノ要件ヲ婦ト定メ置キ該利益ヲ之ニ放任スルヲ承諾シタル場合ヲ除クノ外ハ毎歳之ヲ收入スルノ權アル可シ假令此ノ如ク夫ハ婦ノ商業ノ利益ヲ所得トスルコトアルモ夫ニ於テ婦ノ負債ヲ擔當スルニ及バサル可ク又其既ニ收入シタル利益ヲ返還スルニモ及バサル可シ而シテ夫ハ決シテ之ヲ擔當ス可キノ契約ヲ結ハサリシヲ以テ猶ホ商業ノ利益ノ爲メニ財産ノ收實權ヲ拋棄シ之ヲ其商業ニ供シタル者會社ノ損失シタル場合ニ於テ榮昌ノ時ニ收入シタル利益ヲ之ニ差出スニ及ハスシテ只其加入物ノミヲ損失ス可キノ任アルガ如クナラサル可ラス

下文金主ニ關スル 自己ノ名義ノミヲ以テ商業ヲ爲ス所ノ婦ハ財産中其一身ニ屬スル所ノ物即チ其ノ總財産ノ虛有權ヲ以テ其商業ノ責ニ任スル無限責任社員ノ如クナリトス果シテ此ノ如クナレバ其信用ハ或ハ少小ナル可ク其信用少小ナ

ルガ故ニ商業ニ支障アリトセハ須ラク夫婦双方ノ協力ヲ以テ資本ヲ増加スルカ或ハ夫ノ名前ヲ商業ニ出スコト、スヘシ

若シ夫資本ヲ供セスシテ婦之ヲ他人ヨリ借りタルトハ其得タル利益ハ(資本者ニ金利ヲ拂ヒタル後)之ヲ夫ニ與フルニ及バサルヘシ蓋シ此場合ニ在テハ其利益ハ婦ノ勞働、作業ニ因リテノミ生シタルハ明カナレバ夫ニ與ヘサル可ラサルトトセハ則チ當サニ婦ノ作業ヲ以テ元資トナシ其利益ヲ果物トナスベキヲ要ス此説タル或ハ經濟上ノ理ニ合フト雖モ言辞ノ常意及ヒ立法者ガ之ニ附與シタル義意ト一致セサルモノナリ何トナレバ民法典第一千四百九十八條ニ於テハ明カニ夫婦ノ財産ノ果物ト其作業ノ生産物トヲ分チテ而シテ此二者ハ固ヨリ結縁ノ間ニ得テ共通ス可キ財産中ニ入レタルモノナリト雖モ之カ爲メニ明文ヲ以テ作業ノ生産物ヲ示定セサル可ラサルトトナシタレバ果物

ノミノ事ヲ記スル他ノ場合ニ於テハ民法典第一千五百三十條及ヒ第一
 千五百四十九條夫婦ノ作業ヨリ得タル財産ヲ除キタルモノナリト
 決斷セサルヲ得ザレハナリ パルドッシュユ一第六十八モリニエ一第百八
 十三ブラウール第一篇第五百五及ヒ其以
 下アローセ第七十二第七十三マツセ第一千一百三十一〇反説テルウ
 ワンクール第二篇第六丁シユラントン第十五篇第二百五十九第二
 九十五ヲリマール第百七十二ハ一リ
 第四百五十二ベダリ一第百三十三
 然リト雖モ婦若シ其商業ノ利益ヨリ生出シタル資金ヲ得タルモハ其
 資金ハ元金トナリ婦ヨリ之ヲ夫ニ返償セサル可ラサルモノナルヲ知
 ラサル可ラス然レモ此場合ニ於テモ夫ハ前ノ場合ノ如ク婦ノ商業上
 ノ債主ニ對シテ毫モ負擔スル所無カル可ク而シテ其債主ハ只該元金
 ノ所有權ノミヲ差押ユルヲ得可キノミ コントウリエ一第十二篇第
 二百五十四ブラウール第
 一篇第百五丁及ヒ其以下パルドッシュユ一第六十八モリニエ一第
 百八十三アローセ第七十二第七十三マツセ第一千一百三十七

附言

夫商業ノ爲スル其婦ノ地位

第五條第二項 婦ハ其夫ノ商品ノ零賣ヲ爲スノミニシテハ公
 ノ商人ナリト看做ス可ラス別ニ自ラ商業ヲ爲ス時ノミ之ヲ公
 ケノ商人ナリト看做ス可シ

(第百一號) 古法ニ在テハ婦ノ商品夫ノ商品ト別異ナル者ニシテ且之

ヲ分チタルニ非サレハ其婦ヲ商人ナリト看做ス可ラサリシガ(巴里府
 慣習法第二百三十五條)當今ハ其商業ヲ別異ニスルノミヲ以テ十分ナ
 リトス故ニ婦ハ商店商品置場及ヒ其商業ノ利益ニ於テ全ク別異ニス
 ルアル以上ハ夫ノ商業ト同一ナル種類ナリト雖モ別ニ之ヲ爲スヲ得
 得可シ パルドッシュユ一第六十五ヌーギエ一第一篇第二百六十三丁セ
 四百二 ビル及ヒカルトレ第三百二ベダリ一第百四十ベスレ一第
 十三

婦若シ夫ノ商品ヲ零賣スルモハ其代人若クハ其役員ト看做ス可ク如何ナル事ニ付テモ夫ノ義務ヲ負ヒ婦ハ一切之ニ關セサルモノトス

ルチユ一爲換契約論第二十八パルドツシユ一第六十五、ナリヤール第百七十四セビール及ヒカルトレ第三百十六ベダリ一第百四十五ベスレ一第四百十五マツセ第一千其他夫ノ商業ニ付テ婦ノ爲シ得可キ諸業ニ於テモ同様ニシテ譬へハ賣品目錄ニ署名シ商業手形ニ署名シ及ヒ之ニ裏書スル如キ假令婦自ラ之ヲ爲スト雖モ以テ商人ナリト看做ス可ラス

一千八百五十一年五月二十七日破毀判決ダロ 婦夫ニ代リテ此等ノ業ヲナスニ必スシモ明カニ委託ヲ受クルニ及ハス而シテ其之ヲ爲スヲ得可キ者ハ夫ヨリ默任ノ委託ヲ受ケタリト推定ス可クレバナリ

デルウツンクール第一篇第八十丁第三項、トウリエ一第二篇第六百三十四、ナクヤール第百七十四マツセ第一千一百四十四

然リト雖モ此名代權ハ商業ニ於テ通常爲ス可キ業ニ限り制限無キモノニハ非ス是ヲ以テ婦若シ其權限ノ事ヲ爲シタリシキハ夫ヲシテ義務ヲ負ハシムルヲ得可ラス

アローセ 第七十七 故ニ婦若シ一人ニテ商店ノ頭トナルヲ屢々アリテ平生夫ノ不在ナルニ際シ其指圖ヲ爲セシ時ノ如キハ已レノ名ヲ以テ商業ニ關與シタルニ因リ義務ヲ負擔セサル可ラ

ストノ裁判アリキ其故ハ他人ハ婦ニ信任ヲ措キタルニ由ル 一千一百六十九年願訴局判決グロース判決類聚 此解タル余ガ詳究セサル可ラサル所ノ第六十九卷第一部第二百八丁

一問題ニ關係スルモノナリ

(第百二號) 婦ハ其夫ト商業會社ヲ取結フヲ得可乎、余輩ガ茲ニ論ス可ラサル純乎タル民法上ノ二個ノ問題ハ確定シタリト想定ス可シ其第一ノ問題ハ法律上明文ヲ以テ夫婦間ニ禁シタル事件ヲ除ノ外如何ナル契約ニテモ其間ニ之ヲ取結ブヲ得可キ事(民法典第一千五百九

十五)第二ハ夫婦ト契約ヲ結ブ時ト雖凡夫ノミヨリ之ニ能力ヲ與ヘタルモ効アル可キ事此二個ノ點ニ付テドモロソフ婚姻論第二百三十一ヨリ第二四十一ニ至ルヲ參看スベシ是レナリ以上ノ二件ヲ然リト認ムルモ尙ホ重要ナル二説アリ左ニ之ヲ聞述セン

第一説 然ラバ夫婦ニ取結ヒタル會社ハ必ス婚姻契約書ニ抵觸スルモノナレバ民法典第一千三百九十五條ニ從フテ之ヲ取消サバ爾可ラス蓋シ此會社タル夫婦間ニ存スル利益ノ共通ヲ改更スルカ或ハ婚姻契約書ニテ禁シタルニ其共通ヲ創定スルヲアルヘシ又此會社ヲ結ビタルニ因リ夫其婦ノ財産ヲ管理スルノ權ヲ増減シ或ハ以テ夫ノ財産若シハ共通財産ヲ管理スル甚ダ廣汎ナル權ヲ婦ニ與フルヲアルヘク而シテ此等ノ諸効ハ皆民法典ノ規則ニ反背スルモノヌレハナリ商法典第五條及ヒ民法典第二百二十條ハ婦其夫ト共ニ商業ニ從事スル場

合チ仮想シ婦ハ商人ト看做ス可ラズ之ヲ商人ト看做スニハ其別ニ商業ヲ爲スヲ要スト云ヘリ是レ婦ハ夫ノ商業上ノ事務ヲ爲スニ付テハ決シテ義務ヲ負擔ス可ラサルヲ明カニシ其組合人タル可ラサルヲ示スモノナリ何トナレバ若シ此等ノ業ヲナス者婦ニ非ズシテ他人ナリシキハ之ヲ名代人ナリト推定ス可フスシテ組合人ナリト推定ス可ク而シテ此組合人ハ他人ニ對シ自己ノ名前ヲ以テ義務ヲ負擔セザルヲ得サルヘキナリ一千八百五十九年三月九日巴黎控訴院判決ヨレ第五十卷第二部第五百二丁〇パーリー第四百

第三十二其三マツセ
第一千二百六十三
第二説 然リ蓋シ夫婦其財産ヲ擧ゲテ互ヒニ一會社ヲ結ビ以テ萬事ヲ爲スキハ其如何ナル會社タルヲ問ハズ固ヨリ多少婚姻ノ契約ヲ傷ク所アルニ因リ其會社ハ必ス取消サ、ル可ラサルモノトス然リト雖凡若シ通常ノ商業會社ヲ結ヒタルキハ縱令其會社ハ合名會社ナリト

雖凡各々僅少ナル資金ヲ出シ一定ノ自由ヲ有スル以上ハ毫モ婚姻契約ヲ害スル所無シ以上二種ノ契約ハ全ク別異ナル區域ヲ有スルモノニシテ社員ニシテ管轄者タル夫ガ會社ノ資本ノ上ニ有スルノ權ハ夫カ夫タル分限ヲ以テ共通財產或ハ其婦ノ財產ノ上ニ有スル權トハ同一ナラス二種ノ權ハ固ヨリ各別ニ之ヲ行フヲ得可シ殊ニ夫ハ婦ノ嫁資外ノ財產或ハ財產ヲ分チタル婦ノ財產ヲ管理スルノ委託ヲ受クルヲ得ルモノナリ(民法典第一千五百七十七條及ヒ其以下)婦モ亦會社ノ社員トナリテ其資本ヲ管理スルト雖凡夫ガ家長ノ分限ヲ以テ有スル所ノ權利ヲ毫モ害スルヲ無シ(民法典第一千三百八十八條)法律上財產ヲ共通スル時ト雖凡右ノ如キ會社ヲ結ブヲ得ヘシ何トナレハ婦ハ之ニ固有ノ一不動産ヲ供スルヲ得可ク而シテ若シ其名前社員タルニ於テハ會社ノ債主ニ對シテ其固有財產ノ全部ヲ擔保ニ供ス可ク

レバナリ況ンヤ婦固有ノ財產ヲ有スルヲ多キ婚姻方法ナルカ或ハ財產ノ全部若クハ一部ヲ分ツヘキノ約定ヲナシタル婚姻方法ナル場合ニ於テハ固ヨリ右ノ會社ヲ取結ブヲ得ヘシ故ニ商業會社ヲ夫婦間ニ取結ブコトヲ許サ、ルハ只々双方ノ財產ヲ舉ゲテ之ヲ提供スル場合ニ在ルノミ蓋シ此場合ニ在テハ商業會社ヲ結ブハ寧ロ無用ナラン

カ
 民法典第五條及ヒ民法典第二百二十條ニ於テハ決シテ夫婦間ニ明ラカニ會社ヲ結ブヲ許サストシタルニ非ス唯夫婦間ニテ暗ニ會社ヲ結ビタリト推定スルハ他人ノ間ノ如ク容易ナル可ラスト言ヒシノミ是レ固ヨリ當然ナリ何トナレハ夫婦間ニハ既ニ婚姻ノ契約ヲ以テ別段ニ規定シタル利益共通ノ事アリ且婦其夫ヲ助力スルモ爲メニ其社員タルヲ欲スルヲ無ク他人モ信用セサルヲ屢々アリ又持出高ニ付テ

約定ノ明文ヲ缺キシハ之ヲ財産ノ全部ヲ供シタル會社ナリトスルニ非ザルヨリハ之ヲ默成セル會社ナリトスルノ基礎ヲ確定シ難ク若シ財産ノ全部ヲ供シタル會社ナリトセバ婚姻ノ契約ヲ害スヘシ
 五十二年四月三日アミアン控訴院判決ダロース判決類聚第五十一卷
 第二部第二百二十一丁デルソール法律實際論第一篇第四百三十三丁、
 モリニエー第一百七十七、トマンシヤーアテウワー
 ル評論第一篇第五十三丁、アローセ第五百五十二 持出高ニ付テ約定ノ
 明文ヲ缺キシハ財産ノ全部ヲ供シタル會社ナリトスルニ非サルヨ
 リハ之ヲ默成セル會社ナリトハ定メ難シト云フト雖モ余ノ觀ル所ヲ
 以テスレバ全ク然ル可キニハ非ス婦若シ他人ニ對シテ信用ヲ招致シ
 他人モ亦之ヲ信用シタルハ婦ハ社員ト共ニ連帶シテ義務ヲ負擔セ
 サル可ラサルモノナリトナスヘシ宜シク前項第一百一ノ終尾ニ舉ゲタ
 ル例ト大審院判決トヲ參考スヘシ

果シテ然ラハ則チ夫カ利益ヲ有スル企業ニ於テ婦ハ能ク利益ヲ有ス
 ルヲ得ルモノナリトナスベシ
 百二十七ベダリード第三百三十
 八マツセ第一千二百六十七
 パルドツシユ一第六十五、ベスレー第四
 百二十及ヒ其以下○反說モリニエー第

第二卷 商業帳簿

(第三百三號) 商法典ニ於テハ商人ノコトヲ規定シタル後二個ノ義務ヲ
 定メリ曰ク帳簿ヲ有スルニ就テノ義務即チ本卷ノ目的タル所ノモノ
 及ヒ婚姻契約證書ヲ公告スルニ就テノ義務即チ余輩ノ今將ニ説明セ
 ントスル第四卷ノ目的タル所ノモノ是ナリ其他商人ノ負有スヘキ義
 務ハ(以上第五十六號參觀スベシ)商法典ニ於テ其義務ノ關係スル條項
 ナリテ之ヲ規定スルナリ其義務ノ中ニ就キテ營業稅ヲ拂フノ義務ハ
 商法典編纂準備顛末書ニ據ルルハ行政上及ヒ會計上ノ法律ヲ以テ之

レヲ定ムルモノトナセリ即チ營業稅ニ關スル千八百四十四年四月二十五日ノ法律ニ於テ之レヲ規定セリ蓋シ營業稅ノコトニ關シテ基礎タル法律ナリトス余輩ハ此事ニ就テハ唯タ左ノ陳述ヲ以テ筆ヲ擱セシ即チ營業稅ニハ二種アリ一ハ定額稅トシ一ハ準額稅トス而シテ定額稅ハ其人口ト商業ノ性質トニ因リテ計算シタルモノニシテ(同法律第三條見合)準額稅ハ其營業稅ヲ拂フ可キ土地ノ盛衰ニ因リテ其額ニ同不同アルモノトス(同法律第八條見合)

余輩ハ本卷ヲ分チテ三章トナシ以テ之レヲ説明セン即チ第一章ニ於テハ商人ノ有スヘキ帳簿ハ如何ナルモノニシテ又如何ナル方法ニ依リテ之レヲ記載スル乎ヲ掲ケ第二章ニ於テハ帳簿ノ正確ナル證據力ヲ示シ第三章ニ於テハ簿記學ノ要領ヲ論述スヘシ

第一章 商人ノ有スヘキ帳簿ハ如何ナルモノニシテ如何ナル

方法ニリテ之レヲ記載スル乎

第八條 總テノ商人ハ毎日其能働及ヒ所働ノ負債其商業ノ諸行為其手形ノ取引受諾又ハ裏書及ヒ如何ナル名義タルヲ問ハズ總テ其收受シ及ヒ辨濟スル所ノ諸件ヲ明記シ並ニ毎月其家内ノ費用ニ供シタル金額ヲ表示スル日用帳簿ヲ備フ可シ但シ右ハ商業上ニ於テ用ユルニ缺ク可カラサルモノニ非サル他ノ帳簿ヲ有スルノ妨ケトナラサルモノトス

商人ハ其收受スル所ノ書狀ヲ一東ニ爲シ置キ又其差送ル所ノ書狀ヲ一箇ノ帳簿ニ寫ス可キモノトス

第九條 商人ハ毎年私ノ署名ニテ其動産及ヒ不動産並ニ其能働及ヒ所働ノ負債ノ目錄ヲ作り且ツ毎年特設ノ帳簿ニ其目錄ヲ寫スモノトス

(第百四號) 第八條ニ總テノ商人ハ云ト曰ヘリ依テ何人ヲ問ハス商人タル者ハ其商人クルノ故ヲ以テ帳簿ヲ有スルノ義務アルモノトス改ニ商人トナラスシテ商業ノ事件ヲ行フモノハ帳簿ヲ有スルノ義務ナカルヘシ然レトモ既ニ商人タル以上ハ假令其商業ハ些少ナルモノトス雖トモ帳簿ヲ有スルノ義務アリ又文字ヲ讀ムヲ知ラス且ツ書ケコトヲ知ラサルモノト雖トモ亦此ノ義務ナカル可カラス何トナレハ帳簿ヲ記載スル人ヲ雇ヒ之レヲシテ毎日少クモ二三時間若クハ毎週二三時間ノ業務ヲ執ラシメ容易ニ其帳簿ヲ整頓スルコトヲ得ヘケレハナリ唯タ些少ノ商業ヲ營ム商人ニシテ若シ強テ此義務ヲ履行スルトキハ之レカ爲ニ儲蓄シタル金圓ハ殆ント消費スルニ至ル如キモノハ第八條ノ例外ナリトス

此ノ帳簿ヲ有スルハ何人ヲ問ハス商業ヲ爲シテ其業務ヲ明確ニシ且ツ其爲スヲ及ヒ其何レノ點ニ到達スルヤヲ知ラントスルモノニハ實際缺クヘカラサルナリ故ニ實際ニ於テハ未タ法律ヲ以テ帳簿ヲ記入スヘシト命セサル以前ヨリ業ニ已ニ久シキ間此ノ帳簿ヲ有スルコトノ行ハレタリ(一)千六百七十三年ノ王令第十一卷第十一條ニ於テ總テ商人ハ帳簿ヲ有スヘキモノトナシ違フトキハ詐欺倒産ノ刑ヲ科シタリ而シテ當時其刑ハ死刑ナリキ此ノ如キ刑罰ハ是レ其慘酷ナルヲ以テ實際ニ適用セラレタルコトアルニアラス且ツ幾モナクシテ委廢ニ屬シタリ○今日ハ商人ニシテ帳簿ヲ有スルノ義務ヲ缺キタル刑罰ハ商法典第五百八十六條ノ第六項ニ規定セリ即チ破産ノ場合ニ於テ懈怠ノ倒産人トナシ以テ刑罰セラル、ナリ加之ナラス帳簿ヲ有セサルニ於テハ破産ノコトヲ証明スル能ハスシテ破産ニ付キテノ除免ノ利益ヲ得ルコト難ク且裁判所ニ於テ證據ヲ舉ルコト能ハサルナリ(以下

第三章參觀ス可シ○尙ホ余輩ハ左ノコトヲ退言セサル可カラス即チ帳簿ヲ有スル處ノ商人ニシテ破産ヲナシ若シ之レヲ其債主ニ隱匿シタルトキハ詐欺倒産人トシテ罰セラル可シ(第五百九十一條參看)

(一)昔時羅馬ニ於テハ商人ニアラサル通常人民ト雖トモ實際明細ナル帳簿ヲ有セリ其帳簿ニハ今日ノ如ク貸方又ハ借方ト同様ナル語ヲ用ヰテ記載ヲ爲セシモノナリ且又今日ノ如キ金庫帳簿ヲモ有セシナリ「サットラツカー」第二編第五十一號「サウワリー」第一編第三卷第四章參觀ス可シ且ツ特ニ「シード」ノ證書ヲ要スル契約ニ付キテ頗ル緊要ナル論說ヲ參觀スヘシ「シード」ハ既ニ羅馬ノ簿記方法ニ於テ最モ巧ミナル複記簿方法アリシコトヲ示セリ(佛國及ヒ外國法律批評雜誌千八百四十三年四月ノ部參看)○銀商ノ有セシ帳簿ハ我法律ニ於ケルカ如ク正確ノ証トナリシナリ

總テ商人ハ必ス三個ノ帳簿ヲ有セズンハアル可カラス即チ日用帳簿、書狀寫留帳簿、財産目錄帳簿是レナリ

(第百五號) 第一日用帳簿ノ事

此ノ帳簿ハ重ナル帳簿ニシテ他ノ諸帳簿ノ基本トナルモノナリ此帳簿ニハ商人ノナシタル總テノコトヲ其日附ノ順序ニ從ヒ且ツ之レヲ別々ニ記載ス可キモノトス

第八條ノ第一項ニ於テ此ノ記載ノ條項ニ付キテ委シク商人ノ義務ヲ定メタリ依テ左ニ之ヲ掲記セン商人ハ其商業ノ諸行爲即チ總テ物品ノ買入レ、賣拂金銀ノ支拂又ハ受取リタルコトヲ記載シ且ツ其手形ノ取引受。托。又。ハ。裏。書。ノコトヲ記載セザル可カラス但賣商人ハ其總テノ小賣チ一々記載スルヲ要セス是此ノ商人ハ一日ニ萬般ノ小賣チナスモノナレハ一日ノ總テノ小賣チ一纏メトナシ之レヲ帳簿ニ記載ス

ルヲ以テ足レリトスレハナリ
 又商人ハ其能働及ヒ所働ノ負債即チ其貸方及ヒ借方ニ屬スル所ノモ
 ノヲ記載セサル可カラス而シテ其借方及ヒ貸方ノ全ク民事上ニ屬ス
 ルモノト雖トモ亦之レヲ記載スルヲ要ス蓋シ民事上ニ屬スルモノト
 雖トモ總テ商人ノ貸方及ヒ借方ノヲ記載スルハ破産ノ場合ニ債主
 等ノ開ク會議ニ於テ總債主ノ人名表ヲ記シ及ヒ貸借對照表ヲ記スコ
 トニ就キ必要ナレハナリ
 又商人ハ如何ナル名義タルヲ問ハス總テ其收受シ及ヒ辨濟スル所ノ
 諸件ヲ記載セサルヘカラス例ヘハ其商業外ニ於テナセン所ノ物件
 ノ移轉賣買及ヒ獲得ノ如キ是レナリ之レ不動産ノ場合ニ於テ必要ナ
 リトス○又無報酬ノ名義ニ依リテ物件ノ所有權ヲ他ニ移轉シ或ハ之
 レヲ獲得シタルコトヲ記載セサル可カラス例ヘハ其妻ノ領収シタル

嫁資又ハ其孃ニ與ヘタル所ノ嫁資或ハ已レニ得タル相續ノ財産又ハ
 他人ニ爲シタル贈與或ハ已レノ領収シタル贈與其他第三者ノ爲メニ
 ナシタル非常ノ諸事件等是レナリ
 千八百三十五年十二月二十七日レ
 卷第二部第二百五丁アローゼ
 控訴院判決シユリ第三十六
 第八十八號參看
 又商人ハ其家内ノ費用ニ供シタル金額ヲ記載セサル可カラス法律ニ
 據ルトキハ此ノ費用ノ金額ハ毎月一回之レヲ一纏メニシテ記載スル
 チ以テ足レリトス此費用トハ一ヶ月ノ間家内ノ費用ノ爲メニ要シタ
 ル總テノ諸入費ヲ云フ而シテ又商人ハ時々分數ノ類ヲ纏メテ之レヲ合
 計シタル日附ヲ以テ日用帳簿ニ記載スルコトヲ得ルナリ○是等ノ記
 載ハ緊要ナルモノトス何トナレハ其費用非常ノ額ニ上ルトキハ破産
 ノ場合ニ於テ詐欺倒産人ト宣告セラル、コトアレハナリ(第五百八十
 五條ノ第一項參看)

第八條ノ第一項ニ右ハ商業上ニ用ユル欲クヘカテサルモノニアラザル他ノ帳簿ヲ有スルノ妨ケトナラサルモノトスト記載セリ是等ノ帳簿ハ法律上欲ク可ラサルモノニアラスト雖トモ商業ヲ明確ニスルニハ欲クヘカテサルモノニシテ實際ニ於テハ數多ノ帳簿ヲ慣用セリ余輩ハ左ニ其數個ノ帳簿ヲ示サン○手帳 是レハ日用帳簿ノ下タ帳簿ニシテ最モ粗略ニ記載スルナリ此ノ帳簿ニハ總テ商業上ノ取引ヲ爲シタル都度之レヲ記載シ後最モ注意ヲ加ヘ且ツ丁寧ニ之レヲ日用帳簿ニ記載スルノ準備トナスナリ○大帳 是レハ日用帳簿ニ日附ノ順序ニ從ヒ錯雜ニ記載セシ總テノ條項ヲ順序ヲ逐フテ記載シ且ツ殊ニ各取引先ニ對シテ一ノ勘定口ヲ設ケテ容易ニ其貸方及ヒ借方ノ關係ヲ見ルコトヲ得ベキカ爲メニ用ユルモノナリ○金庫帳 是レハ總テ正金ノ出入ヲ記シ何時ニテモ金庫ニ存在スル所ノ金員ハ幾許アル乎

ヲ點檢スル用ニ供スルモノナリ
或ル職業ニ就テハ右ノ外法律上必ス有スヘキ帳簿アリ例ヘハ運送請負人ニ付キテハ其引受ケタル荷物ニ付キテノ帳簿ノ如キ(第百二條及ヒ民法典第七百八十五條參看)抵當貸付營業者ニ付キテハ貸付金及ヒ預リ品ノ帳簿ノ如キ(刑法典第四百十一條參看)兩替屋ニ付キテハ正金ノ所有者ノ姓名及ヒ其買入レタル金銀地金ノ帳簿ノ如キ是レナリ(千七百九十一年五月十九日ノ法律第九章第九條參看)是等ノ帳簿ヲ有ナル義務ハ余輩ノ説明スル所ノ義務ト全ク同シカラスシテ并ヒ行ハル、所ノモノナリ且其義務ヲ欲キタル場合ニ於テハ又特別ニ刑罰ノ定メアリ

(第百六號) 第二書狀寫留帳簿ノ事

總テ商人ハ其地ニ送付ナル所ノ書狀ニ寫留メ且ツ其領収スル所ノ書

狀チ一束ニナシ置カサル可カラス(以上第八條ノ第二項參看)此ノ帳簿
 チ有スルハ亦タ緊要ナルモノニシテ彼ノ日用帳簿ニ記載セサル諸事
 件チ記載シ殊ニ約定ノ條件及ヒ其履行ノコトチ列掲セルモノナリ○
 且ツ商人ハ其書狀ノ仮令同市街ノモノニ之レチ差立ツ可キモノト雖
 トモ均シク該帳簿ニ寫シ留メサルヘカラス實際ニ於テハ之レチ寫シ
 留ムルノ勞チ爲サ、レモ法律上ニテハ廣ク送付スル所ノ書狀チ寫シ
 留メサルヘカラスト記シアレハ右ノ如ク區別チ爲スコトチ許サ、ル
 ナリ 千八百二十九年五月十八日ボルドー ○尙ホ其書狀ハ總テ全文ノ
 寫シ留メノチナスベシ決シテ之レチ抄略スルコトチ許サス若シ之レチ
 抄略スルニ於テハ帳簿ハ以テ不適法ノモノトセラレヘキナリ 第五
 十三號 アロゼー 第九十號參看
 今日ハ實際ニ於テ書狀寫留帳簿ノ代リニ徹寫帳チ使用セリ此ノ方法

ニ依ルトキハ書狀チ精密ニ寫シ取ルコトチ得テ其寫シ留ムルニ方リ
 テ誤寫チ生シ又ハ謬記チ正ス等ノコトアラシメサルナリ然レモ第十
 條ノ條件チ履行スルニ至テハ嚴然タラサルニ似タリ蓋シ此ノ法チ用
 ユルトキハ必ス其帳簿中ニ空白チ存セサルコトチ得ス何トナレハ實
 際各葉ニ付キ一已ノ書翰ノ外ハ以テ寫スコトチナサス若シ一葉ノ中
 既ニ書翰ノ寫シアルニ於テハ常ニ他ノ葉ニ就テニアラサレハ之レチ
 寫サ、レハナリ又屢ハ印刷ニ付シタル通知書チ用ヒ唯タ之レニ數字
 ト受取人ノ名前トチ手記セルコトアリ右ノ方法ニ依テ之レチ寫ストキ
 ハ唯タ其名前ト數字トノミチ寫シ留ムルモノナリ故ニ此ノ方法ハ法
 律ノ規定スル所ニ適合セスシテ其法文ニハ満足セスト雖トモ其精神
 ニ依ルトキハ此ノ方法チ以テ充分ナリトス唯タ空白チ奇貨トシテ新
 規ナル書翰チ寫スコトチナキチ要スルノミ

(第七號) 第三目錄帳簿ノ事

此ノ帳簿ニハ商人カ毎年作ルヘキ財産目錄ヲ寫シ留メ置カサルヘカ
 ラス(以上第九條參看)此ノ目錄ハ二箇ノ特別ナル性質ヲ有ス即チ第一
 此ノ目錄ハ法律ニ記ス所ノ總テ他ノ財産目錄ニ付テノ一般ノ規則ニ
 反シテ私書ナリトス(第九條參看)此ヲ以テ之レヲ記載スル商人又ハ會
 社ノ場合ニ於テハ其會社ノ總テノ管理人ニ於テ之レニ署名スルコト
 ヲ要シ且ツ之ヲ以テ足レリトス(ドラグル會社論第六百五十七號ハ
 號參 第二此ノ目錄ニハ不動産ト雖トモ亦之レヲ記載スルナリ(第九條
 參看)

財産目錄ハ二箇ノ部分ヨリ成立ス即チ第一ハ負債資産明細書ノ如キ
 モノニシテ所謂表ノ体裁ヲ以テ商人ノ負債及ヒ資産ノ狀況並ニ前年
 間ノ取引ノ結果ノ狀況、儲高、純益、諸入費等ヲ略記スルナリ此ノ部分ニ

於テハ總テノ資産權利ニ屬スルモノヲ記載シ且又不動産ニ關スル總
 テノ資産ヲ記載スヘキモノトス第二ハ現有ノ總テノ商品及ヒ諸手形
 ノ代價附明細表ナリ此ノ表ハ商人ノ負債資産ノ狀況ヲ定ムルニ付キ
 必要ナルモノニシテ此ノ第二ノ部分ハ第一ノ部分ヨリ最モ長大ニシ
 テ紙數モ亦許多アリ之レニ由テ其全体ニ就キ財産目錄ノ名ヲ附シタ
 ルナリ○財産目錄ニハ各物件ヲ記載スルニ現時ノ賣買代價ヲ以テセ
 サルヘカラス違反スレハ則チ偽造ノ刑ニ處セラル、ナリ 千八百五十
 十五年大審院ノ判決(ジュリ)第五 且ツ商品ノ價ヲ記スニ方リテ宜シ
 十四卷第一部第四百九十九丁參看 且ツ商品ノ價ヲ記スニ方リテ宜シ
 ク最モ低價ヲ記スヲ以テスベキモノトス何トナレハ俄カニ商品ノ價
 額ノ下落ヲ來タシ爲メニ落膽スルコトアルヲ豫防スルヲ要スレハナ
 リ

財産目錄ハ第九條ニ據ルトキハ毎年之レヲ記セサル可カラズ千六百

六十七年ノ王令ニ於テハ二ケ年毎ニ記載ス可キモノトナシタリシカ
 現今ハ多クノ商家ニ於テ法律ノ定ムル所ヲ越ヘ毎六ヶ月ニ記スルヲ
 以テ例トス而シテ法律ハ一ケ年ノ内何レノ月ニ此目錄ヲ記ス可キ乎
 其期限ヲ定メサレモ實際上ニテハ商賣間隙ナル季節ニ於テ之レヲ記
 載スルナリ何トナレハ手代ハ之レカ爲ニ多クノ時ヲ費サ、ルヲ得サ
 レハナリ若シ其季節アラサルニ於テハ之レヲ年末ニ記載スルヲ以テ
 最モ簡單ナルコト、ス
 財産目錄ハ常ニ商人ヲ檢束シ日用帳簿ノ日附ヲ溯回セシメ以テ詐欺
 ヲ行フコトヲ防キ又ハ最モ之レヲ行フコトヲ難カラシムルナリ何ト
 ナレハ若シ日用帳簿ヲ變造スルトモ其結果ハ財産目錄ト適合セサル
 コトアレハナリ

帳簿ヲ記入スル法式ノ事

(第百八號) 總テ是等ノ法式ノ目的ハ帳簿ノ正確ナルコト、其真正ナル
 コトヲ確カムルニアリ

(第百九號) 第一内部ノ法式ノ事

第十條第三項 總テノ帳簿ハ空白隔字及ヒ欄外ノ附記ナク日附ノ順
 序ヲ以テ之レヲ記載ス可シ

該項ニ依レハ總テ帳簿ハ欄外ノ附記ナク之レヲ記載セサル可カラス
 故ニ誤謬ヲ匡正スルカ爲メ又ハ既ニ記入セシ義務ノ履行ヲ證明スル
 カ爲メト雖トモ欄外ノ附記ヲ爲ス可カラス此ノ匡正ヲナスニ其誤謬
 ヲ發見シタルトキノ日附ヲ以テ更ニ日用帳簿ニ其旨ヲ記入スルニア
 リ例ヘハ何年月日ニ記載ノ何賣拂ノ代金ニ付キ誤謬アリシヲ以テ之
 レヲ匡正シ其價若干ナリト記載スルカ如キ是レナリ而シテ唯タ其匡
 正シタルケ條ヲ記載セシ丁葉ノ欄外ニ於テ見合ノ印ヲナスナリ義

務ノ履行ハ又其義務ヲ履行セシ時ノ日附ヲ以テ更ニ其旨ヲ記載スルニアリ

(論)是等ノ帳簿ハ必ス佛蘭西語ヲ以テ記載スルコトヲ要スル乎

或ハ必ス佛蘭西語ヲ以テ之レヲ記載ス可キモノナリト主張シタリ

西班牙商人ノ部第二百三十九號○然レモ余輩ハ左ノ理由ニ基キ之レヲ

必要トナサ、ルナリ即チ法律ニ於テ決メ此ノ如キ規則ヲ設ケタル

アルニアラス是レ理由ノ第一ナリ商人ノ有スル帳簿ハ公ケノ性質ヲ

有セサルヲ以テ斯ノ如キコトヲ命スルノ要ナシ是レ理由ノ第二ナリ

小商人ノ如キ多クハ唯タ其地方ノ方言ヲ知ルノミニシテ他ヲ知ラサ

ルヲ以テ此ノ如キコトヲ命スル能ハス是レ理由ノ第三ナリ

十五號於テハ唯タ帳簿ハ現行ノ言語ノ一ヲ以テ之レヲ記載スヘキコ

トヲ命シタリ

(第一百十號) 第二外部ノ法式ノ事即チ帳簿一般ノ記載法

第十一條ノ前段 前第八條及ヒ第九條ニ依リ其設備ヲ命セラレタル

諸帳簿ハ商事裁判所ノ裁判官一名若クハ邑長又ハ其副職通常ノ方

法ヲ以テ無費ニテ之レニ番號ヲ附シ花押ヲ爲シ及ヒ檢署スヘシ

先ツ本條及ヒ其前後ノ諸條ニ據ルトキハ總テノ記載ノ條項ハ之レヲ

本綴ノ帳簿ヲ爲サマルヘカラス綴東セサル各紙ニ記載ヲナストモ法

律上ノ定規ニ適合セス且ツ之レニ由テ正確ナル証據力ヲ有セザルナ

リモリニエ一第二百五號パリ一第五百十六號アローセ第九十

七號マツセ一第二百五十四號○獨逸商法典第三十二條參看

第十一條ノ諸法式ハ帳簿ヲ使用セサルノ前ニ之レヲ履行セサルヘカ

ラサルモノトス

番號ヲ附シ云云即チ各葉ニ番號ヲ附シ且ツ最終ノ葉ニハ其番號ノ傍

ラニ最終ノ葉ナルコトヲ記載スルモノトス是レ即チ帳簿ニ追加ヲ爲

シ又ハ丁葉ヲ剪滅スルコトヲ防クカ爲メナリ

〔花押ヲ爲シ云々〕即チ各葉ノ番號ノ傍ラニ花押ヲ爲シ以テ他ノ紙葉ト換挿スルコト能ハザラシムルモノナリ

〔檢署スル云々〕即チ檢署トハ右ノ法式ヲ履行シタルコト及ヒ帳簿ノ用

法ヲ証明シ其係リ官ニ於チ署名セシモノ、顛末書ナリトス

〔商事裁判所ハ裁判官一名若クハ邑長又ハ其ノ副職云々〕即チ是等ノ官

吏ニ此ノ法式ヲ履行スルコトハ成ル可ク之レヲ容易ナラシ

ムルカ爲メナリ

〔無費ニテ云々〕即チ是等ノ職務ハ以上ノ官吏ノ常職ノ外ニ屬スト雖ト

モ其報酬トシテ別ニ金錢ヲ収ムルコトヲ禁スルナリ

昔時ハ此ノ如ク帳簿ニ番號ヲ附スル爲メニハ印紙ヲ用ユルモノトナ

セリ〔共和政第七年ブリユメール〕月十三日ノ法律第十二條參看然レト

モ此ノ規則ハ千八百三十七年七月二十日ノ法律ヲ以テ之レヲ廢棄セリ其理由ハ右ノ如ク印紙ヲ用ユベキニ於テハ右等ノ法式ヲ履行スルモノ稀ナルニ至ルカ故ナリ而シテ此ノ印紙税ノ入額ハ營業税ニ三分ノ補足税ヲ賦課シ以テ之レヲ補ヒタリ

第十條第一項及ヒ第二項 日○用○帳○簿○及○ヒ○財○產○目○錄○ノ○帳○簿○ハ○每○年○一○回○花○押○ヲ○付○シ○及○ヒ○檢○署○セ○ラ○ル○ヘ○キ○モ○ノ○ト○ス○書○狀○寫○留○ノ○帳○簿○ハ○右○ノ○法○式○ニ○服○從○セ○サ○ル○モ○ノ○ト○ス

是レ第十一條ニ定ムル所ノ檢署ト異ナル法式ナリトス即チ第十條ニ定ムル所ノ法式ハ既ニ其使用セシ帳簿ニ付キテ毎年之レヲ履行スルナリ是レ其帳簿ノ狀況ト此ノ法式トヲ履行スル時マデノ帳簿中記載ノ終結ヲ証明スルモノニシテ此ノ目的ハ帳簿中記載ヲ偽造シ又ハ他ノ記載ヲ以テ前ノ記載ヲ變更シ若クハ其記載ヲ消滅スルコトヲ易カ

ラシメサルニアリ且ツ特ニ其目的豫メ檢署ヲ受ケ秘密ニ貯ヘ置キシ
帳簿ニ既ニ使用セシ帳簿ノ諸記載ヲ轉寫シ或ル記載ヲ變更シ又ハ消
滅スルコトアルヲ防止スルモノナリ

(第百十一號) 實際ニ於テハ商人ニシテ是等ノ法式ヲ履行スルコトヲ
怠ルモノ多カラストセス且ツ千八百三十七年ノ法律ヲ以テ其履行ノ
爲メニ稅ヲ徵収セシコトヲ廢シタル後ト雖モ亦然リトス而シテ裁判
所ニテハ其懈怠ニ因リテ非常ノ不都合アルニ係ハラス又立法者ノ意
志ニ就テモ懈怠ナカラシムルノ明瞭ナルニ係ハラス此ノ懈怠ヲ宥
恕シ(第十三條及ヒ商法典編纂顛末書參看)其記簿ノ記載方ニシテ狡猾
ノ所業アルニアラス且ツ適法ナルモノハ之レヲ證據トシテ採用スル
ナリ此ノ如キ帳簿ニ準據シタル裁判言渡書ハ大審院ニ於テ之レヲ破
毀セサルヘカラサルモノナリト雖モ商法第百九條及ヒ民法典第千三

百五十三條ニ依ルトキハ孰レノ場合ヲ問ハス推測ヲ以テ證據トナス
コトヲ許スガ故ニ大審院ニアリテモ是等ノ帳簿ハ一ノ推測タルヲ以
テ其他ニ之レト參照スベキ證據アルニ際シテハ裁判官ノ心証ヲ確カ
ムルコトアルモノト判定セリ是レ其當ヲ得マリシ判定ナリトス(一)

(二)千八百六十九年七月二十六日願書局判決ダロース定時刊行第七
十一卷第一部第二百十六丁又モ千八百七十三年七月二十三日願書
局判決ダロース定時刊行第七十四卷第一部第百二丁〇ボシエー証
據論第七百七十三號參照スベシ

帳簿ヲ保存スベキ年限ノ事

第十一條第二項 商人ハ十年間右ノ帳簿ヲ保存スベキモノトス

(第百十二號) 法律ニ於テハ商人ヲシテ長ク帳簿ヲ保存スルノ義務ヲ
負ハシメ以テ之レヲシテ迷惑ナラシムルコトヲ欲セサリシナリ

十年間ハ帳簿ノ終結ノ日ヨリ之レヲ起算シ其帳簿ノ記載ヲ爲シ始メタルトキヨリ之ヲ起算セサルナリ若シ其記載ヲ爲シ始メタル日ヨリ之レヲ起算スベキ者トセハ帳簿中最終ノ諸記載ハ數年ナラスシテ其痕跡ヲ失フニ至ラン

バルドシユール第五十八號モリニユール第五百四十九號
七號ベタリード第三百二十六號アロゼール第九十

九號○此ノ期限ハ豫メ規定セラレタルヲ以テ之レニ就キテ除棄又ハ中止ノコトヲ許サ、ルモノトス

且ツ商人ハ其帳簿ヲ十年以上保存スルコトヲ得ベシ而シテ若シ之レヲ裁判所ニ差出スニ於テハ尙ホ十年以後ト雖モ其以前ト同シク正確ノ證據トナルナリ

千八百十七年十一月十日ルワン控訴院判決 且又商人ニシテ十年ノ後ト雖モ之レヲ保存シタルコト明カナル場合ニ於テハ必ス裁判所ノ決メニ依リテ之レヲ提出セサルヘカラス(一)

(一)千八百二十八年六月二十四日カアン控訴院判決シユール第三十

卷第二部第五百五十七丁○パリ第五百四十九號ベダリード第二百三十七號ドラマール及ヒルポアトウエン第一版第一冊第二百八十六號第二版第一卷第百八十七號アローセ第九十九號參照スヘシ

或ハ本條ニ依リテ商事ノ爲メニハ十年間ノ期滿免除アリト論スルモノアリ何トナレハ十年ノ後ハ商人ニ於テ帳簿ヲ有スルノ義務ナキヲ以テ對手方ノ之ヲ有スルコトアルモ之レニ對シテ己レヲ辨護スルノ方法ナケレハナリト然レトモ期滿免除ハ法律ノ明定アルコトヲ要スルモノニシテ唯々推論ヲ以テ之レヲ定ムル能ハス且ツ商人ハ十年ヲ經タルノ後ナリトテ必ス其帳簿ヲ破毀スルコトヲ要セサルナリ若シ其帳簿ニシテ有益タルキハ尙ホ其以後ト雖トモ之レヲ保存スルコトヲ得ルモノトス

ホルソン氏論題第四グラバール第一冊第百二十八丁アロゼール第百號參看 唯々裁判官ハ十年ノ後其帳簿ニ就キ商人ヨリ之ヲ破毀シタリト陳述セシニ其陳述眞

正ナリト思惟スルニ於テハ此ノ商人ヲ非商人ト同視スヘキナリ是レ法律上最早商人ト見做ス可能ハサレハ實際上斯ク之ヲ非商人ト見做サ、ルヲ得ス且ツ裁判官ハ人ニ依リテノ推測ヲ以テ證據トスルノ自由アルカ故ニ斯ノ如ク之レヲ非商人ト同視スルコトヲ得ヘキナリ〔民法典第三百五十三條及ヒ商法典第九條參觀〕

第二章 商業帳簿ノ正確ナル證據力

本章ハ之レヲ別テ三款トナス第一款帳簿ノ商人ノ利益トナルヘキ證據ノ事○第二款帳簿ノ商人ノ不利益トナルヘキ證據ノ事

○第三款 帳簿ヲ參照スルノ方法ノ事是ナリ以下之ヲ説述セン

第一款 帳簿ノ商人ノ利益トナルヘキ證據タル事

本款ヲ分チテ更ラニ二節トナシ第一節ニハ對手方ノ商人ヲラサル場合ヲ掲ケ第二節ニハ對手方ノ商人タル場合ヲ舉ケテ釋明セン

第一節 對手方ノ商人ヲラサル場合

〔第一百十三號〕 此ノ場ニ在テハ帳簿ハ證據トナルノ効力ナキモノトス何トナレハ商法典第十二條ニ從ヘハ帳簿ハ商人ノ間ニ於テ證據トナルト記シ且ツ民法典第三百二十九條ニ據ルモ商人ノ帳簿ハ非商人ニ對シテ其不利益ノ證據トナラスト記セハナリ然レトモ第三百二十九條ニハ〔但シ誓ノコトニ付キ定メタル場合ハ此ノ限ニアラストセリ

(論)此ノ數語ハ如何ナル意義ナルカ

此ノ解釋ニ付キ二説アリ第一説ニ曰ク是レ訴訟人ニ決定ノ誓ヲナスコトヲ請求スルヲ許ストノ意義ナリト其理由トスル處ハ則チ斯ノ如キハ普通法ニシテ且ツビーゴープレアムノ一民法典理由上申書ニ於テ本條ヲ解釋セシコト亦然リトスルニアリウハセーエ期滿免除第五百五十一號シャロドン詐欺論第四百四十五號ギヨラソン第一卷第四十二號ハリ○第二説ニ曰ク

第五百六十五號アロセー第一百三號第四百四號參看

是レ裁判官ニ補足ノ暫チ求ムルコトヲ許スノ意義ナリト余輩ハ此說ヲ採用スヘシ其理由左ノ如シ○若シ然ラストセバ此ノ規則ハ暫ニ其用ヲ充ササルノミナラス特ニ但シナル語ヲ用ヒテ制限ヲ示セシコトヲ理會スル能ハサルナリ何トナレハ帳簿ノ有無ニ關セス就レノ場合ニ於テモ訴訟人ハ決定ノ誓ヲ求ムルコトヲ得レハナリ是レ理由ノ第一トス○若シ帳簿甚々正シク記載セラレタルキハ原告人ノ訴訟ヲ以テ全ク証據ナキモノニアラスト見做スコトヲ得フルヘシ

(民法典第千三百六十七條第二項)何トナレハ商人ハ實際其商賣ニ關スル諸事件ヲ証明スルガ爲メ証書ヲ記載スルコトアラサレハナリ是レ理由ノ第二トス○舊時ノ法律ニ於テハ右ノ如ク論下スルヲ允許セリ(ボチエー義務論四編第一章參照スヘシ)是レ理由ノ第三トス○ビコーハ右ノ場合ニ於テ決定ノ誓ヲ適用スルコトヲ得可シト証明シ且ツ補

足ノ誓ヲ排斥セサルナリ是レ理由ノ第四トス(一)

(一)千八百七十二年七月二十二日願書局判決ダローズ定時刊行第七十三卷第一部第百十丁メルレン法律字典証據ノ部第二卷第二條第五號マルウエール第千三百二十九條デルベンクール民法典第二卷第六十七丁註第五ツーリエー第八卷第二百六十八號第九卷第七十號ジュラントン第十三卷第六百二十號ボンエー証據論第七百七十九號バルトシエー第二百五十七號ダジュビール第一卷第五十九丁ウエンサン第一卷第二百七十二丁ドラマール及ヒポアドベン第一版第一卷第二百七十四號第二版第一卷第二百五十八號ブラバール第一卷第三百三十丁マスセー第二千四百五十號參照スヘシ

裁判官ハ原被両造ノ一方ニ對シ誓ヲナスコトヲ求ムルコトヲ得ヘクシテ實際ニアリテハ則チ商人ニ對シテ之レヲ求ムルヲ以テ常トス

此說ハ唯々商人ノ商業ニ關スル諸事件ノミニ適用スル者ニシテ決ノ商人ノ請求セントスル民事上ノ債主權ニ適用ス可ラサルナリ
冊第二百七十三丁ブラウバール第一卷第三百一丁アロゼー第百四號オーブリー及ヒロウ第三版第六卷第七百五十七項註第二參看
論帳簿アルニ於テハ証人ノ證據ヲ許スコトアル乎

此ノ解釋ニ付キテ二說アリ即チ第一說ニ於テハ証人ノ證據ヲ許ス可キモノトス其理由ニ曰ク証人ノ證據ヨリ最モ重キ誓ヲ爲スコトヲ得ル以上ハ証人ノ證據ニ就キテハ之レヲ許スヘキハ勿論ノコトナリト
ツリエー第八卷第二百六十九號及ヒ第九卷第七十號ベダリード第二百五十六號參看
○第二說ニ於テハ之レヲ許スヘカラサルモノトス余輩ハ此ノ說ニ左袒スルナリ夫レ民法典ニ從ヘハ補足ノ誓ヲ許スヨリモ証人ノ證據ヲ許スニ關シテハ最モ苛酷ナリトス何トナレハ其第一千三百六十七條ニ據ルニ補足ノ誓ヲ求ムルニ付キテハ唯々訴訟ノ全ク證據ナキニアラサルヲ要セリト

雖トモ証人ノ證據ヲ許スニ付キテハ第一千三百四十七條ヲ以テ對手方ノモノ、記シタル書面ニ依リテノ證據ノ端緒アルヲ要スレハナリ然ラハ今茲ニ論スル所ノ場合ニ於テハ證據ノ端緒アラサルガ故ニ證人ノ證據ヲ許スコト能ハサルナリ
千八百七十二年七月二十二日願書局ノ證據ヲ許スコト能ハサルナリ
ノ判決メローズ定時刊行第七十三卷
第一部第一百十號○ハリー第五百六十八號アロゼー第百五號マツ
セー第一千四百九十一號ボンエー證據論第七百七十七號參看
第二節 對手方ノ商人タル場合

(第百十四號) 此ノ場合ニ於テハ帳簿ハ則チ完全ノ證據トナルナリ

第十二條 適法ニ記載シタル商業ノ帳簿ハ裁判官商業ノ所爲ニ付テハ商人ノ問ニ於テ證據トナス爲メ之レヲ許容スルコト得ベシ
何人ト雖モ自己ノ作成シタルモノヲ以テ自己ノ證據トナスコト能ハサルハ普通法ノ原則ナレモ本條ニ定ムル所ハ之レニ反異セリ夫レ商業ハ迅速ナルヲ須要トスルモノナレハ商人ニ於テ取引ヲ爲スノ都度

之レテ証明スルガ爲メニ證書ヲ記載スルコト能ハス且ツ商人ハ相互ニ帳簿ヲ有スルヲ以テ亦相互ニ其記載ノ條項ヲ檢束スルコトヲ得可キナリ是レ則チ普通法ニ反對セル所以トス而シテ若シ甲乙二人ノ商人ノ帳簿皆適法ニシテ其記載ノ條項相反スルニ於テハ其帳簿ヲ以テ證據トナス可カラサルナリ故ニ他ニ其證據ヲ求メサルヘカラス又タ原被両造ノ内一方ノ者適法ノ帳簿ヲ有セサルトキハ是レ其一方ノモノ、過失ナルヲ以テ其帳簿ニ依テ證據ヲ舉クルコト能ハサルナリ蓋シ其帳簿ヲ適法ニ記載スヘキノ義務ヲ履行セサルノ罰ナリトス但シ孰レノ場合ヲ問ハス帳簿ヲ以テ證據トナスト否トハ裁判官ノ權内ニ屬スルモノトス是レ第十二條ニ明カニ記載スル所ナリ且ツ假令其帳簿ノ全ク適法ナルトキト雖モ亦然リトス何トナレハ裁判官ハ孰レノ場合ヲ問ハス種々ノ證據アルヘキ諸件ニ因リテ吾心証ヲ成スコ

トヲ得レハナリ(商法典第九條及ヒ民法典第一千三百五十三條參觀)加之ナラス其帳簿ノ記ス所ニ對シテ反對ノ證據ヲ舉ルコトヲ得可ク
 一 第二百六十號アローゼー 第六百六號マスセー 第二千四百八十八號○
 反對說ニハドラマール及ヒボハトベン 第一版第一卷第二百六十九號
 第二版第一卷第百又適法ノ帳簿ヲ有セサルモノト雖モ他ニ對手方ノ
 七十二號以下參看 帳簿ニ對シテ反對ノ證據トナルヘキ證據アルニ於テハ其帳簿ニ因リ
 テ敗訴トナルコトアラサルナリ 一 卷第二百八十四號 第二版第一卷第
 百五十八號グニエー 證據論第六百三十號アロゼー 第九百九號マスセー
 第二千五百號○ 反對說ニハツリーエー 第八卷第三百八十三號參看
 第十三條 商業ヲ爲ス各人有スヘキノ義務アル帳簿ニシテ其各
 人ノ前ニ定メタル法式ヲ遵守セザリシモノハ之レヲ有シタル
 モノノ利益ノ證據トシテ裁判所ニ之レヲ差出スコトヲ得ヌ又
 裁判所ニテ證據トナスコトヲ得ス但シ破産ノ編ニ規定スル

所ノモノト相觸ル、コトナカルハシ

然レモ裁判官ハ不適法ノ帳簿ト雖モ其ノ條項ニ就キ尙ホ之ヲ證據ト認ルコトアルヘシ是レ尤モ對手方ノ帳簿ヲ有セサル場合ニシテ且ツ殊ニ他ノ證據ヲ補足スルトキニ限ルノミ蓋シ裁判官ハ人ノ推測ヲ以テ已レノ心証ヲ成ルコトヲ得ルナリ(商法典第九條及ヒ民法典第一千三百五十三條參看)千八百六十九年七月二十六日願書局判決ダロ一第^二十二條ノ規定ニ從ヘハ唯タ商人間ニ於テ商業ノ所爲ニ就キテノミ帳簿ヲ以テ完全ナル證據トナスコトヲ許スナリ故ニ此ノ二個ノ要件ハ必ス具備セサル可ラス即チ其所爲タルヤ商人ノ双方ニ於テ商業タリシコト是レナリ左ニ其理由ヲ示サン此コトハ既ニ商法典編纂顛末書ニ之レヲ記載シタルモノニシテ此意ヲ顯ハスガ爲メ商人間ニ於テノ語及ヒ其商業ノ所爲ニ就キテノ語ノ間ニ接續詞ノ且ツナル語ノア

リシヲ削除シタリ此語アルニ於テハ又ノ字義ニ解スルコトアルヲ以テナリ且ツ商人ハ已レノ需要ノ爲メ物品ヲ買入タルニ於テハ特ニ此買入ノコトヲ其帳簿上ニ記載スルノ義務ナキカ故ニ其賣渡ノコトニ就キ商業ヲナシタルモノト見做スヘキ對手方ニ對シ已レノ帳簿ニ依リテ反對ノ証ヲ舉クルコト能ハサルナリ故ニ此ノ場合ニ於テハ商人ノ帳簿ヲ以テ證據トナストノ規則ノ因テ起リシ理由ノ存在セサルヘシ千八百五十二年三月九日オルレアン控訴院判決ダロ一ズ定期刊行第五十二卷第一部第二百十九號〇テルベンクール第二卷第九百十七丁註第六パリー第五百七十六號ベダリード廿二百五十號アロゼ一第百二號ボニエ一證據論第七百七十五號〇反對說ニハマツセ一第二千四百九十五號參看バルドシユ一ハ曖昧然レモ其所爲タルヤ必ス双方商人ノ商業ノコトニ屬スルヲ要セサルナリ其双方商人ノ一方常ニ商業トナサ、ル物件ヲ再ヒ賣ルガ爲メニ之レヲ買入レタルトキモ其旨ヲ帳

簿ニ記載スルヲ要スルナリ故ニ此ノ場合ニ於テハ對手方ノ商人ハ此ノ事ニ付キ自己ノ帳簿ヲ以テ反對ノ證據トナスコトヲ得ルナリ

第二款 帳簿ノ商人ノ不利益トナル證據タルコト

(第百十五號) 此ノ場合ニ就テハ對手方ノ非商人タルトキト雖モ商人ノ不利益ノ証トナル可シパリ第六百三十四號ア且ツ何人ト雖モ已レニ不利益ノ證據ヲ爲スノ義務ナシトノ普通法ノ規則アルニ關セサルナリ(民法典第千三百三十條參看)○而シテ民法典第千三百三十條ニ據ルトキハ對手方ハ其證據ヲ分ツコトヲ得サルモノトス即チ吾ガ請求ノ利アルモノヲ取り例ヘハ已レノ爲メニ証明スル所ノ義務アルコトヲ取り己レニ不利益ナルモノヲ捨ツル事例ヘハ支拂ノコトヲ記載セシ條項ヲ捨ツルカ如キヲ能ハサルナリ若シ是ノ若キ方法ヲ以テ帳簿ヲ證據トナサントスルハ其商人ノ爲メニ利益ノ證據トナラサルトノ

規則ヲ濫用スルモノト謂ハサル可ラス然レトモ此ノ證據ヲ分ツ可カラサルヲハ唯タ一ノ訴訟ニ付キテノミ存スル者トスアレサルキコト法律疑問第百

五十號アロゼ一第百七號ボニ

証據論第七百七十八號參看

帳簿ハ假令其適法ニ記載セラレサルトキト雖モ之レヲ有スル商人ニ對シテ不利益ノ證據トナルナリ蓋シ其商人ハ已レノ義務ヲ免ル、爲メ已レノ過失ニ因リテ自ラ利スルコト能ハサルモノニシテ且ツ其帳簿ノ記載方適法ナラスト雖モ之ニ記載シタル件ヲ以テ真正ナリトスルニ妨ケナキモノトス加之ナラス民法典第千三百三十條ニ於テハ毫モ制限ヲ加フルヲナク一般ニ規定シ商法典第十三條ニ於テハ是レト同一ノ趣旨ヲ指示スルナリブラバール第一卷オ商人ハ自己ノ帳簿ニ付キテ反對ノコトヲ証スルヲ得サルナリ何トナレハ其帳簿ハ商人ニ對シテ自由ノモノダレハナリアロゼ一第百七號マス○且ツ裁判

官ハ商人ノ帳簿ノ証據トナルコトニ就キ之ヲ判定スルノ權アリ
十二年十二月十日願書局判決ダロース定故ニ裁判官ハ他ノ証據ニ依
時刊行第六十四卷第一都第百三十丁參看
リ義務辨濟ノコトヲ不適法ノ帳簿ニ記載スルナシト雖モ其辨濟ヲ爲
シタル者ト決定スルコトヲ得ルナリ
千八百六十九年三月三十日大審
九卷第一部第百
三十九丁參看
院判決ダロース定時刊行第六十

此ノ帳簿ノ完全ナル証據トナルノ効力ハ其帳簿ニ記載セル條項ニ屬
スルナリ此ヲ以テ其帳簿所有主ヨリ他ノモノニ依リテ其條項ヲ記載
シタルトキト雖モ亦同シ且ツ其對手方ニ於テ之レヲ記載セルトキモ
亦等シカルベシ何トナレハ其帳簿ヲ有スルモノ右ノ如ク記載ヲ爲サ
シムルコトヲ許シタリトノ推測ヲナシ得レハナリ但シ詐欺ニ依リ
之レヲ記載セシ旨ヲ證明スルコトヲ得可キナリ
ボチエー義務編第七
論第七百七十七號參看
第百二號
論第七百七十七號參看

(第百十六號) 商人ハ帳簿ヲ裁判所ニ差出スノ義務アリ是レニ由テ此
ノ義務ヲ缺クニ於テハ罰金ヲ科ストノ脅迫ヲ以テ其帳簿ヲ裁判所ニ
差出サシムルコトヲ得ルナリ
千八百二十八年六月二十四日カアン控
訴院判決シユリー第三十卷第二部第百
五十七號參看
○然レモ非商人隨意ニ帳簿ヲ有シタルトキハ強ヒテ其帳簿ヲ
裁判所ニ差出サシムルコトヲ得ザルナリ此ノ場合ニ於テハ何人ト雖
モ已レノ不利益ノ証ヲ舉グルノ義務ナシトノ普通ノ規則ニ依ルモノ
トス

訴狀ニ關係セザル所ノ第三者ニ就テハ假令商人タルモ雖モ其帳簿
ヲ裁判所ニ差出スノ義務ナキ者トス何トナレハ法律ニ於テ此ノ如キノ
義務ヲ掲ケサレハナリ
パリー第六百九號ドラマール及ヒルボアトベン
第七十八號サロゼー
第一版第一卷第二百七十六號第二版第一卷第百
第七十八號參看
商人ニ於テ法律上有スル所ノ義務ナキ帳簿ニ關シテ右ノ疑問ヲ解ス

ルハ最モ困難ナリトス大審院ニテハ商人ニシテ其帳簿ヲ有スルコト
 判然タル場合ナルトキハ對手方ノモノハ之レニ對シテ其帳簿ヲ差出
 サシムルノ權アル者トナシタリ大審院以爲ク是等ノ帳簿ハ法律上有
 ス可キモノタル日用帳簿ノ附屬ノ帳簿タルモノナルニ依ルト 千八百
 年三月四日願書局判決ダローズ定時刊行第七十 然レトモ余輩ハ法律
 三卷第一部第三百二號アロゼー第百八號參看 於テハ固ヨリ其
 ニテ此ノ例外タルノ義務アルヲ明定スルコトナキニ於テハ固ヨリ其
 義務ナキモノトナサ、ル可カラス是レ此附屬帳簿ハ日用帳簿ニアラ
 サルヲ以テ之ヲシテ同一ノ完全ナル證據力ヲ有セリトナサ、ルハ論
 ヲ俟タサルコトナリ **ハ** **リ** **一** **第** **六** **百**
 十二號參看
 商人其帳簿ヲ裁判所ニ差出スノ義務ニ付キ尙ホ他ニ制裁アリ即チ左
 ノ如シ

第十七條 若シ訴訟ヲ爲ス一方ノモノハ帳簿ヲ以テ相手方ヨリ証憑

トナスコトヲ供陳シタルトキ其一方ノモノハ之レヲ呈示スルコトヲ
 拒スルニ於テハ裁判官他ノ一方ノモノニ誓ヲ求ムルコトヲ得ベ
 シ

然レトモ其對手方ノモノハ帳簿ヲ呈示スルニ於テハ之レヲ以テ證據
 トナス可キ旨ヲ供陳スルコトヲ要スルナリ且ツ誓ヲ求ムルト否トハ
 裁判官ノ隨意タルモノトス而シテ誓ヲナスコトヲ求メラレタルモノ
 ハ更ニ又對手方ニ對シテ之ヲ反求スルヲ得サルナリ(民法典第千三百
 六十八條參看) **ア** **ロ** **ゼ** **一** **第** **百**
 十五號參看

第三款 帳簿ヲ參照スルノ方法

此ノ方法二個アリ第一ナルアレザンタシヨント云ヒ第二ナル「コンミニ
 ニカシヨント」云フナリ

(第百十七號) 第一「ルアレザンタシヨント」ノ事 「ルアレザンタシヨント」

トハ帳簿中或ルケ所ヲ披ヒテ呈示シ之レヲ見セシメ何人ト雖モ其帳簿ノ全部ヲ調査スルコトヲ許サ、ルモノ是レナリ今之レヲ唯タ呈示ス此ノ呈示ハ何レノ場合ヲ問ハス裁判官ニ於テ之レヲ命スルコトヲ得ルナリ即チ帳簿ノ所有者ヨリ之レヲ呈示スルコトヲ供陳シ(第十六條參看)又其對手方ノモノヨリ之レヲ請求シ(同條參看)又ハ職權ヲ以テ之レヲ命スルナリ(同條參看)

第十五條 訴訟中ニ於テハ帳簿ノ中ヨリ其爭訴ニ關スル所ノモノヲ拔書スル爲メ裁判官職權上ニテモ其帳簿ノ呈示ヲ命スルコトヲ得ベシ

對手方ノ帳簿ノ呈示ヲ請求スルモノハ其帳簿ヲ以テ證據トナスコトヲ供陳スルヲ要セス唯タ其帳簿ニ記載ノ條項ヲ檢査シ且ツ他ノ證據ヲ以テ之レヲ攻撃スルコトヲ得ルナリ何トナレハ法律ハ孰レノ場合

タルヲ問ハス其帳簿ヲ證據トナスノ義務アリト定メタルコトナク(民法典第千三百三十條ノ註參看)且ツ商法典第十七條ニ於テハ帳簿ヲ以テ證據トナス可キ旨ヲ供陳スルコトヲ定ムト雖モ然レモ此ノ供陳ハ之レヲ爲セシモノ、利益タルモノニシテ裁判官ニ於テ必要ナリトスルトキハ補足ノ誓ヲ命スルコトヲ得レハナリロクレ一商法典精義第一冊第六十四丁ダシユ
ビール第一冊第六十六丁ツリエ一第八冊第三百八十八號ベダリ一ド
第三百三號〇反對說ニハベレサン第一冊第二百七十二丁パリ一第六
百十六號ヌーギエ一第一冊第二百九十
二丁アロゼ一第百十七丁參觀スヘシ

職權ヲ以テ帳簿ノ呈示ヲ命スルコトハ普通法ニ於テ例外タルコト、ス其普通法ニ據ルトキハ裁判官ハ訴訟人ヨリ求メタルコトアラサレハ之ヲ命スルヲ得サルナリグラバール第一冊第百三十二參看
帳簿ヲ以テ證據トナスハ孰レノ場合ヲ論セス裁判官ノ權内ニ屬セリ

故ニ裁判官ハ訴訟其他ノ證據ニ依テ充分ニ心證ヲ得タル旨ヲ陳述スルヲ得可シ 千八百六十二年十二月十日大審院判決シユリエー第六十三冊第一部第二百六丁〇アロゼー第百十三號ホニエー證據論第七百七十三號參看

(第百十八號)第二コンミニユカシヨンノ事 「コンミニユカシヨン」トハ帳簿ノ全部ヲ調査スルコトヲ許シテ之レヲ對手方ノモノニ引渡スモノナリ 今箕作氏ノ譯ニ倣ヒ此ノ通知傳觀ハ帳簿ノ呈示ヨリ最モ重大ナルモノトス何トナレハ商人ノ總テノ業務其事業ノ秘密ノ事及ヒ得意先ヲ知ルコトヲ得レハナリ故ニ通知傳觀ハ法律ニ於テ明カニ許シタル場合ニアラサレハ之レヲ許ルサ、ルナリ 千八百五十年九月三モ決シユリエー第五十九卷第ニ部第六百八十八號參看

第十四條 帳簿及ヒ財産目錄ノ通知傳觀ハ財産相續財産共通會社ノ

分派ノ事故ニ付キ及ヒ破産ノ場合ニアラサレハ裁判上ニテ之レヲ命令スルコトヲ得ス

是等ノ場合ニ於テハ商人ノ業務ノ全体ヲ知ルヲ必要ニシテ且ツ帳簿ヲ通知傳觀セシムルモ利害ヲ共ニスルモノ又ハ業務業ニ己ニ終リテ其秘密ヲ要セサル場合ナルガ故ニ通常ノ場合ト同一ノ弊害アルトナキナリ〇通知傳觀ハ孰レノ場合ヲ問ハス之レヲ命スルト命セサルトハ裁判官ノ權内ニアリトス 千八百六十二年十二月十日大審院判決ダロイズ定時刊行第六十一冊第一部第三百十號參看

鑑定人ニ帳簿ヲ調査スルコトヲ許容スルモ是唯タ訴訟ニ必要ナルケ所ノミヲ拔書スル爲メ之レヲ引渡スモノニシテ孰レノ場合ニ係ラス之レヲ命スルコトヲ得ベキ呈示ニ關シ其通知傳觀ニアラズト判決セラレタリ 千八百四十八年二月二十二日大審院判決シユ 〇帳簿ヲシテ

裁判官ニ見セシムルガ爲ノ之レヲ裁判所ノ書記局ニ納付スルコトニ付キテモ亦同シ
 千八百四十三年二月二十五日大審院判決シ
 ユリイ第四十三卷第一部第二百十九號參看
 余輩ハ是等ノ判決ヲ以テ當チ得タルモノトナサ、ルナリ何トナレハ各商人ノ權利アルヲ秘密ニスルコトヲ害スレハナリ且ツ第二ノ判定ハ裁判官ハ現ニ商人タルモノニシテ帳簿ノ所有者ノ競争者ノ一人タルコトアルヲ以テ最モ其ノ當チ得サルモノトスレハナリ
 千八百四十三年二月二十五日大審院判決
 シユリイ第四十三卷第一部第二百十九號參看
 ダリイド第三百號アロゼイ第二百十九號參看
 (第百十九號) 若シ帳簿遠隔ノ地ニアルトキハ之レヲ遞送スルノ勞ヲ省クコトヲ得ルナリ

第十六條 其呈示ヲ供陳シ又ハ請求シ又ハ命令シタル帳簿ノ其訴訟ヲ管轄スル裁判所ヨリ遠隔ノ地ニアル場合ニテハ裁判官之レヲ調査シテ其記載諸件ノ調書ヲ作りタル上右訴訟管轄ノ裁判所ニ之レ

ヲ送ラシムル爲メ其地ノ商事裁判所ニ委託ノ證書ヲ差向ケ又ハ治安裁判官ニ委任スルコトヲ得ベシ

是單リ帳簿ノ呈示ノ場合ニ限ルモノニシテ若シ其通知傳觀ヲ命スルコトアリ又ハ命ス可キ場合ニ於テハ其通知傳觀ニ付テ帳簿ヲ遞送スルノ勞ヲ省クコト能ハサルナリ

第三章 簿記要論

(第百二十號) 簿記ノ法ヲ知ルコトハ商ノ如ク農業者ノ如ク(其進會ニテ賞牌ヲ得ントスルモノニハ複記法ヲ用ユルコトヲ要スルナリ)之レヲ實行スルコトヲ要スルモノ、ミナラス他人ノ計算ヲ知ラント要スルモノニ對シテモ亦緊要ナリトス例ハ公証人、代理人、裁判官、商事裁判所ノ裁判申渡書ノ控訴ヲ審判スル評定官ノ如キ是レナリ故ニ余輩ハ當ニ記簿法ヲ知ルニ付キテ要スル所ノ略說ノミナラス其大

体ヲ知リテ其細密ノコトヲ知ルニ必要ナル實際上總テノ要旨ヲ説明
セントス クルセルスノユ商人必携 第二百三十三丁已下參看
記簿法ニ二種アリ一ヲ單記簿法ニテ複記簿法ト云フ

第一款 單記簿法

(第百二十一號) 日用帳簿ノ記載方 日用帳簿ノ各丁ニ於テハ其左方
ニ欄外ノ空白ヲ存シ其右方ニハ「フランド」ト「サンチーム」トヲ記載スル爲
メ縦ノ二罫アリ各事件ニ付キ一ケ條ヲ設ケテ之レヲ記載ス其各條ハ
上ニ日附ヲ記載ス其日附ハ之レヲ一行ニ記シ其左右ニ横線ヲ畫ス其
次キノ行ニハ取引ヲナシテ現金ノ授受ヲササメルニ依リテ債主トナ
リ又ハ義務者トナルモノヲ記載ス其式ハ左ノ文ヲ用ユ即チ甲借乙貸
ノ語ヲ用ユルナリ第三行及ヒ以下ノ行ニ於テハ取引ノ詳細ノコトヲ
記シ其ノ金額ハ「フランド」及ヒ「サンチーム」ヲ記載スル所ノ罫中ニ記載シ

以テ之レヲ示スナリ(甲號離形參看) 此ノ離形及ヒ其ノ他茲ニ示ス所ノ
離形ハ本章ノ終リニ記載シアルナ

規則 總テノ物品ハ之レヲ金高ニ見積リ同一ノ貨幣ヲ以テ記サマル
ヘカラス是レ其價額ヲ合計スルトキニ於テ必要ナリトス若シ外國ノ
貨幣ヲ以テ取引ヲ爲シタルトキハ其右方ノ最初ノ所ニ縦一行ヲ設ケ
テ之レニ示スニ其貨幣ノ金高ヲ以テシ且ツ之レヲ佛國ノ貨幣ニ引直
シテ「フランド」及ヒ「サンチーム」ノ行中ニ記載スルナリ

總テ自己ノ業務ヲ明カニセント欲スル者ハ唯タ日用帳簿ノミチ有ス
ルヲ以テ足レリトナサ、ルナリ何トナレハ日用帳簿中ニハ日附ノ順
序ヲ以テ總テノ事件ヲ記載シ其類分ヲ明カニセザルガ故ニ一個ノ取
引ヲ搜索スルコト亦容易ニアラサルナリ因テ其各事件ヲ類分スルヲ
要スルナリ之ヲ以テ大抵ハ少クモ金庫帳(金銀出納帳)ヲ云フ支拂ヲ爲

ス可キ手形帳支拂テ受ク可キ手形帳現有商品帳一名之レヲ番號帳又ハ商品勘定帳ト云フ及ヒ各取引先ニ就キ一勘定口ヲ開クニ付キテノ帳簿等ヲ有スルナリ此ノ最終ノ帳簿ヲ大帳ト云フ余輩ハ後ニ之レヲ説カン大帳ノ各々條ハ日用帳簿ヨリ之レヲ書寫スルモノナルガ故ニノ葉數ヲ記載スルナリ甲號及ヒ乙號ノ縱形ヲ見ルヘシ

(第百二十二號) 大帳ノ各勘定口ノ記載方 各勘定口ニ付キ一丁チ一部ニ分チテ之レヲ用ヒ又ハ相對スル二丁チ用ユルナリ之レヲ合シテ一葉ト云フ(余輩ハ此ノ書中説ク所ノ言ハ相對スル二丁チ用ヰテ之レヲ一葉トナシ各勘定口ヲ記載スル所ノ大帳ナリトス)○其相對スル二丁ニ於テハ其上ニ勘定口ヲ開キタルモノニ名前ト住地トヲ記載シ其之レヲ記載セシ行ノ左右ニ大字ヲ以テ借ノ字ヲ左方ノ極端ニ記シ貸ノ字ヲ右方ノ極端ニ記載ス 此ノ借及ヒ貸ノ語ト原因ハサハレ一其完全ナル商人ト題スル書中ニ記載セリ初メ

ハ其語ノ代リニ仕拂フベク及ヒ受取ルベクノ文字ヲ用ヒタリ然ルニ今日ハ貸借ノ語ヲ用ユルコト、爲リ且ツ此語ハ能ク其事實ヲ言顯ハスナリ 其左方ノ丁ニハ勘定口ノ本人ガ負債主トナリシ總テノ條項ヲ記載シ其右方ノ丁ニハ總テ其本人ガ權利者トナリシ條項ヲ記載シ之レニ因リテ其借方ノ全体ト其貸方ノ全体トヲ示スナリ是レ唯ク其勘定ヲ加算スレハ其貸借ノ合計ヲ知ルノミナリ○各丁ニ於テハ其左方ニ欄外ノ空白ヲ置キ之レニ月ト日トヲ記載シ又其右方ニ縱二行ヲ置キ之レニ「フ」ラント「サン」チムヲ記載スルナリ且ツ右方ニ於テ其縱二行ヨリ以內ニ狹キ縱一行ヲ置キ之レニ其條項ヲ日用帳簿ヨリ拔書セシ丁數ヲ記載ス而シテ各丁ノ中央廣キ所ニハ日用帳簿ノ各々條ヲ前畧ニ記載シ且ツ成ルヘク之レヲ一行ニ記載スルナリ且ツ其種々ノケ條ハ其日付ニ從ヒ順次ニ之レヲ記載スルナリ(丙號及ヒ丁號縱形參看)

(第百二十三號) 借方及貸方ノ事 總テ勘定口ノ本人ガ義務者トナリ

シ事件ハ之レヲ借方ニ記シ其權利者トナリシ事件ハ之レヲ貸方ニ記シ且ツ其相平均ノ點ニ至ルマテ之レヲ記シ以テ差引勘定ノ立ツガ如シスルナリ

注○ 單記法ノ於テハ現金ニテ爲シタル諸取引ハ付レテ大帳ニ記載セザルナリ何トナレハ何人ヲ問ハス義務者又ハ權利者トナラサレハナリ

是レ此ノ義務ノ生スル場合ニ於テハ之レヲ可ナリトナスト雖モ義務ノ消滅スヘキ場合ニ於テハ如何スヘキ乎正金ヲ以テ支拂ヲ爲シ又ハ手形ノ支拂ヲ爲シタルトキハ之レヲ如何指示スル乎

規則 支拂ヲナスモノハ之レヲ貸方トナシ支拂ヲ受クルモノハ之レヲ借方トナスナリ夫レ帳簿ノ所有主ニ支拂ヲナスモノ其負債ヲ消滅セント欲スル乎此ノ場合ニ於テハ其借方ノケ條ヲ消スガ爲メ其同一

ノケ條ヲ貸方ニ記載セサル可カラズ何トナレハ其双方ノ合計ノ一方ハ減算ヲ以テ他ノ一方ヨリ扣除スルニ因リテ平均ヲ得レハナリ(第二百二十四號參看) 又是レト同シク帳簿ノ所有主其取引先ノモノニ支拂ヲナシ自己ノ負債ヲ消滅セント欲スルニ於テハ其取引先ノモノ貸方ヲ消スガ爲メ其借方ニ一ケ條ヲ記載スルコトヲ要フルナリ

(第百二十四號) 諸勘定ヲ精算スルノ方法 商人自己ノ地位ヲ知ラント欲スルトキハ其諸勘定ヲ精算シ以テ平均ヲナサ、ルヘカラス

規則 總テ大帳ノ縦行ニ於テハ唯タ加算ノミヲ爲シテ減算ヲナサ、ルナリ然ラザレハ則チ數字ニ於テ混雜ヲナスナリ

規則 勘定口ノ借方ト貸方トノ合計相同シキトキハ之レヲ平均シタリト云フナリ且ツ大帳ノ記載ハ孰レノ場合ヲ問ハス其借方ト貸方ト相平均セシムル様ニ之ヲナサ、ルヘカラス是レ即チ前規則ノ結果ナリ

若シ借方及ヒ貸方ノ合計自カラ相等シキトキハ毫モ困難ナルコトアラサルナリ何トナレハ勘定口ノ借方及ヒ貸方ノ双方ノ合計ハ之レヲ同一ノ行中ニ相對スルコトニ記載シ各々相對スル丁葉ニ於テ之レヲ置ケハナリ此ノ如クナルニ因リ若シ其一方ニ於テ空行ノ存スルコトアル場合ニハ總テ空行ヲ塗抹スルガ爲メ斜線ヲ畫シ其合計ヲシテ他ノ丁葉ノ合計ト相對スル一行中ニ置クモノトス(丙號及ヒ丁號雖形參看)

若シ一勘定口ノ借方及ヒ貸方ノ諸ヶ條自ラ平均セサルニ於テハ大帳ニ於テ其減算ヲ爲スヘカラサルガ故ニ他ニ於テ其減算ヲ爲シ其差ヲ一方ノ合計ノ小ナル方ニ記載シ以テ其双方ノ合計ヲ均シカラシムルナリ斯ノ如ク其差ヲ合計ノ小ナル方ニ加ヘタルハ即チ算術ニ於テ爲

スガ如キ減算ノ誤算ナキ乎ヲ証スルコトニ當ルナリ例ヘハ借方ノ合計二千五百フランアリテ其貸方ニ二千フランアリトセンニ(已下丙號雖形參看)其減算ヲナセハ則チ五百フランノ差アリトス然ラハ其双方ノ合計ヲ均一ニスルガ爲メ此ノ五百フランヲ貸方ニ加ヘルナリ何トナレハ其差ノ五百フランヲ其二千フランアル貸方ノ數ニ加ヘルトキハ二千五百フラントナレハナリ此ノ如キ差額ハ各ヶ條ニ於テ借方精算又ハ貸方精算ノ語ヲ用ヰテ之レヲ記載ス即チ借方ニ於テ其差額ヲ得タルトキハ之レヲ借方精算トナシ貸方ニ於テ之レヲ得タルキハ貸方精算トナスナリ(丁號及ヒ丙號雖形參看)○注意 借方精算ノ數ハ孰レノ場合ヲ問ハス之レヲ貸方ニ記載シ貸方精算ノ數ハ之レヲ借方ニ記載スルナリ是レ精算ノ數ハ即チ其双方ノ合計ヲ平均スル爲メニ用ヰルモノナレハナリ此ノ如クナスト雖モ決シテ勘定ノ正確ヲ欲カサ

ルナリ何トナレハ之レヲ爲スモノ勘定口既ニ決算済トナリテ其精算ノ數ハ其決算ノ結果ヲ示スモノタルコトヲ知レハナリ若シ計算ヲ爲スニ數日ヲ費スニ於テハ今日之レヲ決算シ翌日勘定口ヲ開キ一方ニ於テ他ノ一方ヨリ其合計ノ超過シタルトキハ一ヶ條ヲ此ノ一方ニ加ヘテ之ヲ新規精算ト名稱ス此ノ如クスルニ於テハ帳簿上總テ整頓ヲナスコトヲ得ルナリ

第二款 複記簿法

(第百二十五號) 單記簿法ハ左ノ三點ニ於テ不充分ナリトス第一商人ハ自己ノ地位ノ全体タルヲ知ラサル事第二多クノ緊要ナル諸取引即チ現金ニテナセシ總テノ取引ハ唯タ日川帳簿中ニ記載スルニ止マルナリ第三ハ少シク販路ヲ擴メテ取引ヲナスニ於テハ計算上容易ニ誤謬ヲ生スルモ之レヲ知ルコト能ハサル事是ナリ

第一及ヒ第二ノ不都合ヲ醫スルニハ複記簿法ヲ用ヒ之レヲ用ユルモノハ己レノ爲メニ一勘定口ヲ開クナリ即チ唯タ財産ノ増加又ハ減少ヲ證明スルガ爲メノミナラス尙ホ其身代ノ變遷ヲ證明スル爲メ其身代ヲ組成スルニ緊要ナル各事件ニ付キテ一ノ勘定口ヲ開クナリ且其勘定口ヲ詳細ニ分別シテ以テ其商業ノ各部分ノ収得高ヲ證明スルコトアリ或ハ又其ノ商賣外ノ身代ヲナス各部分ノ収得高ヲ證明スルコトヲ得ルナリ例ヘハ不動産ヲ賃貸シ公債証書ヲ所有スルニ因リテ生スル所ノ入額ノ如シ但シ是レ此ノ商人タルモノ、場合ニ於テ此ノ如ク然リ若シ農業者タルニ於テハ其營業ノ各部分ニ付キテ一勘定口ヲ開クナリ例ヘハ麥畑葡萄圃牧場等ノ爲メニ一勘定口ヲ開クナリ是レ其各項ヨリ生スル所ノ利益又ハ損失ヲ知ルガ爲メナリトス余輩ハ唯タ商業上ニ用ユル複記簿及ヒ一般ニ慣用スル所ノ勘定ニ適

用スルコトノミチヲ講スルナリ確定ノ人ノ貸方及ヒ借方トナラサル諸勘定口ハ之レヲ「コントフイクターズ」〔想像上ノ勘定口ノ義即チ「コントセテラール」〕一般勘定口ノ義以下之レヲ用ユト云フ是レ「コントベルソ」ノ義以下之レヲ用ユト云フモノニ相對スル所ノ名稱ナリトス此特別勘定口ナルモノハ單記簿法ニ於ケルト同シク之レヲ記載スルナリ（第二百二十六號）一般勘定口ナルモノハ總テ業務ノ運ヒチ知ルガ爲メニ必要ナルモノニシテ其數六アリトス即チ第一一般商品、第二金庫、第三支拂ヲ受クベキ手形、第四支拂フベキ手形、第五損益、第六資本、是レナリ其各目的ハ此ノ名稱ニ因リテ充分ニ之レヲ知ルコトヲ得ルナリ此勘定口ヲ開クニ付キテハ勘定口ハ其目的タル貨物ノ種類ニ因リテ之レヲ預カルモノ、一手代ノ地位ヲ代表スルモノト假定スルナリ例

ヘハ之レヲ商品、金庫、手形庫等ヲ預カル手代ト見做スナリ然ラハ此ノ手形ハ其主人ニ對シ其主人ヨリ領収スル總テノモノニ付キテハ則チ其負債主タル可シ因リテ其事ニ付キテハ之レヲ借方トナスナリ又是レト同シク其主人ニ附與スル所ノ總テノモノニ付テハ之レヲ其貸方トナサ、ルヲ得ス是レ余輩ノ既ニ指示シタル原則ニシテ是レヨリ屢々適用スル所ノ原則ニ依リテ然ルモノトス其原則トハ即チ物件ヲ受取ルモノハ之レヲ其借方ト爲シ支拂ヲナスモノハ之レヲ其貸方トナスコト是レナリ故ニ例ヘハ若シ某甲某ニ八百フランニテ商品ヲ懸賣シタリトセン此ノ場合ニ於テハ其商品ヲ供シタルモノハ何人ナル乎即チ其商品ヲ預カル手代ニシテ前ニ示ス所ノ一般商品ナリトス故ニ此ノ取引ニ付キテ一般其商品ヲ貸方トナスナリ又其商品ヲ受取リタルモノハ何人ナル乎即チ某甲某ナリ故ニ之レヲ其借方トナスナリ若シ

現金ニテ此ノ賣買ヲナシタリト想像セン乎此ノ場合ニ於テハ其商品ヲ供シタルモノハ何人ナル乎即チ一般商品ナリトス故ニ之レヲ貸方トナスナリ又正金ヲ受取リタルモノハ何人ナル乎即チ金庫ノ出納ヲ預カル手代即チ金庫ナリトス故ニ之レヲ借方トナスナリ且ツ之レト同シク其何某現金又ハ懸ニテ商品ヲ買入タル場合ニ於テハ之レヲ帳簿ニ記載スルノ法モ亦此ノ理ニ由ルナリ

(第百二十七號) 複記簿法ニ於テ得ル所ノ第三ノ利益ハ記簿上誤謬アリタルトキ速カニ之レヲ知ルヲ得ルコト是レナリ是レ複記簿法ニ於テ獨リ骨髓トナス所ノモノナリ茲ニ注意ヲササバルベカラサルコトアリ即チ何某債主タルニ於テハ其同一ノ金高ニ付キテ義務者トナルベキモノナカルベカラサルナリ又義務者トナリタルモノアルニ於テハ其事件ニ付キテ權利者トナルモノナカルベカラサルナリ且又物件

ヲ領收スルモノアルニ於テハ之レヲ供スル者ナルカベカラス又物件ヲ供スルモノアルニ於テハ之レヲ受クルモノナカルベカラス是レ一般勘定口ト稱スルモノヲ設ケテ想像上又アリトナス所以ナリ右ノ如クナルガ故ニ一ノ取引ヲナシテ之レヲ日用帳簿ニ記載シ然ル後之レヲ大帳ニ記載スルニ於テハ必スヤ其取引ヲ或ル勘定口ノ借方ニ記載スルト同時ニ或ル他ノ勘定口ノ貸方ニ之レヲ記載スルニアラサレハ以テ其大帳ノ記載方備ハラサルモノナリトス此ノ理ニ由リ諸部分即チ各ヶ條ハ必ス二重ニ之レヲ記載スルナリ何トナレハ二重ニ之レヲ大帳ニ記載スレハナリ是レヲ以テ此ノ記簿法ヲ名ケテ複記簿法ト稱スルナリ

夫レ然リ故ニ總テ金高ハ何レノ場合ヲ問ハス或ル勘定口ノ貸方ニ記載シ復々之レヲ他ノ勘定口ノ借方ニ記載スルヲ以テ或ル時機ニ際シ

一方ニ於テハ總テノ勘定口ノ諸貸方ノ合計ヲ加算シ他ノ一方ニ於テハ其借方ノ諸合計ヲ加算スルトキハ其二個ノ加算ノ各合計ハ相等シカラサルベカラサルナリ是レ算術ノ至極簡單ナル規則ヨリ生スル所ノモノナリ即チ加算ノ合計ハ假令其加算セシ數字ノ順序ヲ轉倒シテ又之レテ加算スルトモ其合計ノ數ハ孰レノ場合ヲ問ハス變更スルコトアラサルナリ○且ツ此ノ借方及ヒ貸方ノ合計ハ互ニ相等シキモノナルヲ以テ亦必ス日用帳簿ノ總計ノ高ト等シカラサルベカラス何トナレハ日用帳簿ノ記載ノ諸ヶ條ハ大帳上一方ニ於テハ之レヲ或ル勘定口ノ借方ニ記載シ又他ノ一方ニ於テハ或ル勘定口ノ貸方ニ記載シタルモノナレバナリ

(第二百二十八號) 是ヨリ記簿法ノ實際ノ詳細ナルコトヲ説カントス
複記簿法ニ於テ用ユル所ノ日用帳簿ハ單記簿法ノ日用帳簿ニ些少ノ

變更ヲ加ヘタルモノナリトス即チ其日用帳簿中各ヶ條ノ日附ヲ記載セシ行ノ即チ第二行ニ於テ借方ノ勘定口タルモノハ何レニテ貸方ノ勘定口タルモノハ何レナル乎ヲ同時ニ示スナリ其或ハ某ハ某ニ借ルト記載ス又此ノ借ナル文字ヲ記セスシテ唯々單ニ某ハ某ニト記シ其初メニ何レノ場合ヲ問ハス負債主タル勘定口ヲ先ニ置クナリ故ニ例ヘハ懸賣ノ場合ニ於テハ左ノ如ク記載スルナリ即チ甲某ハ一般商品ニト記載スルカ如ク又現金賣ノ場合ニ於テハ金庫ハ一般商品ニト記載スルガ加シ又現金若クハ懸ニテ物品ヲ買入タルトキ之レヲ記載スルノ法前條ニ同シトス〔甲号雛形ヲ觀ルベシ〕且又甲号雛形ニ記載スル如ク其欄外ニアル二個ノ數字ハ其二個ノ勘定口ヲ大帳ニ開キシ葉數ヲ示スナリ

複記簿法ニ於テ用ユル所ノ大帳ニハ各ヶ條ヲ記載スル行ノ初メニ單

記簿法ノ記載ト同一ノモノヲ置クナリ然レトモ複記簿法ノ大帳ハ各勘定口ノ題目ヲ記セハ既ニ勘定口ノ勞ノ央ヲ省クナリ若シ或ルヶ條ヲ借方ニ記載スルニ於テハ豫メ其借方トナル者ハ誰ナル乎ヲ知ルナリ即チ勘定口ノ本主是レナリ故ニ勘定口ノ本主ハ何人ニ借ルカヲ示セハ其相對スル貸方ナル勘定口ハ誰々ナルカヲ以テ足レリトスルナリ故ニ例ヘハ一般商品ノ勘定口ヲ例トセハ其勘定口ノ題目ハ一般商品借ルト記載スルナリ因リテ各ヶ條ニ付テハ某甲某ニ云々金庫ニ云々收拂ヲ受取ルヘキ手形ニ云々ト記載スルヲ以テ足レリトス是レト同シク借方ニ於テハ唯々其相對スル借方ノ勘定口ハ誰レナルカヲ示スノミ即チ勘定口ノ本主ハ誰レニ依リテ貸方タルカヲ記載スルナリ例ヘハ金庫ノ勘定口ヲ例トセハ其題目ニハ金庫貸スト記載スルナリ唯々其各ヶ條ニハ乙ニ依リテ云々一般商品ニ依リテ云々支拂フ可キ手形

ニ依リテ云々ト記載スルナリ〔丙號丁號戊號己號庚號離形參看〕其他ノコトハ單記簿法ニ於ケルト同シキモノトス因リテ之レヲ茲ニ説明セサルナリ

種々ノ勘定ニ就キテノ説明

(第百二十九號) 余輩ハ此ニハ商人ノ諸取引ノ部ニ侵入シテ説明セサルヘカラス余輩ハ第一卷第一章ニ於テ商人ノ總テノ業務ニ就キテノ普通ナル法律上ノ性質ヲ説明シタリ余輩ハ又其商人ト其雇人トノ關係及ヒ其相互ノ間ニ生スル所ノ利害ノ爭訴ノコトハ第一卷第三章ニ於テ説明シタリ余輩ハ今ヨリ商人ノ日々從事スル所ノ業務ハ如何ナルモノナル乎ヲ説クヘシ且ツ商人ガ其業務ノ性質ニ因リテ記簿上其業務ヲ類別スルト同シク之レヲ類別シ以テ之レヲ説カントス是等証明セラルタル事件ハ商業ノ實際上ノ基本トナルモノニシテ以下余輩

ハ説明ヲナスニ方リテ是ニ依憑スルコト屢々ナリトス

(第三百十號) 第一 一般商品ノ事 第一此勘定口ノ借方ニハ總テ買入タル諸商品ヲ記入スルナリ何トナレハ此ノ勘定口ハ其諸商品ヲ受取リタルモノナレハナリ之レニ付キテノ貸方タルモノハ何人ナルカ左ノ四個ノ場合ヲ生シ得ルナリ 是ノ号及ヒ以下ノ諸号ニ於テハ唯タスナリ余輩ハ特ニ最モ繁雜ナル場合ヲ示サハルナリ 通常ノ場合ノミヲ示是レ此ノ場合ハ通常生スルコト最モ稀ナレハナリ ○第一其買入現金ナル場合ニ於テハ金庫ヲ貸方トスルナリ何トナレハ金高ヲ供シタルモノハ金庫ナレハナリ ○第二ハ其買入定期拂ナル場合ニ於テハ賣主ヲ貸方トナスナリ何トナレハ賣主ハ其代金ニ付キテ權利者タルモノナレハナリ ○第三ハ其買主ノ發行スル約束手形ヲ以テ其買入ヲナシタル場合ニ於テハ支拂フヘキ手形ヲ以テ其貸方トナスナリ何トナレハ其手形ハ此ノ手形ヲ供シタルモノト見做セハナリ ○第四ハ商人

ガ手形庫ニ有スル所ノ商業上ノ手形ヲ以テ買入ヲナシタル場合ニ於テハ支拂ヲ受クベキ手形ヲ其貸方トスルナリ 第二ハ此ノ勘定口ノ貸方ニハ總テ賣リタル商品ヲ記載スルナリ何トナレハ此ノ商品ハ此ノ勘定口ヨリ供シタルモノナレハナリ且ツ此ノ勘定口ヨリ供シタルモノナレハナリ且ツ此ノ勘定口ハ其代金ヲ受ク可キモノナレハナリ夫レ此ノ場合ニ於テハ何人ヲ以テ其借方トナス乎之レニ付テ三個ノ場合生スルナリ即チ ○第一現金賣買ナル場合ニ於テハ金庫ヲ以テ其借方トナスナリ何トナレハ其代金ヲ受取リタルハ金庫ナレハナリ ○第二期限賣買ノ場合ニ於テハ義務者タル買主ヲ以テ其借方トナスナリ ○第三ハ買主ヨリ發行スル所ノ約束手形又ハ其手形庫ニアル所ノ手形ヲ引換ニテ此ノ商品ヲ賣リタル場合ニ於テハ支拂ヲ受クベキ手形ヲ以テ其借方トナスナリ何トナレハ其手形ヲ

受ケタルモノハ此ノ支拂ヲ受クベキ手形ナレハナリ
 若シ商品ニ付キテ費用ヲ要セシ場合ニ於テハ其費用ヲ供セシ勘定口
 ナリテ貸方トナシ商品ノ勘定口ヲ以テ借方トナスナリ是レ以下ニ示
 ス所ノ如シ○若シ商品滅盡シタル場合ニ於テハ損益ノ勘定口ヲ以テ
 借方トナシ以テ其義務ヲ免カレシムルガ爲メ其商品ノ勘定口ヲ以テ
 貸方トスルナリ
 商品ニ就キテ利益アルニ於テハ之レヲ其商品ノ借方ニ記載セサル可
 カラス何トナレハ其商品ヲ預カル手代ノ手ニ於テ其價額ヲ増シタル
 ガ故ナリ且ツ之レニ付テハ損益ノ勘定口ヲ貸方トスヘシ然レトモ余
 輩ハ後ニ此ノ利益ハ勘定口ヲ閉鎖スルトキニアラサレハ知ルコトヲ
 得サルモノトス故ニ帳簿上一時假リニ利益ヲ得サルモノト見做シテ
 記載ヲナスナリ

(第三百一十一号) 第二金庫ノ事 第一金庫ノ借方ニハ總テ正金ニテ受
 取リタル金額ヲ記載シ之レニ付キ左ノ五個ノ場合ニ從フテ其支拂ヲ
 ナセシモノヲ其貸方トナスナリ○第一負債主タルモノ支拂ヲナシタ
 ル場合ニ於テハ之レヲ金庫ノ貸方トスルナリ○第二現金賣ヲ爲シテ
 代金ヲ受取リタルキハ一般商品ヲ貸方トスルナリ○第三商業手形ノ
 支拂ヲ得タル場合ニ於テハ支拂ヲ受ク可キ才形ヲ貸方トナスナリ○
 第四商人即チ例ヘハ銀行者金額ヲ領収シテ手形ヲ渡シタル場合ニ於
 テハ支拂ノ可キ手形ヲ貸方トスルナリ○第五利得アリタル場合又ハ
 贈與ヲ受ケタル場合或ハ嫁資ヲ受ケ若クハ利益ヲ受取リタル場合ニ
 於テハ損益勘定口ヲ貸方トナスナリ
 第二金庫ノ貸方ニハ總テ正金ニテ爲シタル支拂ヲ記載スルナリ之レ
 ニ付キテハ左ノ五個ノ場合ニ於テ之レヲ受取リタルモノヲ以テ其借

方トナスナリ○第一金ヲ債主ニ支拂フタル場合ニ於テハ其債主ヲ借方トナスナリ○第二現金ニテ物ヲ買入レ其代金ヲ支拂フタルトキハ一般商品ヲ以テ其借方トナスナリ○第三自ラ記シタル手形ノ支拂ヲナシタル場合ニ於テハ支拂フベキ手形ヲ以テ其借方トナスナリ○第四割引ヲナシテ他人ノ手形ヲ受取リタルトキハ支拂ヲ受ク可キ手形ヲ借方トナスナリ○第五直チニ償ヲ得テ商人ノ資本トナラサル入費ヲ支拂フタルニ於テハ例ヘハ利子ヲ支拂ヒ或ハ手代ニ給金ヲ支拂フタル場合ニ於テハ損益ヲ以テ其借方トナスナリ

(第三百三十三号) 第三 支拂ヲ受ク可キ手形ノ事 支拂ヲ受ク可キ手形ニ就テハ特ニ大帳ニ於テ勘定口ヲ開クヲ要スルナリ何トナレハ是レ金庫ニ拂ヒ入レタル價額ト相異ナル資産タル價額ナレハナリ 第一支拂ヲ受クヘキ手形ノ借方ニハ総テ手形庫ニ有スル所ノ諸手形

ヲ記載スルナリ何トナレハ手形庫ハ之レヲ領収シタレハナリ此ノ場合ニ於テハ特ニ左ノ相異ナル條件アルニ於テハ其手形ヲ渡シタルモノヲ貸方トスルナリ○第一負債主ヨリ義務辨濟ノ爲メ手形ヲ渡シタルトキハ其負債主ヲ以テ貸方トスルナリ○第二現金ニテ物ヲ賣リタルトキ其代金トシテ買主ヨリ手形ヲ渡シタルトキハ一般商品ヲ以テ其貸方トナスナリ○第三割引ニ因リテ手形ヲ領収シタル場合即チ手形ノ拂期限前ニ其所持人ヨリ其拂期限ニ至ルマテノ利子ヲ受取リ以テ其手形ノ支拂ヲナシタル場合ニ於テハ其元金ニ就キテハ金庫ヲ以テ其貸方トナシ利子ニ付テハ損益ヲ以テ其貸方トナスナリ 第二支拂ヲ受クベキ手形ノ貸方ニハ総テ手形庫ヲ以テ借方トナスナリ○第一負債ノ支拂ノ爲メ手形ヲ渡シタルトキハ其權利者ヲ以テ借方トナスナリ○第二現金ニテ買入ヲナシ其代金トシテ手形ヲ渡シタ

ル場合ニ於テハ一般商品ヲ以テ其借方トナスナリ○第三支拂期限ニ至リ手形ヲ渡シテ其金ヲ得タルトキハ金庫ヲ以テ借方トナスナリ○第四割引ノ爲メ手形ヲ渡シタルニ於テハ其實際受取リタル金額ニ就キ金庫ヲ以テ借方トナシ手形面ノ金高ニ付キテ差引シタル手數料及ヒ利子ニ就キテハ損益ヲ以テ其借方トナスナリ○第五手形ノ振出人ヨリ手形ヲ書換ヘタル場合ニ於テハ支拂ヲ受クベキ手形ヲ以テ借方トナシ其舊手形ニ付キ之レヲ以テ其貸方トナシ新手形ニ付キテハ之レヲ以テ其借方トナスナリ○第六手形不渡リトナリタルトキハ損益ヲ以テ其借方トナスナリ

大帳ニ於テ支拂ヲ受クヘキ手形ノ勘定口ヲ開クハ通常ノ場合ヨリ一ノ縦罫ヲ増加シテ之レニ手形ノ記名人ノ名前ヲ記載スルナリ

商人ハ諸手形拂期限帳ヲ所有シ之レニ手形庫ニアル諸手形ヲ其發行

ノ日附又ハ領収ノ日附ニ由ラスシテ其支拂ノ日附ノ順序ニ從ヒ類別シテ記載スルナリ是レ毎日領収スル所ノ手形ハ何時其拂期限ニ至ルカチ知り且ツ其支拂期限ニハ其支拂ヲ受クルガ爲メ之レヲ支拂人ニ呈示スルコトヲ忘レサルガ爲メナリ何トナレハ若シ其支拂期限ニ手形ヲ支拂人ニ呈示シ且ツ其翌日支拂ノ拒絕証ヲ記セシコトナキニ於テハ其手形ニ付キテハ要求權ヲ行フコトヲ得サレハナリ

(第三百三十三號) 第四支拂ヲ爲スヘキ手形ノ事 此ノ勘定口ハ必要ナルモノトス何トナレハ商人ハ其發行シタル手形ノ金高ニ付キテ自己又ハ自己ヲ代表スル總勘定口ノ一ヲ以テ借方トナサ、ルヘカテサレハナリ其故如何トナレハ其手形ハ拂期限ニ其支拂ヲナスヘキモノナレハナリ然レモ何人ヲ以テ其貸方トスル乎商人ハ其記載セシ手形ヲ受取リシモノヲ以テ貸方トスルコト能ハサルナリ何トナレハ其手形

ノ支拂ヒ期限ニ至リテ之レヲ所持スルモノ其受取人ニアラサルコト最モ多ケレハナリ且ツ其支拂ヲ受クヘキモノハ支拂期限ニ至リテ手形ヲ所持スルモノナリトス故ニ商人ハ豫メ特定ノ人ニ對シテ其手形ヲ支拂フノ義務ナク總テノ人ニ對シテ之レヲ支拂フノ義務アルモノトス因リテ支拂ヲナスヘキ手形ノ勘定口ハ總テ未タ知ラサル所ノ負債主ヲ代表スルモノナリトス是レ此ノ勘定口ハ商人ノ側ヲユ於テ是等ノ負債主ヲ代理スル手代ト見ルコトヲ得ルナリ

支拂ヲ爲スヘキ手形ノ貸方ニハ總テ商人ノ發行シタル諸手形ヲ記載スルナリ而シテ左ノモノヲ以テ其借方トナスナリ○第一負債辨償ノ爲メニ手形ヲ記シテ之レヲ渡シタルトキハ之レヲ受取リタル權利者ヲ以テ借方トナスナリ○第二現金ニテ買入ヲ爲シ其支拂ノ爲メニ手形ヲ記シテ渡シタルトキハ一般商品ヲ以テ其借方トナスナリ○第三

手形ノ金額ヲ領収シテ手形ヲ記シ以テ渡シタル場合ハ金庫ヲ以テ借方トスルナリ○第四手形ヲ發行シタル後割引ノ爲メニ之レヲ渡シタルトキハ其實際受取リタル金高ニ就キテハ金庫ヲ以テ借方トナシ且ツ割引者ニ於テ受取リタル手數料及ヒ割引賃ニ付キテハ損益ヲ以テ借方トナスナリ

支拂ヲ爲スヘキ手形ノ借方ニハ左ノ場合ニ於テ受取リタル諸手形ヲ記載スルナリ○第一支拂期限ニ支拂ヲ爲シテ手形ヲ受取リタルトキノ如キ是レナリ此ノ場合ニ於テハ金庫ヲ以テ其貸方トナスナリ○第二手形發行人ニ於テ支拂期限前ニ割引ヲ以テ其支拂ヲナシ之レヲ受取リタルトキ是レナリ此ノ場合ニ於テハ實際支拂フタル金高ニ就キテハ金庫ヲ以テ貸方トナシ又手數料等トシテ受取リタル金高ニ付キテハ損益ヲ以テ貸方トスルナリ○第三書換ノ爲メニ手形ヲ受取リタ

ルトキ是レナリ此ノ場合ニ於テハ支拂ヲナスヘキ手形ノ勘定口ヲ以テ貸方トナスナリ何トナレハ一手形ヲ受取リタルト同時ニ他ニ一手形ヲ出セバナリ

支拂ヲナスヘキ手形ニ付キテハ前號ト同シク大帳ニ於テ通常ノ場合ヨリ一縦野ヲ増加シテ之レニ手形ノ受取人ノ名前ヲ記載スルナリ商人ハ支拂ヲナスヘキ手形ノ爲メ手形支拂期限帳ヲ有セサルヘカラス此ノ帳簿ニハ手形ノ支拂期限ノ順序ニ從フテ其手形ヲ記載スルナリ是レ商人ノ此ノ帳簿ニ依リ孰レノ場合ヲ問ハス支拂ヲ爲スヘキ手形ノ期限ヲ知り且ツ之レニ必要ナル資金ヲ準備スルコトヲ得ルノ手段タルモノナリトス

(第百三十四號) 第五損益ノ事 此ノ勘定口ハ商人ノ資産トシテ収入シ又ハ償ヲ得ルコト無クシテ出ツル所ノ總テノ價額ヲ記載スルヲ必要ナリトス是レ其入價額ト出價額トハ商人ノ資産ノ増加又ハ減少ヲナス所ノモノナリ例ヘハ損益勘定口ノ貸方ニハ受取リタル利子収取シタル割引賃、地代、家賃、嫁資、贈與、遺物等ヲ記載スルナリ○損益勘定口ノ借方ニハ家事ノ費用、家賃ノ支拂、地代ノ支拂、手代ノ給金、一般費用、(一般費用ニ付キ特別ノ勘定口ヲ開クトキハ此ノ限りニアラズ)支拂ヲ受ク可カラサル手形ノ金高等ヲ記載スルナリ要スルニ總テ利益トナリシモノハ之レヲ損益勘定口ノ貸方ニ記載シ又損失トナリシモノハ其借方ニ記載スルナリ

何ニガ故ニ是ノ若ク記載ヲナス乎一見スル所ニ據レハ斯ノ如ク記載ヲナスヲ要セサルモノ、如ク然リ然レトモ損益ニ付キ別ニ勘定口ヲ開キ右ノ如ク記載ヲナスニ付キテ二個ノ理由アリ即チ○第一此ノ勘定口ハ諸記載ヲ整理スルガ爲メニ設ケタルモノトス夫レ利得アレハ

必ズ或モノ、借方ヨリ生セサル可カラズ(此ノモノハ真正ノ人タルコトアリ)又ハ想像ノ勘定口タルコトアリ)而シテ其利益トナル所ノ金額ハ此モノヨリ商人ニ拂込ムモノトナラサル可カラズ故ニ帳簿ヲ整頓スルガ爲メ此ノ利益ノ一ヶ條ヲ損益勘定口ノ貸方トナスナリ又損失アレハ必ズ或ル人ノ貸方ヨリ此ノ損失生セサル可カラズ故ニ之レヲ勘定口ノモノ、借方ニ記載スルナリ○第二此ノ損失勘定口ハ唯々帳簿整頓上ノ計算ノ爲メニ要スルモノニシテ乃チ假定上ノモノトス然ラハ今假リコ一手代ヲシテ此ノ計算ヲ掌ラシメ利益ト損失トヲ記載セシムルトモ實際此ノ手代ハ利益上ノ金額ヲ領収セサルナリ何トナレハ此ノ金額ハ金庫ニ拂込ムカ又ハ商品ノ價ヲ増額スルニ過キサレバナリ又損失アルトキト雖モ此ノ手代ハ別ニ金額ノ支拂ヲナサザルナリ就キテハ此ノ手代ハ何事ヲナスヘキ乎即チ例ヘハ此ノ手代ハ金

庫ニ於テ或ル金額ヲ受取リタルハ利益ニ屬スルモノナルコトヲ證明シ又其金額ハ損失ヲ償フガ爲メニ受取リタルモノナルコトヲ證明スルナリ而シテ此ノ證明ヲナスニハ金庫ヲ以テ借方トナシ自己ヲ以テ貸方トナシ以テ之レヲ證明ス可シ是レ其第一ノ場合ニ於テ此ノ如クナスナリ其第二ノ場合ニ於テハ金庫ヲ以テ貸方トナシ自己ヲ以テ借方トナシ以テ之レヲ證明スルナリ

(第三百三十五號) 第六資本ノ勘定口及ヒ諸勘定口ノ開始ノ事

以上余輩ガ説明セシ五個ノ勘定口ハ商人ノ日常取引ノコトヲ指示スルニ充分ナリトス然レトモ總テ其勘定口ニ依リ商人ノ地位ヲ指示スルニハ此ノ商人ハ唯々信用ノミヲ以テ資産ヲ有セス商業ヲ始メタルモノナリト假定スルコトヲ要スルナリ通常ハ商業ヲ始ムルニ方リテ金庫ニ若干ヲ有シ且ツ營業ニ付キテノ諸器械アルナリ且又利益ヲ得

テ之レヲ貯蓄シタルモノ資本トナルナリ然ラハ以上ニ指示シタル勘定口ハ是等ノ價額ヲ帳簿ニ記載スルハ充分ナラサルナリ原來右ニ付キ金庫一般商品等ヲ其借方トナス可シト雖凡何人ヲ以テ其貸方トナス乎之レニ付キ第六ノ勘定口ヲ要スルナリ此ノ勘定口ハ商人自己ヲ代表シ且ツ其之レニ委任セラレタルモノヲ各種一般ノ勘定口ニ付托スルモノト見做ス可キモノト是等勘定口ヲ開クニ付キテハ其受ケタル資本ノ勘定口ヲ以テ其貸方トナスナリ且ツ同時ニ此ノ取引ヲ日用帳簿ニ記載ス其題目ニハ各種商品ニト記載スルナリ而シテ其己下ニ詳細ノコトヲ記載スルナリ一度此ノ事ヲ記シタル後ハ商業ヲ營ム間ハ其勘定口ノ繼續スルモノトス而シテ斯ノ如ク一度資本ヲ記載シテ極メタル以上ハ損益ノ勘定口ト關係ヲ生セサルナリ其ノ損益ノ勘定口ハ年々資本ノ増加トナル可キ利益ヲ拂ヒ入ル、モノトス

此ノ資本ノ勘定口ハ總テ商人ノ身代ノ有様ヲ正確ニ指示スルモノナリ其貸方ニハ總テ商人ノ所有タルモノヲ記載シ其借方ニハ總テ商人ガ義務者タルモノヲ記載スルナリ商人ノ身代ヲ組成スル各部分ヲ指示スルガ爲メ其部類ニ從フテ資本ノ勘定口ヲ細別スルコト往々之レアリ例ヘハ之レヲ不動産、動産、營業諸器械等ニ分ツナリ而シテ帳簿ノ記載ヲナスノ始メニ方リテ是等各種ノ勘定口ヲ以テ資本ノ借方トナシ資本ヲ以テ其貸方トナスナリ

平均目錄ノ事

(第三百三十六號) 余輩ハ既ニ第二百二十七號ニ於テ日用帳簿ノ記載ノ各々條ハ大帳ニ於テ各勘定口ノ借方ト貸方トニ記載ス可キモノナルガ故ニ總テ勘定口ノ借方ノ合計ト其貸方ノ合計ト相平等ナル可キモノナルヲテ説明シタリ

尙ホ其他ニ均一ノ生ス可キコトアルナリ即チ各勘定口ノ合計ニアラスシテ各勘定口ノ借方ト貸方トノ精算ヲ相合スルトキハ借方ノ精算ノ合計ハ貸方ノ精算ノ合計ト平均スルコトヲ要スルナリ何トナレハ或ル勘定口ニ於テ超過スル所ノ金額ノ諸ヶ條ハ他ノ勘定口ニ於テ減少スル所ノ諸ヶ條トナルヲ以テナリ故ニ若シ甲ナル勘定口其領収セシモノヨリ唯タ百「フラン」ノミ多ク支拂タルニ於テハ或ル他ノ勘定口ニ於テ其支拂タルモノヨリ唯タ百「フラン」ノミ多ク領収シタルコトナカル可カラサルナリ

斯ノ如ク二個ノ合計均一ナルコトハ孰レノ場合ヲ問ハズ帳簿上諸勘定口ヲ閉鎖スルトキ無カル可カラザルモノトス故ニ商人其諸勘定口ノ正確ナル乎ヲ検査セント欲スルトキハ何レノ時タルヲ問ハズ其負債ト資産トノ平均目錄ヲ定ムルコトヲ得ルナリ而シテ商人ハ唯タ勘

定口ノ錯誤ヨリ生スル所ノ誤謬ヲ避クルカ爲メノミナラズ時間ヲ省略スルガ爲メニ屢々其平均目錄ヲ作ルコト其利益トナル可シ何トナレハ若シ計算上一ノ錯誤アルトキハ總テノ加算ヲ改算セサルヲ得ス而シテ若シ其錯誤加算ヲ存セザルトキハ日用帳簿ノ記載ノ諸ヶ條ヲ大帳ニ精密ニ轉記シタル乎其諸ヶ條ヲ記載スルコトヲ遺脱セシニアラサル乎又借方ニ記ス可キモノヲ貸方ニ記シ貸方ニ記ス可キモノヲ借方ニ記載セシコトナキ乎ヲ知ルガ爲メ一々其各ヶ條ヲ調査スルヲ要スルナリ且ツ之レヲナスニハ日用帳簿ノ各記載ノ條項ヲ一々點檢スルノ勞ヲ取ラサル可ラス是レ其多クノ時間ヲ費ヤシ且ツ困難ナル煩勞タルモノニシテ尙ホ且ツ久シク前年ノ平均目錄ヲ作ラサルニ於テハ其煩勞ノ時間ハ最モ悠久ナリトス何トナレハ諸口ノ錯誤ハ其以前ノ諸勘定ニ存シ得ルコトアリテ其債主ノ平均目錄ハ其正確ナルコ

尙ホ其他ニ均一ノ生ス可キコトアルナリ即チ各勘定口ノ合計ニアラ
スシテ各勘定口ノ借方ト貸方トノ精算ヲ相合スルトキハ借方ノ精算
ノ合計ハ貸方ノ精算ノ合計ト平均スルコトヲ要スルナリ何トナレハ
或ル勘定口ニ於テ超過スル所ノ金額ノ諸ヶ條ハ他ノ勘定口ニ於テ減
少スル所ノ諸ヶ條トナルヲ以テナリ故ニ若シ甲ナル勘定口其領収セ
シモノヨリ唯タ百「フラン」ノミ多ク支拂タルニ於テハ或ル他ノ勘定口
ニ於テ其支拂タルモノヨリ唯タ百「フラン」ノミ多ク領収シタルコトナ
カル可カラサルナリ
斯ノ如ク二個ノ合計均一ナルコトハ孰レノ場合ヲ問ハズ帳簿上諸勘
定口ヲ閉鎖スルトキ無カル可カラザルモノトス故ニ商人其諸勘定口
ノ正確ナル乎ヲ検査セント欲スルトキハ何レノ時タルヲ問ハズ其負
債ト資産トノ平均目錄ヲ定ムルコトヲ得ルナリ而シテ商人ハ唯タ勘

定口ノ錯誤ヨリ生スル所ノ誤謬ヲ避クルカ爲メノミナラズ時間ヲ省
略スルガ爲メニ屢々其平均目錄ヲ作ルコト其利益トナル可シ何トナ
レハ若シ計算上一ノ錯誤アルトキハ總テノ加算ヲ改算セサルヲ得ス
而シテ若シ其錯誤加算ヲ存セザルトキハ日用帳簿ノ記載ノ諸ヶ條ヲ
大帳ニ精密ニ轉記シタル乎其諸ヶ條ヲ記載スルコトヲ遺脱セシニア
ラサル乎又借方ニ記ス可キモノヲ貸方ニ記シ貸方ニ記ス可キモノヲ
借方ニ記載セシコトナキ乎ヲ知ルガ爲メ一々其各ヶ條ヲ調査スルヲ
要スルナリ且ツ之レヲナスニハ日用帳簿ノ各記載ノ條項ヲ一々點檢
スルノ勞ヲ取ラサル可ラス是レ其多クノ時間ヲ費ヤシ且ツ困難ナル
煩勞タルモノニシテ尙ホ且ツ久シク前年ノ平均目錄ヲ作ラサルニ於
テハ其煩勞ノ時間ハ最モ悠久ナリトス何トナレハ諸口ノ錯誤ハ其以
前ノ諸勘定ニ存シ得ルコトアリテ其債主ノ平均目錄ハ其正確ナルコ

トチ點檢シタル後ニアラサレハ之レチ承認スルコトヲ得サレハナリ
 之レニ因リテ商家ニシテ能ク簿記法ヲ整頓スルモノハ毎月其平均目
 録ヲ作ルナリ倫敦ニ於テハ每週商家ニ於テ之レチ作ルナリ
 平均目錄ハ之レチ特別ノ帳簿ニ記載シ又ハ平均目錄紙ト稱スル料紙
 ニ之レチ記載スルナリ(辛號雜形參看)此ノ料紙ニハ各紙ノ勘定口ノ題
 目ヲ記載スルガ爲メ廣キ縦罫ヲ置クナリ而シテ其右方ニハ數字ヲ記
 スルガ爲メ四個ノ縦罫ヲ裝置ス此ノ縦罫中最初二個ノ行中ニハ各勘
 定口ノ合計ヲ記載シ其第一行ニハ借方ノ合計ヲ記シ其第二行ニハ貸
 方ノ合計ヲ記載スルナリ且ツ他ノ二個ノ縦行中ニ借方又ハ貸方ノ精
 算ヲ記載スルナリ而シテ此ノ借方ト貸方ノ精算ノ數ハ前二個ノ縦罫
 ニ於テ同一ノ行ニ記シタル二個ノ數ノ差數ニヨリテ之レチ得ルナリ
 而シテ精算數ハ前縦罫ニ於テ借方ノ合計ノ大ナルト小ナルトニ從フ

テ之レチ借方又ハ貸方ノ行中ニ記載スルナリ而シテ其縦罫中ノ各數
 字ヲ加算ス此ノ場合ニ於テハ最初二個ノ行中ノ合計ハ互ニ均一ナル
 可キモノニシテ又大帳ノ合計ト相等シカル可ク後二行ノ合計ハ互ニ
 亦均一ナラサル可カラサルナリ

諸勘定口ノ閉鎖ノ事

(第三百三十七號) 諸勘定口ヲ閉鎖スルコトハ毎年財産目錄ニ記載ス可
 キ負債資産明細表ヲ記スルガ爲メニ必要ナルモノトス第九條 參看 且又諸
 勘定ヲ閉鎖セサルニ於テハ大帳ノ行ニ記載スル所ノ諸ヶ條非常ニ増
 加シ而シテ各丁ノ下ニ記ス可キ合計非常ノ高トナリ從フテ之レチ記
 スコト繁雜ニシテ且之レチ比較スルニ就キ亦頗ル煩闕タルヲ免レス
 故ニ之レチ避クルニハ毎年諸勘定口ヲ閉鎖スルコト緊要ナリトス此
 チ以テ毎年ノ終リニ大帳ニ付キテ貸方借方ノ平均目錄ヲ作製ス而シ

テ其平均目錄ヲ作製シタル後生スル所ノ差額ヲ繰越高トシテ之レヲ新計算年度ニ記載スルナリ通常一般ニハ其差額眞トニ些少ナルモノトス斯ノ如クナストキハ諸勘定口最モ判明ナルヲ得ルナリ各自ノ諸勘定口ハ單記簿法ニ於テ説明シタルガ如ク相平均スルナリ若シ其自ラ平均セサルニ於テハ金額ノ少ナキ方ニ其多キ金額アル方ノ差額ヲ記載シ之レヲ借方精算又ハ貸方精算ト稱スルナリ但シ此ノ場合ニ於テハ複記簿法ノ一般ノ原則ニ從ヒ其差額ノケ條ヲ或ル勘定口ノ借方ニ記載シ以テ其貸方タルモノヲ記載シ又之レヲ或ル勘定口ノ貸方ニ記載シ其借方タルモノヲ示スコトヲ要スルナリ然レモ其借方トナリ又ハ貸方トナルモノハ如何ナルモノナル乎是レ一般ノ新勘定口ナルモノニシテ之レヲ出ノ平均ト稱スルナリ即チ其出ノ平均ナル勘定口ヲ以テ借方トナシ又之レヲ貸方トナスナリ(丙號及ヒ丁號雖

形參看)

前段ノ如ク勘定ノ平均ヲ求ムルノ法ハ亦金庫ノ勘定口支拂ヲ受ク可キ手形ノ勘定口及ヒ支拂ヲナス可キ手形ノ勘定口ニ適用スルナリ且ツ金庫及ヒ支拂ヲ受ク可キ手形ノ勘定口ニ付キテハ其平均ノ眞正ナルヤ否ヤヲ速カニ知ルコトヲ得ルナリ何トナレハ其勘定口ニ於テナシタル平均ハ正確ニ金庫又ハ手形庫ノ勘定口ニ存ス可キモノナレハナリ

一般商品ノ勘定口ニ付キテハ其平均ヲ求ムルコト最モ困難ナルモノトス即チ此ノ場合ニ於テハ倉庫ニ入りシ總テノモノニ付キ其買入代價ヲ以テ一般勘定口ノ借方トナシ且ツ倉庫ヨリ出デシ總テノモノニ付キ其ノ賣拂代價ヲ以テ此ノ一般勘定口ノ貸方トナシ以テ毫モ利得ヲ得サルモノト見做シテ精算ヲ立ルナリ然レトモ利益ヲ生スルニ於

テハ賣拂ノ代金ハ買入レノ代金ヨリ超過ス可キモノトシテ勘定セザルヲ得ザルガ故ニ其一般商品ノ貸方ニ準シテ商品ノ倉庫ヨリ出テカ
 ルヤ明カナリ故ニ若シ一般商品ノ借方ニ十万フラントアリテ其貸方
 ニ七万五千フラントアルトモ之レヲ以テ商品ノ四分ノ三ニ出テタル
 モノトシ残り二万五千フランアルモノトナス可カラサルナリ反テ四
 分ノ三ヨリ最多額ノ商品残りタルコト判然タリトス○然ラハ如何ナ
 ル方法ヲ以テ其商品ノ殘高ヲ知ル乎唯タ帳簿ニ記載スル所ノケ條ノ
 ミニ付キテハ之レヲ知ルコト能ハサルナリ故ニ之レヲ知ルハ實地ノ
 検査ヲナサ、ル可カラズ即チ倉庫ニ存在スルノ所ノモノヲ証明スル
 コトヲ要スルナリ而シテ其証明ハ財産目錄ヲ作りテ之レヲナスナリ
 是故ニ財産目錄ヲ作ルトキニアラサレハ全ク諸勘定口ヲ精算スルコ
 ト能ハスシテ且ツ財産目錄ハ負債資産明細表ヲ作ルニ缺ク可カラサ

ルモノトス此ノ明細表ハ財産目錄ノ帳簿ニモ亦記載スルナリ(第九條
 參看)

此ノ財産目錄ハ獨リ得タル所ノ利益高ヲ知ラシムルモノナリ前ノ場
 合ニ於テ財産目錄ニ依リ倉庫ニアル商品ノ高五万フランナリト假定
 センニ之レヲ其賣拂フタル商品高ノ七万五千フランニ加フルトキハ
 合計十二万五千フラントナラン之レニ就キ初メ十万フランヲ仕入レ
 タルヲ以テ二万五千フランヲ儲ケタルモノトナルナリ
 然ラハ如何ナル方法ヲ以テ此ノ員數高チ一般商品ノ勘定口ニ記載ス
 ル乎即チ其借方ニ商品ニ付テノ增高即チ二万五千フランヲ記載シ之
 レヲ収入高ト稱スルナリ何トナレハ此ノ勘定ハ商人ニ商品ノ額十万
 「フラン」ニ付キテ生シタルモノニ非スシテ十二万五千フランニ付キテ
 生シタル者ナレハナリ(戊第離形參看)且ツ同時ニ其勘定口ニ付キ損益

勘定口ヲ以テ貸方トナスナリ何トナレハ二万五千フランハ儲高ナレハナリ而シテ一般商品ノ勘定口ヲ他ノ諸勘定口ヲ精算スル如ク出ノ平均ニ因リテ差額ヲ記載シ以テ之レヲ精算スルナリ前例ニ於テハ五万フランニ賣リタル商品ノ七万五千フランヲ加ヘテ借方ノ總計十二万五千フランヲ得ルナリ而シテ出ノ平均即チ財産目錄ニ依リテノ一般商品ヲ以テ貸方トナシ此ノ五万フランヲ記載スルナリ成號雛形參看故ニ一般商品ノ勘定口ハ二個ノ數ニ因リテ平均スルナリ即チ借方ニ於テハ其年度ノ儲高タル収入高損益勘定口ニ付キ(若シ損失アリシ場合ニ於テハ此ノ數ヲ以テ一般商品ノ貸方及ヒ損益ノ借方ニ記載スルナリ)又借方ニ於テハ出ノ平均ニ因リ及ヒ財産目錄ニ因リテノ商品ニ依リテ平均スルナリ

損益ノ勘定口ハ(余輩ハ之レニ商品ニ付キテ得タリシ収入高ヲ加ヘタ

ルモノナリ)余輩ノ嚮ニ示マタル最初ノ諸勘定口ト同シク平均スルナリ若シ貸方多クシテ借方ニ超過スルトキハ其差即チ貸方精算ナルモノヲ以テ其借方ニ記載シ之レヲ純益ト稱スルナリ夫レ此ノ差ハ一般商品ノ勘定口ヨリ生シタル収入高ニシテ損益ノ借方ニ記載スル諸入費ヲ差引タル高ヲ示スナリ因リテ此ノ差ハ則チ俗ニ所謂純益ニ適當スルナリ○然レトモ如何ナルモノヲ以テ其貸方トナス乎是レ資本ノ勘定口ヲ以テ貸方トナスナリ何トナレハ本年度ノ純益ハ其年ノ資本ヲ増加シタルモノナレハナリ○若シ損益ノ勘定口損失ノ高多キニ因リテ平均シタルトキハ資本ノ借方ニ之レヲ記載スルナリ(已號雛形參看)前ノ如ク増加シタル資本ノ勘定口ハ貸方ノ借方ニ超過ノ額ヲ記載スル條ニ依リテ平均スルナリ即チ商人ノ現時ノ資産ハ出ノ平均ノ借方ニ依リテ之レヲ平均スルナリ

(第三百十八號) 余輩ハ諸勘定口ヲ平均スルガ爲メ新規ノ勘定口即チ出ノ平均ノ勘定口ナルモノヲ用ヰタリ此ノ出ノ平均ノ勘定口ニハ總テノ諸勘定ノ精算額ニ記載スルナリ但シ損益ノ精算額ハ資本ノ勘定口ニ於テ之レヲ爲スチ以テ之レヲ其平均ノ勘定口ニ記載セザルナリ此ノ平均ノ勘定口ハ商人ノ總テノ資産トナル可キ諸貨物ヲ占有スル決算人ト見做サ、ル可カラズ而シテ商人ハ其決算人ニ對シテ已レノ資産タルモノニ付キ義務ヲ負フ因リテ其總テ負債タルモノニ付キ之レヲ以テ貸方トナスナリ故ニ此ノ勘定口ハ商人ノ資産ト負債トノ情況ヲ示スモノトス

一旦諸勘定口ヲ閉鎖シテ更ニ又之レヲ開クトキハ入ノ平均ト稱スル總體ノ新規ナル勘定口ヲ用ユルナリ此ノ勘定口ニ於テハ出ノ平均ノ勘定口ノ諸精算ヲ記載ス是亦其因リテ出テタル諸勘定口ニ記載スル

ナリ是等ノ諸勘定口ハ更ニ出ノ平均ニ依リテ借方トナシ又ハ其平均ノ借方トナスナリ而シテ此ノ變更ハ其精算ノ額ヲ再ヒ借方又ハ借方ノ諸勘定口ニ記スガ爲メニ必要ナルモノトス且ツ入ノ平均ハ出ノ平均ヲ反對ニ指示スルモノナルヲ以テ正確ニ其新年度ノ初メニ於ケル商人ノ地位ヲ表示スルナリ即チ入ノ平均ナルモノハ當時商品ノ負債資産明細表タルモノトス(庚号雛形參看)

(第三百十九號) 此ノ表ニハ財産目錄ヲ副ヘザル可カラズ(第九條參看)且ツ第四百三十九條ニ於テ分散人ハ其支拂ヲ停止セシヨリ三日内ニ其負債資産明細表ヲ裁判所ニ納ムヘキモノトセリ此ノ表ハ現時商人ノ地位ト及ヒ其年間ノ諸取引ノ結果ニ付キ總テノ緊要ナル諸條項ヲ明細ニ記載スルナリ以下雛形ヲ示スチ以テ乃チ就テ見ル可シ即チ正號雛形是レナリ之レヲ出ノ平均表ニ對照スルトキハ商人ノ地位ヲ正

確ニ顯ハスナリ(庚號雛形參看)

(第四百十號) 以下ニ諸口ノ雛形ヲ記載ス可シ此ノ雛形ハ余輩ノ是迄
説明セシ諸規則ヲ容易ニ理會セシムルモノナリト思惟スルナリ

丙號丁號戊號已號ノ雛形ニ於テハ行中數點ヲ表シ或ハ其「フラン」及ヒ
「サンチム」ヲ記載スル縱行中ニ數字ヲ記シ又ハ之レヲ記セスシテ別
ニ某々ノ條ヲ記サシル行アリ是レ帳簿ノ記載方ヲ示スガ爲メ余輩
ノ假設シタル條項ナリトス而シテ其條項ハ某々ノ取引ヲ示スモノト
スルコトヲ要セザルナリ余輩ハ此ノ取引ノ性質ハ全ク如何ナルモノ
ナル乎ヲ示サ、ル「反」テ雛形ヲ解スルニ容易ナラント思惟ス而シテ
此ノ性質ヲ示サ、ルハ讀者ヲシテ其眼ヲ緊要ナル諸點ニ注ガシムル
爲メナリ故ニ讀者ノ想像ヲ以テ此ノ數點ヲ表シタル行中ニハ或ルニ
三ノ取引ヲ記載スルモノトナスコトヲ得ルナリ

甲號雛形○單記簿法日用帳簿ノ記載方

— 千八百七十二年十一月十五日 —		
8	甲借 一メートル八法ノ割ニテ羅紗百メー トルヲ賣ル.....	800 11
— 同 三十日 —		
11	乙貸 絹子三卷ヲ買入ル.....	1,000 11
— 同十二月十五日 —		
8	甲貸 正金ニテ支拂フ.....	2,000 11
— 同 二十日 —		
11	乙借 第十二號者ノ手形.....	3,250 11
— 同 三十一日 —		
	第十號拙者ノ手形ノ支拂.....	3,230 11
— 同 同 —		
	現金ニテ絹六卷ノ買入.....	900 11
		3,200 11

乙號雛形〇複記簿法日用帳簿記載方

—千八百七十三年十一月二十五日—			
75	甲一般商品 = 一ノートル八法ノ割ニテ羅紗百ノートル	800	11
——同 三十日——			
25	一般商品乙 = 11 絹子二卷	1,000	11
——十二月十五日——			
28	金庫甲 = 8 甲ヨリ正金ノ拂込	2,000	11
——同 二十日——			
11	乙支拂ヲ可キ手形 = 30 第十二對拙者ノ手形	1,250	11
——同 三十一日——			
30	支拂ヲ可キ手形金庫 = 28 第十二號拙者ノ手形ノ支拂	1,250	11
——同 日——			
	一般商品金庫 = 六絹卷ノ買入	900	11
		7,200	11

丙號雛形〇大帳(複記簿法)〇負債主ノ勘定口

借

在巴里商甲集

貸

1883	十一月 23	一般商品 = 八法ガユニ羅紗百ノートル	1	800	11	1673	十二月 15	金庫 = 依テ正金支拂	5	2,000	11
			1,200	11		31	出ノ平均 = 依テ負債主ノ精算		500	1
			500	11					2,000	11
			2,500	11					2,500	11
1874	一月 1	入ノ平均 = 新規精算		500	11	1874					

丁號雛形 ○ 大帳 ○ 債主ノ勘定口

借		在里昂商乙某		貸	
1873				1873	
十二月 20	支拂フ〜キ手形 = ノ第十	6	1,250 11	十一月 30	一般商品 = 依テ 縞子三卷
十二月 31	二號拙者ノ手形		250 11		ノ買入.....
	出ノ平均 = 債主ノ精算				1000 11
					500 11
					1500 11
1834				1874	
				一月 1	入ノ平均 = 依テノ新規精
					算.....
					250 11

戌號雛形 ○ 大帳

借		一般商品		貸	
1873				1843	
			98,100 11		74,200 11
十一月 50	乙 = 縞子三卷.....		5,000 11	十一月 25	甲 = 依テ 羅紗百ノ1ト
十二月 31	金庫 = 絹六卷.....		900 11		ル.....
					800 11
十二月 31	損益 = 利益.....		25,000 11	十二月 31	出ノ平均 = 依テ 財産目
					録 = 於テノ一般商品.....
			125,000 11		50,000 11
					125,000 11
1873				1874	
一月 1	入ノ平均 = 財産目録 =		50,000		
	依テ.....				

已號離形 ○ 大帳

借		損 益		貸	
1873				1873	
	3,000	11		500
				
				
				
				
十二月 31	資本 = 純益.....	22,500	11	十二月	一般商品 = 依テ利益.....
					25,000
		25,500	11		25,300
1874				1874	

庚號離形

借		入、平均		貸	
1873				1873	
十二月 31	乙 =	250	11	十二月 31	甲 = 依テ
	支拂フ可キ手形.....	10,000	11		500
	資本 =	72,500	11		一般商品 = 依テ.....
					50,000
		82,750	11		金庫 = 依テ.....
					18,250
					支拂ヲ受ク可キ手形 = 依
					テ.....
					14,000
					82,750
				1874	

8 11 25 28 30 31 33 35	甲 乙 一般商品 金庫 支拂ヲ〜キ手形 支拂ヲ受ク〜キ手形 損益 資本	合計		精算	
		借	貸	借	貸
		2,500	2,000	500	
		1,250	1,500		250
		100,000	75,000	25,000	
		22,000	3,750	18,200	
		10,000	20,000		10,000
		20,000	6,000	14,000	
		3,000	500	2,500	
			50,000		50,000
		158,750	185,750	60,200	60,250

壬號雛形

千八百七十三年十二月三十一日資産負債明細表

第一章	
資産高	
在庫商品	50,000
金庫	18,250
支拂ヲ受ク可キ手形	14,000
各種負債主	
甲	500
負債高	
支拂ヲ可キ手形	10,000
各種権利者	
乙	250
	12250
差違即資本	72,500
本年初日ノ資本高	50000
純益高	22,500
第二章	
取引高(一)	75,000
在庫商品(二)	50,000
	125,000
従前買入高及商品(三)	100,000
利益	25,000
費用(四)	2,500
純益(五)	22,500

- (一) 財産目録前一般商品ノ貸方
- (二) 財産目録ノ結果
- (三) 財産目録前一般商品ノ借方
- (四) 財産目録前損金ノ借方
- (五) 前章ノ終リノ差違高ト同一ノ差違高

第二卷ノ下 夫婦財産ヲ分ツ事

(第四百十一號) 本篇ハ不充分ナル處ト太々廣汎ニ渉ル處トノ二者ヲ兼有セリ其不充分ナリト云フ所以ハ婚姻ノ契約書ヲ公告スルコトヲモ之ニ説述シタレハナリ又其太々廣汎ニ渉ル處アリト云フ所以ハ夫婦財産ヲ分ツコトニ付テ公告スル事ノミヲ載セタレハナリ

前文ニ婚姻ノ契約ヲ公告スルハ商人第二ノ義務ナリト云ヘリ因テ今第二卷ノ後直チニ此事ヲ論載スルナリ

公告ス可キ者二アリ一ハ婚姻ノ契約ニシテ一ハ夫婦財産ヲ分ツ事是レナリ今將セニ之ヲ論セントス

第一章 婚姻ノ契約書ヲ公告スル事

(第四百十二號) 千八百五十年以降ハ凡ソ婚姻ノ契約ナル者ハ商人ニ非スト雖凡之ヲ公告セサル可カラサルコトナレリ(千八百五十年七月

十日ノ法律ヲ以テ改正セラレタル民法典第千三百九十一條及ヒ第千三百九十四條參看)此事ハ民法ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ論セサル可シ商人其婚姻ノ契約書ヲ公告スル事ハ其方法ニ因テ他人若クハ配偶者ノ利益ニ關シテ緊要ナリトス若シ夫婦財産ヲ共通スルキハ商人タル夫ハ質物トシテ其債主ニ己レカ財産ヲ供スルハ勿論共通財産ヲモ又併セテ其中ニ入ル可シ(民法典第千四百二十一條參看)若シ又婦商人タル時ハ(夫ノ許諾ヲ得テ)婦ハ質物トシテ己レカ財産ノ外ニ尙共通財産及ヒ夫ノ財産ヲモ併セテ之ヲ出ス可キモノトス(民法典第千四百二十六條商法典第五條參看)是レ配偶者ノ爲メニハ信用ノ元素ニシテ之ヲ人ニ知ラシムルハ己レカ利益タレハナリ若シ又夫婦他ノ方法ヲ以テ婚姻ノ契約ヲ結ヒシキハ他人之ヲ知ルニ付テ利益アリトス如何トナレハ其他人ハ前ニ擧ケシ如キ利益ヲ當テニスルコトヲ得スシテ而シテ

婦ハ其所有タル部分ノミニ付テハ夫ノ債主ナルヲ以テ夫カ商業上債主ニ質物ニ供シタル如キ外形ナル物件ノ滅殺スルコトアレハナリ若シ婦商人タルハ其嫁資財産ノ收買權ハ夫ニ屬スルカ故ニ其裁判所ヨリ商業ヲナスコトヲ許サレシ場合ニ於テハ(斯クノ如キコトヲ爲シ得可キモノトシテ)其債主ハ虛有權ニ非サレハ差押ユルコトヲ得ス況ンヤ其嫁資分括法ヲ用ヒシキノ如キハ其嫁資タル不動産ニ付テハ固ヨリ權利ナキモノナルキヤ(商法典第七條)

婚姻ノ契約ヲ公ケニスルノ規則ハ法典ニ於テ又之カ差別ヲ立テタリ

第一既ニ商人タリテ婚姻ヲ取結フ事

第六十七條 夫婦トナル可キ者ノ中一方商人タル時ハ其婚姻ノ契約書ヲ記シタルヨリ一月内ニ其拔書ヲ記シテ之ヲ訴訟法第八百七十二條ニ記シタル書記局及ヒ其他ノ局ニ差出シ且同條ニ循ヒ之ヲ懸

帖ニ記シテ公ケニ示ス可シ
其拔書ニハ夫婦財産ヲ共通スルヤ財産ヲ分チタルヤ嫁資分括ノ法ニ循フヤヲ記載ス可シ
(第四百十三號) 如何ナル方法ニテ婚姻ノ契約ヲ結ビタルハ此ノ如ク公ケニ示サハル可ラサル乎

蓋シ第六十九條ノ末文ニ記載スル所ハ夫婦財産ヲ共通セサル場合ト全ク同一ナル理由ナルヲ以テ如何ナル方法ニテ之ヲ爲シタルヲ問ハス必ズ此旨ヲ公示セサル可ラス又法律上ナル財産共通ノ方法ヲ以テシタルキモ同様ナリトス顧フニ千六百七十三年ノ王命ニ依レハ財産共通ノ事ニ異ナル事項ノミヲ公示セサル可ラサルノ制ナルヲ以テ近來ノ法律トハ反對アリキ其契約ヲ結ハサリシ時ニ非サレハ其義務ナシトシタル者ハ當時之ニ任ス可キ官吏無キカ故ニシ

テ且此事タル特ニ夫婦ノ利益ノミニ關係スルニ由ルナリ
 如何ナル事項ヲ公示セサル可ラサル乎。契約書ノ全部若クハ其諸事
 項ヲ悉皆公示スルニ非ス是レ法律討議ノ際斯ク決定セシ所ナリ何ト
 ナレハ則チ世人チシテ一家内ノ事務ヲ知ラシムルハ或ハ不快ノ事タ
 ル可ク又偽リテ所有物ノ數額ヲ多クシテ公示スルヲ徃々有之ニ因リ
 他人ハ以テ欺ムカル、ト無キニ非サレハナリ故ニ其抜書ノミチ公示
 スルヲト決シ末項ニ方法ヲ結婚ノ制トノミ云フテ其意ヲ詳悉セリ若シ
 又他人尙ホ自余ノ事ヲ知ラント欲セハ契約ヲ取結フ前十分ニ事實ノ
 細密ヲ尋問スルヲ得可シ
 婚姻契約書ヲ公示スル人及ヒ其期日 其人ハ契約書ヲ受取リシ公証
 人ニシテ(第六十八號)公証人ハ其日附ヨリ一ヶ月以内ニ第六十七號之
 チ公示スルモノトス

婚姻契約書公示ノ法式 此法式ハ即チ訴訟法典第八百七十二條ニ記
 載シタル所ニシテ其契約ハ左ノ如ク四ヶ所ニ公示ス可シ

- 第一 商人住所ノ民事裁判所ニ公示ス婦商人タルモ夫ノ住所ノ
 裁判所ニ公示ス是レ婦ハ夫ノ家ニ住居スレハナリ 反說バルドツ
 シユ一第九十
 五号アローゼ第六
 百四十三号參看
- 第二 商事裁判所ニ公示ス若シ其地ニ商事裁判所無キハ住所ノ
 邑ノ公堂ニ揭示ス
- 第三 使吏ノ詰所ニ公示ス
- 第四 公証人ノ役所ニ公示ス

第三第四ノ場合ニ公示スルハ同邑内ニ其設ケアル時ノミニ限ルヘシ
 又此揭示ハ一年間存シ置クヲ要ス(訴訟法典第八百七十二條參看)
 (第四百十四號) 規則ニ背キシ時ノ罰則 公証人其責ニ任ス

其拔書ヲ差出ス可ク若シ此規則ニ背クハ百フランノ罰金ニ處セラレ又夫婦中ノ者ト密ニ謀テ其罪ヲ犯シタルノ証アルハ其職ヲ罷メラレ且其債主ニ對シテ損失ノ償ヲ爲ス可シ

○刑事 故ニ其懈怠ヨリ出テシ場合ニ於テモ百フランノ罰金ニ處セラル可ク又其夫婦中ノ者ト共ニ謀リシキハ之ニ加フルニ罷職ノ罰ヲ以テス

○民事 其夫婦中ノ者ト密ニ謀リタル時ニ限り債主ノミニ對シテ責アルモトス故ニ債主ノ利益ノ爲メニ夫婦ノ取結ヒタル婚姻契約ヲ取消スコトナシ蓋シ若シ之ヲ取消スコトセハ債主ハ其公示無キニ付キ毫モ損害ヲ受ケサルヲ以テ償金ヲ要求スルコトヲ得ス
反說バルドツシ
アローセ第六百四十八號參看 ユー第九十三號

(論)夫婦モ亦債主ニ對シテ責ニ任ス可キ乎余輩ハ其婚姻契約書ヲ公示

セシメサリシコトノ單ニ懈怠ニ出テタルトハ其責ニ任セシム可ラスト答ヘシノミ何トナレハ此事ニ關セル確明ナル義務ヲ法律ニテ之ニ命シタル所無ケレハナリ又債主モ之ト契約ヲ結フノ前事實ヲ尋問シテ以テ婚姻ノ方法如何ヲ知悉スルヲ得ヘシ
反說千八百六十年十二月二十四日破毀判決シレ
判決

集第六十一卷第一部第九百八十三丁○アロー
然レモ詐僞ノ意ヲ以テ故ラニ等閑ニ附シタリシナラハ其責ニ任ス可シ蓋シ其責任タル此場合ニ在テハ公示無キニ基クニ非スシテ其債主ニ對シ爲シタル詐僞ノ

申告ニ根由ス可シ(民法典第千三百八十二條參看)又詐僞ノ場合ニ於テハ債主ヨリ婚姻契約ヲ取消サント要ムルコトヲ得サルモ其夫婦ノ者ト取結ヒタル契約ハ之ヲ取消サント要ムルコトヲ得可シ何トナレハ其契約ハ詭欺ノ瑕瑾アレハナリ(民法典第千百十六條參看)公証人若シ詐僞

ヲ爲スニ關與シタリシキハ債主ヨリ之ニ償金ヲ請求スルモ妨ケ無シ
何トナレハ債主契約ヲ取消サシメ其執行無キニ因リ損害ヲ受クルコ
アレハナリ

第二 婚姻セシ後商人トナル時

第六十九條 財產ヲ分チタル夫又ハ婦或ハ嫁資分括ノ法ニ循フタル
夫又ハ婦婚姻ヲ結ビシ後ニ商人トナルキハ其商業ヲ始メタル日ヨ
リ一月内ニ其婚姻契約書ノ拔書ヲ差出ス可シ若シ此規則ニ背キタ
ルキ後ニ破産スルトアルニ於ニハ解怠ノ倒産人タルノ言渡ヲ受ク
可シ

(第四百十五號) 婚姻ノ契約書ハ夫婦ヨリ之ヲ公示セサル可ラス何ト
ナレハ公証人タル者ハ其果シテ商人トナルヤ否ヤヲ知ルヲ得可ラサ
レハナリ若シ夫婦法律上ニテ財產ヲ共通スルカ或ハ契約上ニテ財產

ヲ共通スルキハ其婚姻契約書ヲ公示スルヲ要セス是レ第六十八條ニ
記シタル場合ト異ナリテ法典ノ王令ニ接近シタル所ナリ

規則ニ背キシ時ノ罰則

○刑事 刑罰ハ解怠倒産ノ處分トス(千八百三十八年五月二十八日ノ
法律以前ニ在リテハ詐偽倒産ナリキ)斯ル刑罰ニ處スルハ破産ノ場合
ノミニ限リ其他ノ場合ニ於テハ之ヲ用ヒサルモノトス蓋シ他ノ場合
ニ於テハ債主ハ婚姻契約書ノ公示無キカ爲メ損害ヲ受ケサル可キナ
リ

○民事 王令ニ據レハ總テ共通財產ノ事ニ牴觸ス可キ廉ハ取消ヲ爲
スノ制ナリシカ又今日ニ於テモ此事ニ係リテ明カニ廢止シタル王令
ナシト云フテ尙ホ舊法ヲ適用セント欲シタル者アリキ
第九十四號
アローゼ第六百 然レモ此事項タル實ニ千八百七年九月十五日ノ法律
四十九號參看

第二條ヲ以テ廢止シタリ從前ノ第六十九條ニ於テハ右取消ノ旨ヲ言
渡サ、ルキハ重刑ニ處ス可シトシタリシカ既ニ其刑ハ寛減ニセラレ
タリト雖モ立法者カ精神ハ尙ホ必ス存セリ又第六十八條ニ記シタル
事ト類似スル者アル見ル可シ
若シ又夫婦中ノ者詐偽ヲ爲セシキハ固ヨリ其罪ノ責ヲ負フヘキモノ
トス(第千三百八十三條參看)

而シテ他人ト取結ヒタル契約ハ詭欺チ原由トシテ取消ヲ要求セラレ
可シ(上文第百四十四號參看)然レモ夫婦中ノ者ニ於テ懈怠ナリシキハ
余輩ハ又之ニ責ヲ負ハシム可ラスト思考スルナリ蓋シ今論スル所ノ
場合ニ在テハ法律ニ於テ夫婦ニ自ラ婚姻契約書ヲ公示スルノ義務ヲ
命スルナリ然レモ此義務タル通法ノ義務ニ非サレハ千三百八十二條
ノ規則ノ及フ可キ所ニ非ス且夫レ第六十八條ニ於テハ民事上ノ責ノ

イチ載セタルヲ觀レハ立法者ハ民事ニ付テハ之ヲ思考シタリト雖モ
第六十九條ニ於テハ毫モ此類ノ責ノイチ載セサルナリ又他人モ己レ
カ利益上ニ關係スル所ノ點ニ付テ審カナラサルキハ之ヲ夫婦ニ尋問
シ其中告ヲ得テ自己ヲ保護スルヲ得可キナリ
反說千八百六十年十二月二十四日破毀判決シ

レ一判決集第六十一卷第一部第九百八十三丁〇ドマン
シヤ一第二篇第九十七丁アロ一七第六百四十五号參看

(第百四十六号) 一時遵行ス可キ箇條

第七十條 財產ヲ分チ或ハ嫁資分括ノ法ニ循フタル夫又ハ婦此商法
典布告ノ既ニ商業ヲ爲スニ於テハ其布告ヨリ一年內ニ同上ノ拔
書ヲ差出ス可シ若シ此規則ニ背クハ前條ニ記シタル言渡ヲ受ク
可シ

第二章 夫婦財產ヲ分別シタル旨ヲ公示スル事

(第百四十七号) 夫婦財產ヲ分別シタル旨ハ以後夫婦中ノ者ノ權利ハ